取　扱　書

よくお読みになってご使用ください。
取扱書は車の中に保管しましょう。

COMFORT

TABLE OF CONTENTS

目次

1	運転する前に	運転するまでに必要となる操作、ご注意が説明してあります。
2	運転するときに	走行、停止の方法や安全運転の方法が説明してあります。
3	室内装備の使い方	室内装備を快適にご使用いただくための説明がしてあります。
4	お手入れのしかた	お車のお手入れ、メンテナンスに関する方法が説明してあります。
5	トラブルが起きたら	故障やパンクしたときなど、万一のときの対処に関する説明がしてあります。
6	車両仕様	車の仕様に関する情報が記載してあります。
	さくいん	本書に記載されている情報を五十音順などの方法で探すことができます。

TABLE OF CONTENTS 目次

1 運転する前に

1-1. キーの取り扱い

キー 22

1-2. ドア・トランクの開閉のしかた、ロックのしかた

ドア（フロントドア、リヤドア）..... 23
トランク 26

1-3. シート、ハンドル、ミラーの調整のしかた

フロントシート........................... 29
ヘッドレスト（フロントシート）.................... 30
シートベルト............................... 32
ハンドル 37
インナーミラー........................... 38
アウターミラー........................... 39

1-4. ドアガラスの開け方、閉め方

パワーウインドウ....................... 41

1-5. 燃料補給のしかた

燃料補給口の開け方 44

1-6. 安全にお使いいただくために

正しい運転姿勢........................... 51
SRS エアバッグ......................... 53
子供専用シート........................... 58
チャイルドシートの取り付け.... 68

2 運転するときに

2-1. 運転のしかた

運転にあたって........................... 74
エンジン (イグニッション) スイッチ 85
Stop & Start システム（アイドルストップシステム）.. 92
オートマチックトランスミッション................. 97
マニュアルトランスミッション............. 100
方向指示レバー 102
パーキングブレーキ 103
ホーン (警音器)....................... 105

2-2. メーターの見方

計器類 106
表示灯／警告灯 110

2-3. ライトのつけ方・ワイパーの使い方

ライトスイッチ 113
フォグライトスイッチ 115
ワイパー & ウォッシャー 116

2-4. その他の走行装置の使い方

運転を補助する装置 118

2-5. 様々な状況での運転

荷物を積むときの注意 120
寒冷時の運転............................ 122

3 室内装備の使い方

3-1. エアコン・デフォッガーの使い方
マニュアルエアコン 128
リヤウインドウデフォッガー（曇り取り） 134

3-2. オーディオの使い方
オーディオの種類 135
ラジオの使い方 137
快適に聞くために 139

3-3. 室内灯のつけ方
室内灯一覧 140
・インテリアライト 141
・日報灯 142

3-4. 収納装備の使い方
収納装備一覧 143
・グローブボックス 144
・コンソールボックス 145
・助手席シートアンダートレイ 146

3-5. その他の室内装備の使い方
サンバイザー 147
バニティミラー 148
時計 149
灰皿 150
アクセサリーソケット 151
アームレスト 152
フロアマット 153
清掃用具入れ 154
サービスコネクター 155

4 お手入れのしかた

4-1. お手入れのしかた
外装の手入れ 158
内装の手入れ 161
タイヤについて 163

4-2. 簡単な点検・部品交換
ボンネット 166
ガレージジャッキ 169
電球（バルブ）の交換 171
ヒューズの点検、交換 183
ウォッシャー液の補給 190
エアコンフィルターの清掃、交換 191

5 トラブルが起きたら

5-1. まず初めに

故障したときは........................ 194
非常点滅灯................................ 196
発炎筒...................................... 197
けん引について........................ 199
イベントデータレコーダー..... 202

5-2. 緊急時の対処法

警告灯がついたときは............ 204
パンクしたときは.................... 210
エンジンが
かからないときは................. 220
シフトレバーがシフト
できないときは
(オートマチック車).............. 221
キーを無くしたときは............ 222
バッテリーがあがった
ときは.................................... 223
オーバーヒートしたときは..... 229
スタックしたときは................ 231
車両を緊急停止するには........ 233

6 車両仕様

6-1. 仕様一覧

メンテナンスデータ
(油脂類の容量と銘柄)......... 236

さくいん

略語一覧..................................... 246

五十音順さくいん...................... 247

症状別さくいん.......................... 255

外観

ボンネット P. 166
ヘッドライト P. 113
車幅灯 P. 113
ワイパー P. 116
アウターミラー P. 39
BTO00AB001
方向指示灯 P. 102
方向指示灯 P. 102
フォグライト* P. 115

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

室内

グローブボックス P. 144
ヘッドレスト P. 30
シートベルト P. 32
A
B
BTO00AB017
アームレスト* P. 152
パーキングブレーキ P. 103
シフトレバー P. 97, 100
フロントシート P. 29
発炎筒 P. 197

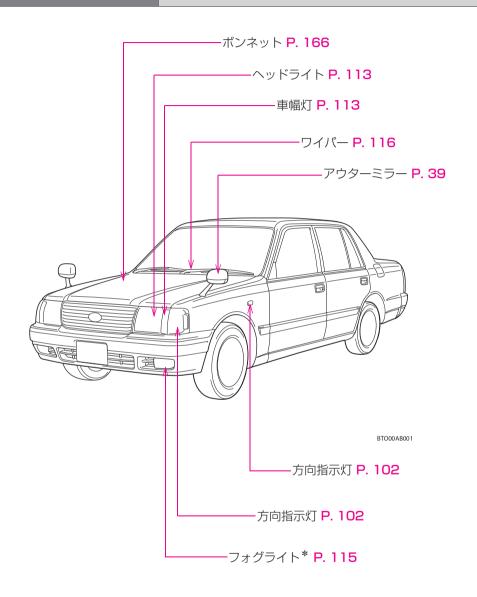
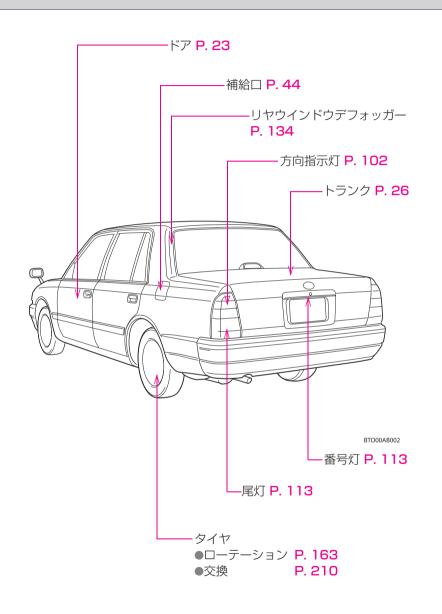
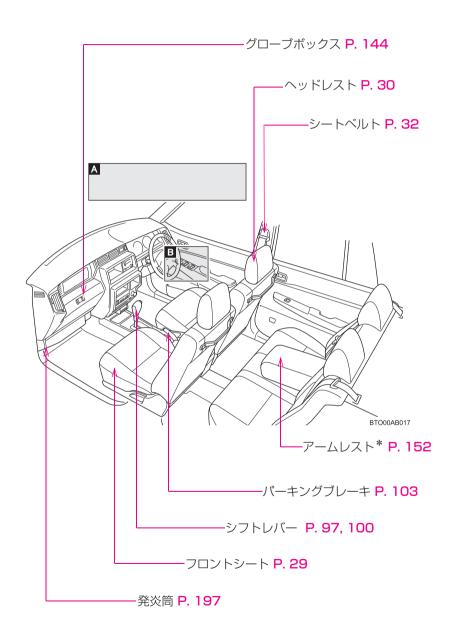
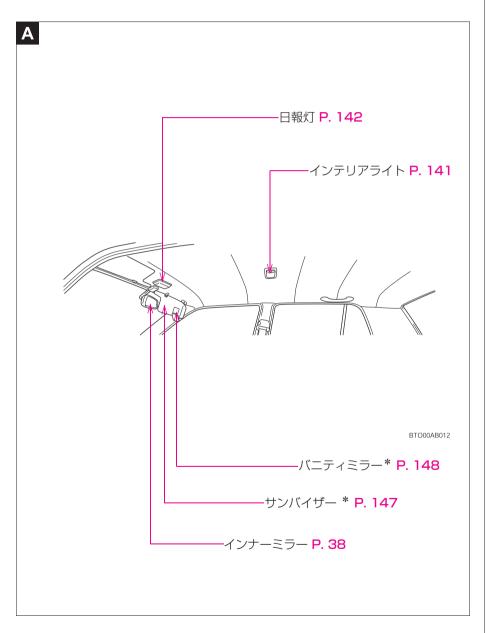
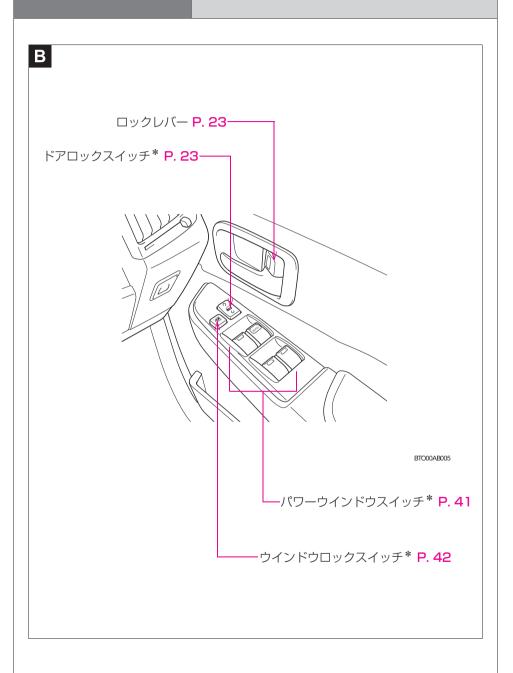
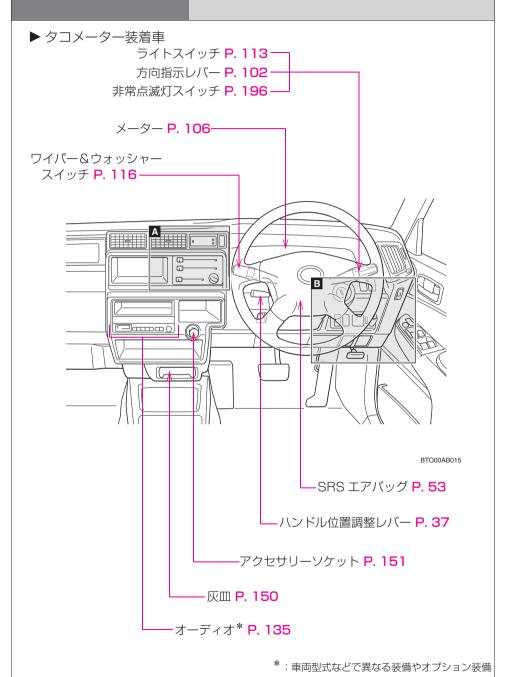
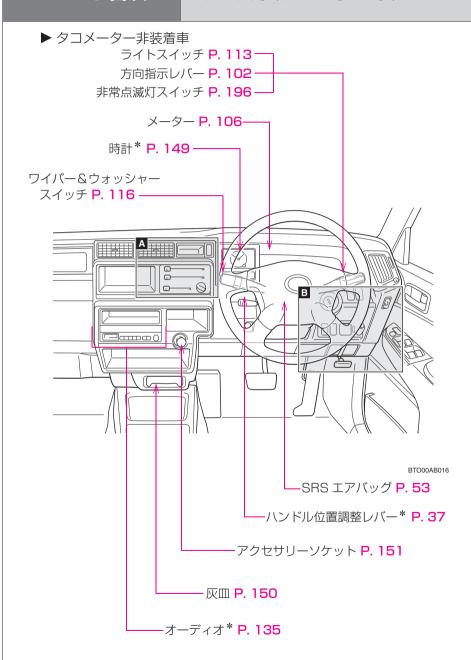
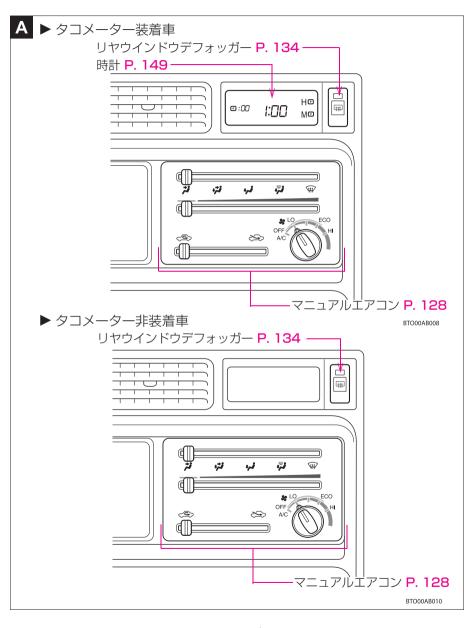
*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

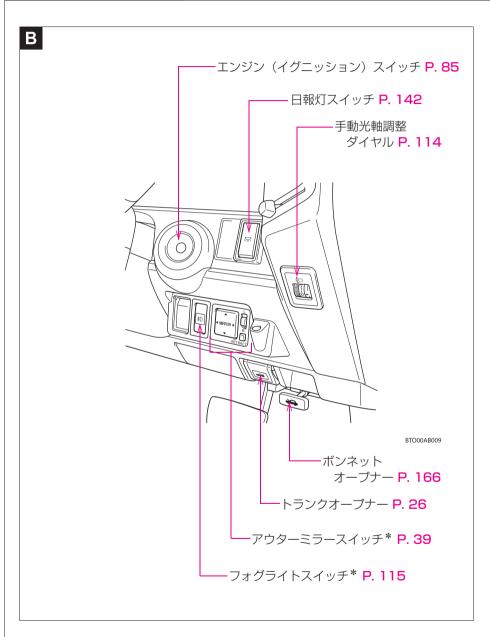
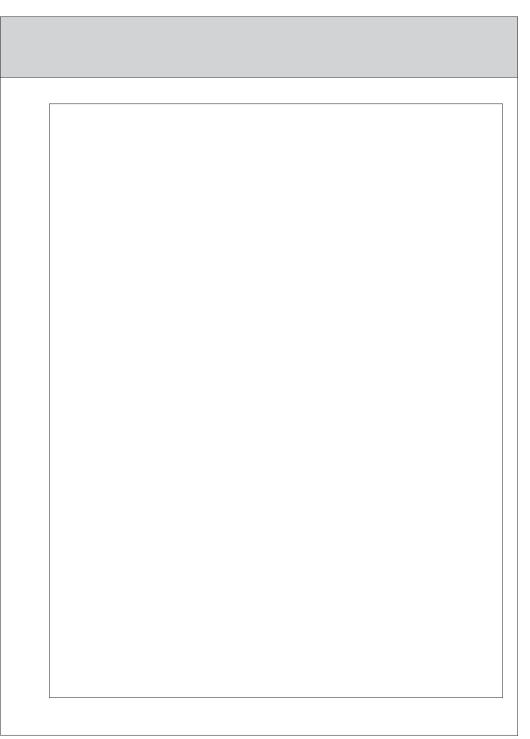
B
ロックレバー P. 23
ドアロックスイッチ* P. 23
AUTO
BTO00AB005
パワーウインドウスイッチ* P. 41
ウインドウロックスイッチ* P. 42

▶ タコメーター装着車

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

インストルメントパネル

▶ タコメーター非装着車

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

インストルメントパネル

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

知っておいていただきたいこと

本書の内容について

本書はオプションを含むすべての装備の説明をしています。
そのため、お客様のお車にはない装備の説明が記載されている場合があります。
また、車の仕様変更により、内容がお車と一致しない場合がありますのでご了承ください。

トヨタ販売店で取り付けられた装備（販売店オプション）の取り扱いについては、その商品に付属の取扱説明書をお読みください。

イラストは、記載している仕様などの違いにより、お客様のお車の装備と一致しない場合があります。

違法改造について

● トヨタが国土交通省に届け出をした部品以外のものを装着すると、違法改造になることがあります。

● 車高を下げたり、ワイドタイヤを装着するなど、車の性能や機能に適さない部品を装着すると、故障の原因になったり、事故を起こし、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

● ハンドルの改造は絶対にしないでください。ハンドルにはSRSエアバッグが内蔵されているため、不適切に扱うと、正常に作動しなくなったり、誤ってふくらみ、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

● 次の場合はトヨタ販売店にご相談ください。

・ タイヤ・ディスクホイール・ホイール取り付けナットの交換
異なった種類や指定以外のものを使用すると、走行に悪影響をおよぼしたり、違法改造になることがあります。

・ 電装品・無線機などの取り付け、取りはずし
電子機器部品に悪影響をおよぼしたり、故障や車両火災など事故につながるおそれがあり危険です。

● フロントガラス、および運転席・助手席のドアガラスに着色フィルム（含む透明フィルム）などを貼り付けないでください。視界をさまたげるばかりでなく、違法改造につながるおそれがあります。

運転についてのご注意

他の車や歩行者など、周囲の状況に常に注意を払い、安全運転を心がけてください。

酒気帯び運転は絶対しないでください。お酒を飲むと注意力と判断力がにぶり、思いがけない事故を引き起こすおそれがあります。また、眠気をもよおす薬を飲んだときも運転を控えてください。

運転中に携帯電話を使用したり、装置の調節などをしないでください。周囲の状況などへの注意が不十分になり、大変危険です。ハンズフリー以外の自動車電話や携帯電話を運転中に使用することは法律で禁止されています。

お子さまを乗せるときは

お子さまを車の中に残したままにしないでください。車内が高温になって熱射病や脱水症状になり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

また、お子さまが車内の装置を操作し、ドアガラスなどに挟まれたり、ライター、発炎筒などでやけどしたり、運転装置を動かして、思いがけない事故により最悪の場合死亡につながるおそれがあり危険です。

お車にお子さまを乗せる場合は、お子さまの安全を確保するための注意事項やチャイルドシートの取り付け方などをまとめた、「チャイルドシートの取り付け」（→P. 68）をお読みください。

車両データの記録について

お車には、車両の制御や操作に関するデータなどを記録するコンピューターが複数装備されており、主に次のようなデータを記録します。

・エンジン回転数
・アクセルの操作状況
・ブレーキの操作状況
・車速
・シフトポジション（マニュアルトランスミッション車を除く）

グレード・オプション装備により記録されるデータ項目は異なります。なお、コンピューターは会話などの音声や映像は記録しません。

● データの取り扱いについて

トヨタはコンピューターに記録されたデータを車両の故障診断・研究開発・品質の向上を目的に取得・利用することがあります。

なお、次の場合を除き、トヨタは取得したデータを第三者へ開示または提供することはありません。

・お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合
・警察・裁判所・政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
・統計的な処理を行う目的で、使用者や車両が特定されないように加工したデータを研究機関などに提供する場合

保証および点検について

保証および点検整備については、別冊「メンテナンスノート」に記載していますので、併せてお読みください。

日常点検整備や定期点検整備は、お客様の責任において実施してください。
(法律で義務付けられています)

本書の中の表示について

警告、注意、知識について

警告

ここに記載されていることをお守りいただかないと、生命の危険または、重大な傷害につながるおそれがあります。お客様自身と周囲の人々への危険を避けたり減少させたりするため必ずお読みください。

注意

ここに記載されていることをお守りいただかないと、お車や装備品の故障や破損につながるおそれや、正しい性能を確保できない場合があります。

知識

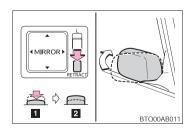
機能の説明や操作方法の説明以外で知っておいていただきたいこと、知っておくと便利なことを説明しています。

イラスト内の表示について

セーフティーシンボル

“してはいけません”“このようにしないでください”“このようなことを起こさないでください”という意味を表しています。

操作を示す矢印

スイッチなどの操作（押す、まわすなど）を示しています。

操作後の作動（フタが開くなど）を示しています。

運転する前に

1

1-1. キーの取り扱い

キー.. 22

1-2. ドア・トランクの開閉のしかた、ロックのしかた

ドア（フロントドア、リヤドア）.............................. 23

トランク.................................. 26

1-3. シート、ハンドル、ミラーの調整のしかた

フロントシート........................ 29

ヘッドレスト（フロントシート）................. 30

シートベルト............................ 32

ハンドル.................................. 37

インナーミラー........................ 38

アウターミラー........................ 39

1-4. ドアガラスの開け方、閉め方

パワーウインドウ.................... 41

1-5. 燃料補給のしかた

燃料補給口の開け方................. 44

1-6. 安全にお使いいただくために

正しい運転姿勢........................ 51

SRS エアバッグ...................... 53

子供専用シート........................ 58

チャイルドシートの取り付け................................ 68

キー

お客様へ次のキーをお渡しします。

1 マスターキー
2 スペアキー
3 キーナンバー

知識

■キーナンバー

キーナンバーを手帳などにひかえておいてください。万一キーを紛失した場合、トヨタ販売店でキーナンバーから新しいキーが作製できます。(→P. 222)

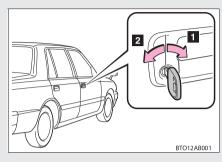
注意

■キーの曲がりなどを防ぐために

キーに衝撃を与えたり、直射日光のあたる高温な場所にさらしたり、ぬらしたりしないでください。

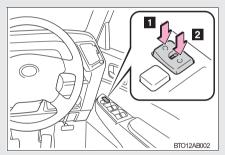
ドア（フロントドア、リヤドア）

キー、ドアロックスイッチを使って施錠・解錠できます。

■ キー

1 施錠

2 解錠

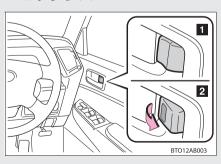
パワーウインドウ（４ドア）装着車は、すべてのドアが施錠・解錠されます。

■ ドアロックスイッチ*

1 全ドア施錠

2 全ドア解錠

■ ロックレバー

1 施錠

2 解錠

運転席ドアは、ロックレバーが施錠側になっていても、車内のドアレバーを引くと開けられます。

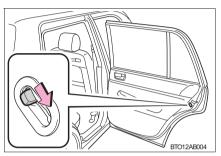
*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

キーを使わずに外側からフロント席ドアを施錠するときは

手順 1 ドアのロックレバーを施錠側にする

手順 2 ドアハンドルを引いたままドアを閉める

チャイルドプロテクター（リヤ右側ドア）

BTO12AB004

施錠側にすると、リヤ席右側ドアが内側から開かなくなります。

お子さまが内側からリヤ右側席ドアを開けないようにできます。

知識

■チャイルドプロテクター使用時のドアの開け方

ドアを解錠して車外のドアハンドルを引くと開きます。万一車内から開ける場合は、ドアガラスを下げて手を出し、車外のドアハンドルを引いてください。

警告

■事故を防ぐために

運転中は次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、思いもよらずドアが開き、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- シートベルトを必ず使用する
- すべてのドアを施錠する
- すべてのドアを確実に閉める
- 走行中はドア内側のドアハンドルを引かない
  ドアが開き車外に放り出されたりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
  特に、運転席はロックレバーが施錠側になっていてもドアが開くため、注意してください。
- お子さまをリヤ右側席に乗せるときは、チャイルドプロテクターを使用して車内からドアが開かないようにする

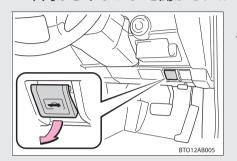
■ドアを開閉するときは

傾斜地、ドアと壁などのあいだが狭い場所、強風など、周囲の状況を確認し、予期せぬ動きにも対処できるよう、ドアハンドルを確実に保持してドアを開閉してください。

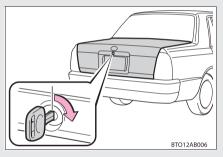
トランク

トランクオープナーやキーを使って開けることができます。

■ 車内からトランクを開けるには

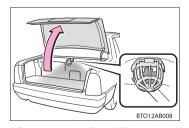
BTO12AB005

トランクオープナーを引いてトランクのロックを解錠する

■ 車外からトランクを開けるには

BTO12AB006

キーをまわしてトランクのロックを解除する

知識

■ トランクライト

BTO12AB008

トランクを開けたとき、トランクライトが点灯します。

■ バッテリーあがりを防ぐために

エンジン停止中はトランクを長時間開けたままにしないでください。

警告

■走行中の警告

●走行中はトランクを閉じてください。
開けたまま走行すると、トランクが車外のものにあたったり荷物が投げ出されたりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
また、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害や死亡につながるおそれがあり危険です。走行する前に必ずトランクが閉まっていることを確認してください。

●走行前にトランクが完全に閉まっていることを確認してください。トランクが完全に閉まっていないと、走行中にトランクが突然開き、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●トランク内には絶対に人を乗せないでください。急ブレーキ、急旋回をかけたときや衝突したときなどに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあり危険です。

■お子さまを乗せているときは

以下のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあり危険です。

●トランクの中でお子さまを遊ばせないでください。
誤って閉じ込められた場合、熱射病や窒息などを引き起こすおそれがあります。

●お子さまにはトランクの開閉操作をさせないでください。
不意にトランクリッドが作動したり、閉めるときに手、頭、首などを挟んだりするおそれがあります。

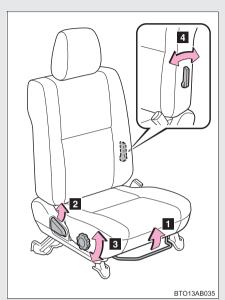
⚠警告

■トランクの使用にあたって

以下のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、体を挟むなどして重大な傷害につながるおそれがあり危険です。

- ●トランクを開ける前に、トランクリッド上の雪や氷などの重量物を取り除いてください。開いたあとに重みでトランクリッドが突然閉じるおそれがあります。
- ●トランクを開閉するときは、十分に周囲の安全を確かめてください。
- ●人がいるときは、安全を確認し動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。
- ●強風時の開閉には十分注意してください。
  トランクリッドが風にあおられ、勢いよく開いたり閉じたりするおそれがあります。

- ●半開状態で使用すると、トランクリッドが突然閉じて重大な傷害を受けるおそれがあります。特に傾斜地では、平坦な場所よりもトランクの開閉がしにくく、急にトランクが開いたり閉じたりするおそれがあります。必ずトランクが全開で静止していることを確認して使用してください。
- ●トランクを閉めるときは、トランクリッドで指などを挟まないよう十分注意してください。
- ●トランクは必ず外からトランクリッド上面を軽く押して閉めてください。
- ●トランクリッドにトヨタ純正品以外のアクセサリー用品を取り付けないでください。トランクリッドの重量が重くなると、開いたあとに突然閉じるおそれがあります。

フロントシート

1 前後位置調整
2 リクライニング調整
3 シート全体の上下調整（運転席のみ）
4 腰部硬さ調整（運転席のみ）

警告

■シート調整について

●シートが乗員や荷物にあたらないように注意してください。

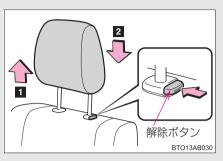
●背もたれは必要以上に倒さないでください。
事故のときに体がシートベルトの下にもぐり、腹部などに強い圧迫を受けるなど生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

●シート調整後はシートが確実に固定されていることを確認してください。

注意

■シート調整について

前後位置、リクライニング調整は、レバーを上限まで引いたままの状態で行ってください。途中の位置で調整すると、かみ合い部分が摩耗し故障の原因となります。

ヘッドレスト（フロントシート）

上下調整

1 上がる

2 下がる

下げるときは、解除ボタンを押しながら操作します。

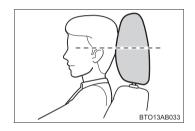
前後調整*

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

知識

■ヘッドレストを取りはずすときは

解除ボタンを押しながら取りはずします。

■ヘッドレストの高さについて

必ずヘッドレストの中心が両耳のいちばん上のあたりになるよう調整してください。

警告

■ヘッドレストについて

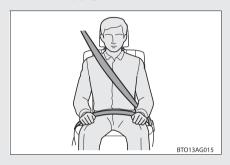
次のことをお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ヘッドレストは、それぞれのシート専用のものを使用する
- ヘッドレストを正しい位置に調整する
- ヘッドレスト調整後は、ヘッドレストを押し込んで確実に固定されていることを確認する
- ヘッドレストをはずしたまま走行しない

シートベルト

すべての乗員は、走行前に必ずシートベルトを正しく着用してください。

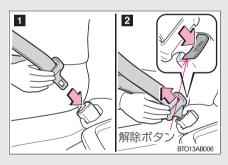
■ 正しく着用するには

BTO13AG015

- 肩部ベルトを肩に十分かける

  首にかかったり、肩からはずれないようにしてください。

- 腰部ベルトを必ず腰骨のできるだけ低い位置に密着させる
- 背もたれを調整し（フロント席のみ）、上体を起こし、深く腰かけて座る
- ねじれが無いようにする

■ 着け方、はずし方

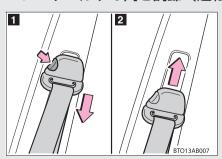
BTO13AB006

1 固定

“カチッ”と音がするまで挿し込みます。

2 解除

解除ボタンを押します。

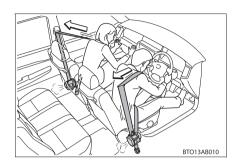
■ シートベルトの高さ調節（運転席）

BTO13AB007

1 下げる

2 上げる

“カチッ”と音がして固定されるところまで動かしてください。

シートベルトプリテンショナー（フロント席）

BTO13AB010

前方から強い衝突を受けたとき、シートベルトを引き込むことで適切な乗員拘束効果の確保に貢献します。

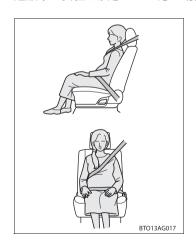
前方からの衝撃が弱いときや、横やうしろからの衝撃のときは作動しない場合があります。

知識

■緊急時シートベルト固定機構

急停止や衝撃があったときベルトがロックされます。急に体を前に倒したり、ベルトをすばやく引き出してもロックする場合があります。一度ベルトを強く引いてからゆるめ、ゆっくり動かせば、ベルトを引き出すことができます。

■妊娠中の女性や疾患のある方の場合

BTO13AG017

医師に注意事項を確認の上、必ず正しく着用してください。（→P. 32）
妊娠中の方も、通常の着用のしかたと同じように、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置にかかるようにお腹のふくらみの下に着用してください。また、肩部ベルトは確実に肩を通し、お腹のふくらみを避けて胸部にかかるように着用してください。

ベルトを正しく着用していないと、衝突したときなどに、母体だけでなく胎児までが重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

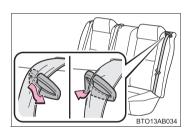
■お子さまのシートベルトの使い方

車のシートベルトは、シートベルトを装着するのに十分な、大人の体格を持った人用に設計されています。

- シートベルトが正しい位置で着用できない小さなお子さまの場合は、お子さまの体に合ったチャイルドシートを使用してください。(→P. 58)
- シートベルトが正しい位置で着用できるお子さまの場合は、シートベルトの着用のしかたに従ってください。(→P. 32)

■シートベルトプリテンショナーについて

シートベルトプリテンショナーは一度しか作動しません。玉突き衝突などで連続して衝撃を受けた場合でも、一度作動したあとは、そのあとの衝突では作動しません。

■リヤシートベルト

シートベルトがガイドからはずれている場合は、ガイドに通して使用してください。

警告

急ブレーキや事故の際のけがを避けるため、以下のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■シートベルトの着用について

●車に乗るときは全員がシートベルトを着用する

●シートベルトを正しく着用する

●シートベルトはひとつにつき一人で使用する
お子さまでもひとつのベルトを複数の人で使用しない

●お子さまはリヤシートに座らせてシートベルトを着用させるか、チャイルドシートを使用する

●シートは必要以上に倒さない
上体を起こし、シートに深く座る

●肩部ベルトを腕の下に通して着用しない

●腰部ベルトはできるだけ低い位置に密着させ着用する

■お子さまを乗せるときは

お子さまをシートベルトで遊ばせないでください。万一ベルトが首に巻き付いた場合、窒息など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
誤ってそのような状態になってしまい、バックルもはずせない場合は、ハサミなどでシートベルトを切断してください。

警告

■シートベルトの損傷・故障について

●ベルトやプレート、バックルなどは、シートやドアに挟むなどして損傷しないようにしてください。

●シートベルトが損傷したときは、シートベルトを修理するまでシートは使用しないでください。

●プレートがバックルに確実に挿し込まれているか、シートベルトがねじれていないかを確認してください。うまく挿し込めない場合は、ただちにトヨタ販売店に連絡してください。

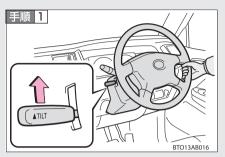
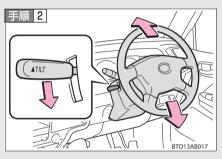
●もし重大な事故にあったときは、明らかな損傷が見られない場合でも、シート、シートベルトを交換してください。

●プリテンショナー付きシートベルトの取り付け、取りはずし、分解、廃棄などは、トヨタ販売店以外でしないでください。
不適切に扱うと、正常に作動しなくなり、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■プリテンショナー付きシートベルトについて

シートベルトプリテンショナーが作動すると SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯が点灯します。その場合はシートベルトを再使用することができないため、必ずトヨタ販売店で交換してください。

ハンドル

ハンドル位置を運転しやすいように調整できます。＊

ハンドルを持ち、レバーを上げる。

レバーを上げたまま、ハンドルを上下に動かし、適切な位置にする

位置が決定したら、レバーから手を離し、ハンドルを固定してください。

警告

■走行中の警告

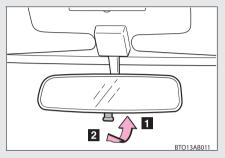
走行中はハンドル位置の調整をしないでください。
運転を誤り、死亡や重大な傷害につながるような事故になるおそれがあります。

■ハンドル位置を調整したあとは

ハンドルが確実に固定されていることを確認してください。
固定が不十分だとハンドルの位置が突然かわり、死亡や重大な傷害につながるような事故になるおそれがあります。

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

インナーミラー

後続車のライトがまぶしいときは、レバーを操作して反射光を減少（防眩）できます。

1 通常使用時

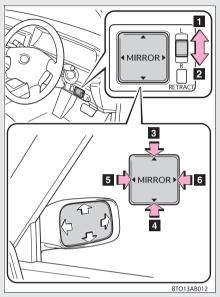
2 防眩時

警告

■運転中の警告

運転中はミラーの調整をしないでください。
運転を誤って、重大な傷害や死亡につながるおそれがあります。

アウターミラー

スイッチで鏡面の角度を調整できます。*

ミラーを選ぶ

1 左

2 右

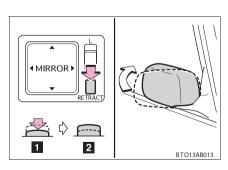
スイッチを操作してミラーの鏡面を調整する

3 上

4 下

5 左

6 右

※図はドアミラーで説明しています。

ドアミラーを格納するときは*

スイッチを押して、ドアミラーを格納する

もう一度押すと、もとの位置にもどります。

1 格納状態

2 復帰状態

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

知識

■作動条件

エンジン スイッチが“ ACC ”または“ ON ”のとき

■ミラーが曇ったときは（ミラーヒーター装着車）

ミラーヒーターを作動させて、曇りを取ることができます。（→P. 134）

警告

■走行しているときは

走行中は次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、運転を誤り思わぬ事故の原因になって重大な傷害や死亡につながるおそれがあります。

- ミラーの調整をしない
- ミラーを格納したまま走らない（ドアミラー装着車）
  必ず走行前に運転席側および助手席側のミラーを復帰して、正しく調整する

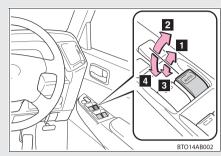
■ミラーが動いているときは

手をふれないでください。
手を挟んでけがをしたり、ミラーの故障の原因になるおそれがあります。

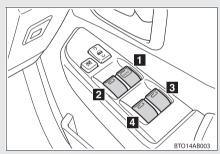
■ミラーヒーターが作動しているときは（ミラーヒーター装着車）

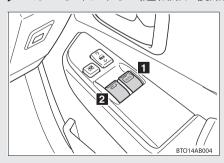
鏡面が熱くなるのでふれないでください。

パワーウインドウ*

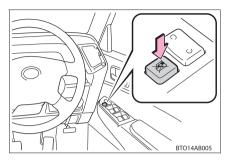
スイッチでドアガラスを開閉できます。

1 閉める
2 自動全閉 (運転席のみ) ※
3 開ける
4 自動全開 (運転席のみ) ※

※途中で停止するときは、スイッチを反対側へ操作します。

▶ パワーウインドウ（4 ドア）装着車

1 運転席ドアガラススイッチ
2 助手席ドアガラススイッチ
3 後席右側ドアガラススイッチ
4 後席左側ドアガラススイッチ

▶ パワーウインドウ（運転席、後席左）装着車

1 運転席ドアガラススイッチ
2 後席左側ドアガラススイッチ

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

ウインドウロックスイッチ

スイッチを押すと、運転席以外のドアガラスが作動不可になります。

お子さまが誤ってドアガラスを開閉することを防止できます。

知識

■作動条件

エンジン スイッチが " ON " のとき

警告

■ドアガラスを開閉するときは

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ドアガラスを開閉するときは、乗員の手、腕、頭、首などを挟んだり巻き込んだりしないようにしてください。特にお子さまへは手などを出さないように声かけをしてください。
- お子さまには、ドアガラスの操作をさせないでください。
  ドアガラスに挟まれたり巻き込まれたりして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 注意

■ドアガラスを開閉するときは

次のことをお守りください。

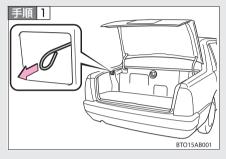
- 運転席スイッチと他のドアのスイッチを同時に逆方向に動かさない
- ドアガラスの全開、全閉後に同じ方向にスイッチを押し続けない

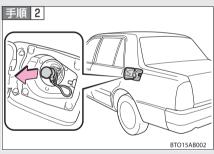
燃料補給口の開け方

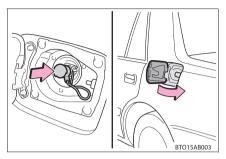
次の手順で補給口を開けてください。

■ 補給（充てん）する前に

ドアと窓を閉め、エンジン スイッチを“ LOCK ”にしてください。

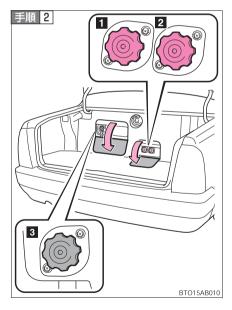
■ 補給口の開け方

補給口のフタを開ける

トランク内左側のレバーを引きます。

補給口のビニールキャップをはずす

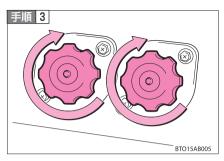
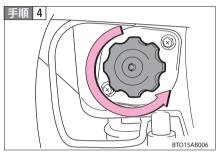
補給口を閉めるときは

補給口にビニールキャップを付けて、補給口のフタを閉める

燃料を補給するときは

手順 1 補給口を開ける（→P. 44）

手順 2 カバーをはずす

1 燃料取り出しバルブ（メインバルブ）

2 燃料取り出しバルブ（リターンバルブ）

3 燃料充てんバルブ

燃料取り出しバルブ（メインバルブ、リターンバルブ）を右にいっぱいまでまわして締める

燃料充てんバルブを左にいっぱいまでまわして開く

手順 5 LP オートガス充てんガンを確実にセットし注入する

手順 6 燃料充てんバルブを右いっぱいまでまわして締める

手順 7 メインバルブ、リターンバルブをゆっくりと左にいっぱいまでまわして開く

手順 8 LP オートガス充てんガンをはずし、補給口を閉める（→P. 45）

知識

LPG 燃料冷却システムの操作方法 - 燃料冷却システム装着車

LPG 燃料冷却システムは、エンジンから燃料タンクにもどる燃料を冷却しタンク内燃料温度の上昇を抑制することで、タンク内圧の上昇を抑制します。これにより、オートガススタンドでの燃料補給（充てん）をしやすくします。燃料冷却にはエアコンの冷媒を利用しており、エアコンが作動しているときに燃料冷却システムが作動します。

■**操作方法**

エアコンを作動 * させることで燃料冷却システムを作動させます。
基本的に常時エアコンを作動させてご使用ください。ただし、春秋期などエアコンが必要ない季節は、燃料補給（充てん）前にエアコンを作動させることで補給（充てん）できるタンク内圧まで低下させることもできます。また冬期はプロパン率の条件によってはエアコンを作動させなくても補給（充てん）できます。

燃料のプロパン率	夏期 30% 以上、 冬期 70%以上	夏期 30% 未満、 冬期 70%未満
夏期 （気温 25 ℃以上）	常時エアコンを作動させる必要があります。	
春・秋期 （気温 10 ～ 25 ℃）	燃料補給（充てん）前にエアコンを作動させておいてください。 エアコン作動後、およそ 3 時間以内に補給（充てん）できるようになります。	燃料補給（充てん）前にエアコンを作動させておいてください。 エアコン作動後、およそ 2 時間以内に補給（充てん）できるようになります。
冬期 （気温 10 ℃以下）	燃料の冷却能力が低下するため、常時エアコンを作動させる必要があります。	エアコンを作動させなくても補給（充てん）できます。

* エアコンの作動方法
ファン調整ダイヤルは OFF 以外の位置にし、エアコン調整ダイヤルを右いっぱいまでまわしてください。ファン調整ダイヤル、およびヒーター調整レバーはお好みの室内温度になるように調節できます。
エアコン調整ダイヤルを右いっぱいまでまわさないと燃料が十分に冷却されず、補給（充てん）しにくくなる可能性があります。

■補給（充てん）できるスタンドの条件

▶燃料冷却システム装着車

ポンプ加圧力が 0.4MPa 以上のスタンドで補給（充てん）できます。補給（充てん）の際は、スタンドにご確認ください。
なお、差圧式簡易 LPG スタンドでの補給（充てん）には対応していません。

▶燃料冷却システム非装着車

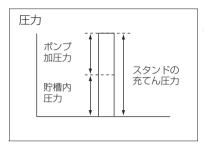
燃料のプロパン率が夏期 30%以下、冬期 70%以下、かつポンプ加圧力が 0.7MPa 以上のスタンドでのみ補給（充てん）できます。
補給（充てん）の際は、スタンドにご確認ください。
なお、差圧式簡易 LPG スタンドでの補給（充てん）には対応していません。

		燃料冷却システム装着車		燃料冷却システム非装着車	
スタンドの条件		プロパン率			
		夏期 30%以下かつ冬期 70%以下	左記以外	夏期 30%以下かつ冬期 70%以下	左記以外
ポンプ加圧力	0.7MPa 以上	○	○	○	×
	0.4MPa 以上 0.7MPa 未満	○	○	×	×
	0.4MPa 未満	×	×	×	×

○：対応
×：非対応

■プロパン率とは

LPG 燃料中に含まれるプロパン成分の割合をプロパン率といいます。

■ポンプ加圧力とは

オートガススタンドの補給（充てん）装置のポンプ加圧力のことです。

■燃料タンク容量 (参考値)

94 L

保安基準により、タンク容量の 85%が最大補給（充てん）量となります。

■燃料の補給（充てん）について

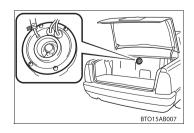
燃料が少なくなる前に、早めに補給（充てん）してください。

■燃料タンクの所有者表示について

LP オートガスは「高圧ガス保安法」の適用を受けますので、車両の所有者とタンクの所有者が異なる場合は、タンクには所有者表示が義務付けられています。

■燃料タンクの検査について

ＬＰ オートガスは「高圧ガス保安法」の適用を受けますので、タンクおよびバルブには定期的な検査が義務付けられています。詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

■燃料計について

燃料計はトランク内にあります。
外周の数字がタンク内の燃料容量を%表示で表します。
燃料計はメーター内にもあります。
（→P. 106）

警告

■補給（充てん）について

●LP オートガス補給（充てん）は、LPG スタンドの係員におまかせください。また LP オートガス補給（充てん）時は、スタンド指定の場所以外で火気を取り扱わないでください。引火するおそれがあり危険です。

●指定燃料は LP オートガスです。指定以外の燃料を補給（充てん）しないでください。

注意

■補給（充てん）するときは

車両に入っている燃料のプロパン率と、スタンドの燃料のプロパン率が異なると補給（充てん）しにくくなることがあります。例えば、プロパン率 100%の燃料が入っている車両に、プロパン率 30%の燃料を補給（充てん）しようとすると、P. 48 の条件内でも補給（充てん）できないことがあります。
いつも同じスタンド（同じプロパン率）で補給（充てん）することをお勧めします。

正しい運転姿勢

次の条件にあった正しい姿勢で運転してください。

1 まっすぐ座り、背もたれから背を離さない（→P. 29）
2 シートをペダルが十分に踏み込めるような位置にする（→P. 29）
3 各装置が操作しやすい背もたれの角度にする（→P. 29）
4 SRSエアバッグが自分の胸の方へ向くようなハンドルの位置にする（→P. 37）
5 ヘッドレストの中央を耳の後方にする（→P. 30）
6 シートベルトが正しく着用できる（→P. 32）

⚠警告

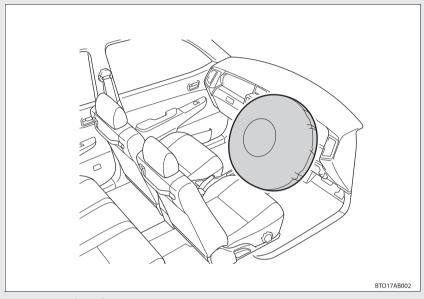
■走行中は

- ●走行中は運転席の調整をしないでください。
  運転を誤るおそれがあります。
- ●背もたれと背のあいだにクッションなどを入れないでください。
  正しい運転姿勢がとれないばかりか、衝突したとき、シートベルトやヘッドレストなどの効果が十分に発揮されないおそれがあり危険です。
- ●フロントシートの下（シートアンダートレイ内を除く）にものを置かないでください。
  ものが挟まるとシートが固定されず、思わぬ事故の原因になり、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。また、調整機構の故障の原因になります。

■シートを調整するときは

- ●同乗者がシートにあたってけがをしないように注意してください。
- ●シートの下や動いている部分に手を近付けないでください。
  指や手を挟み、けがをするおそれがあり危険です。

SRS エアバッグ

SRS エアバッグは乗員に重大な危害がおよぶような強い衝撃を受けたときにふくらみ、シートベルトが体を拘束する働きと併せて乗員への衝撃を緩和させます。

SRS エアバッグ
（運転者の頭や胸などへの衝撃を緩和）

知識

■SRS エアバッグが展開すると

●SRS エアバッグとの接触により、打撲やすり傷などを受けることがあります。

●作動音と共に白いガスが発生します。

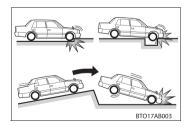
●エアバッグモジュールの各部品（ハンドルのハブ、エアバッグカバー、インフレーター）は数分間熱くなることがあります。エアバッグそのものも熱くなります。

■SRS エアバッグが作動するとき

●SRS エアバッグは、衝撃の強さが設定値（移動も変形もしない固定された壁に、約 20 ～ 30 km/h の速度で正面衝突した場合の衝撃の強さに相当する値）以上の場合に作動します。
ただし、駐車している車や標識のような衝撃によって移動や変形するものに衝突した場合や、もぐり込むような衝突（例えば、車両前部がもぐり込む、下に入り込む、トラックの下敷きになるなど）の場合は、展開車速は設定値より高くなります。

●衝突条件によってはシートベルトプリテンショナーのみ作動する場合があります。

■衝突以外で作動するとき

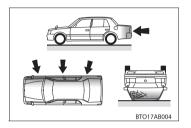
次のような状況で、車両下部に強い衝撃を受けたときも、作動する場合があります。

●縁石や歩道の端など、固いものにぶつかったとき

●深い穴や溝に落ちたり、乗り越えたとき

●ジャンプして地面にぶつかったり、道路から落下したとき

■SRS エアバッグが作動しないとき

SRS エアバッグは、側面や後方からの衝撃、横転、または低速での前方からの衝撃で作動するようには設計されていません。ただし、それらの衝撃が前方への減速を十分に引き起こす場合には、SRS エアバッグが作動することがあります。

BTO17AB004

●側面からの衝突

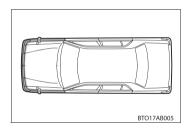
●後方からの衝突

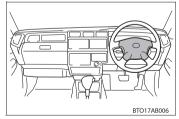
●横転

■トヨタ販売店に連絡が必要な場合

次のような場合には、できるだけ早くトヨタ販売店へご連絡ください。

●SRS エアバッグがふくらんだとき

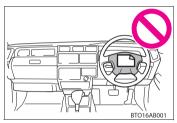
BTO17AB005

●SRS エアバッグはふくらまなかったが、事故で車両の前部を衝突したとき、または破損・変形などがあるとき

BTO17AB006

●ハンドルのパッド部分が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき

警告

■SRS エアバッグについて

必ず次のことをお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ●運転者と乗員すべてがシートベルトを正しく着用してください。
  SRS エアバッグはシートベルトを補助するためのものです。

- ●ステアリングパッド部などには何も取り付けたり、置いたりしない

- ●ドアやフロントガラスなどには何も取り付けない

- ●SRS エアバッグシステム構成部品の周辺は、強くたたくなど過度の力を加えないでください。
  SRS エアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあります。
- ●SRS エアバッグがふくらんだ直後は、構成部品が熱くなっているためふれないでください。
- ●SRS エアバッグがふくらんだあとに、もし呼吸が苦しく感じたら、ドアやドアガラスを開けて空気を入れるか、安全を確認して車外に出てください。
  皮膚の炎症を防ぐため、残留物はできるだけ早く洗い流してください。
- ●SRS エアバッグが収納されているパッド部に傷が付いていたり、ひび割れがあるときはそのまま使用せず、トヨタ販売店で交換してください。

警告

■**改造・廃棄について**

トヨタ販売店への相談なしに、次の改造・廃棄をしないでください。
SRS エアバッグが正常に作動しなくなったり、誤ってふくらむなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ●SRS エアバッグの取りはずし・取り付け・分解・修理
- ●ハンドル、インストルメントパネル、ダッシュボード周辺の不適切な修理、取りはずし、改造
- ●フロントフェンダー、フロントバンパー、車両客室側面部の不適切な修理、改造
- ●グリルガード（ブルバー・カンガルーバーなど）、除雪装置、ウィンチなどの取り付け
- ●サスペンションの改造
- ●CD プレーヤー、無線機などの電化製品の取り付け

子供専用シート

子供専用シートの固定機構を使用して、子供専用シートを固定することができます。

知っておいていただきたいこと

- 車の仕様やお子さまの年齢・体格に合わせて、適切な子供専用シートをお選びください。
- 子供専用シートの取り付け方法および取りはずし方は、それぞれの子供専用シートに付属の取り扱い説明書をお読みください。
- この車は2006年10月1日施行の保安基準に適合したISOFIX対応チャイルドシート固定専用バーを標準装備しています。

子供専用シートの適合性一覧表について

■ 質量グループについて

ECE R44 ※の基準に適合する子供専用シートはお子さまの体重により次の5種類に分類されます。

グループ0　：10kgまで
グループ0^+　：13kgまで
グループⅠ　：9～18kg
グループⅡ　：15～25kg
グループⅢ　：22～36kg

この本では代表的な次の3種類の子供専用シートをシートベルトで固定する方法を紹介します。

※ ECE R44は、子供専用シートに関する国際法規です。

■ サイズ等級、固定具について

子供専用シートに表示される分類記号と、それにともなう取り付け器具の記号になります。

▶ベビーシート

BTO17AB030

ECE R44 基準のグループ 0、0^+ に相当

▶チャイルドシート

BTO17AB031

ECE R44 基準のグループ 0^+、I に相当

▶ジュニアシート

BTO17AB032

ECE R44 基準のグループII、III に相当

シート位置別子供専用シート適合性一覧表（シートベルトでの取り付け）

<table>
<tr><th rowspan="3">質量グループ</th><th colspan="3">着席位置（または他の場所）</th></tr>
<tr><th>フロントシート</th><th colspan="2">リヤシート</th></tr>
<tr><th>助手席</th><th>左右席</th><th>中央席</th></tr>
<tr><td>0
（10kg まで）</td><td>×</td><td>U</td><td>×</td></tr>
<tr><td>0+
（13kg まで）</td><td>×</td><td>U</td><td>×</td></tr>
<tr><td rowspan="2">Ⅰ
（9 ～ 18kg）</td><td>前向き UF</td><td rowspan="2">U</td><td rowspan="2">×</td></tr>
<tr><td>うしろ向き ×</td></tr>
<tr><td>Ⅱ
（15 ～ 25kg）</td><td>UF</td><td>U</td><td>×</td></tr>
<tr><td>Ⅲ
（22 ～ 36kg）</td><td>UF</td><td>U</td><td>×</td></tr>
</table>

● 上表に記入する文字の説明

U：この質量グループでの使用を許可された汎用（ユニバーサル）カテゴリーの子供専用シートに適しています。

UF：この質量グループでの使用を許可された汎用（ユニバーサル）カテゴリーの前向き子供専用シートに適しています。

×：子供専用シートを取り付けることはできません。

表に記載されていない子供専用シートを使用する場合は、子供専用シート製造業者または販売業者にご相談ください。

子供専用シートの装着に際しては子供専用シートの取り扱い説明書もご確認ください。

シート位置別子供専用シートの適合性一覧表（ISOFIX 対応トップテザーアンカーでの取り付け）

質量グループ	サイズ等級	固定具	車両 ISOFIX 位置
			リヤシート左右席
キャリコット	F	ISO/L1	×
	G	ISO/L2	×
0（10kg まで）	E	ISO/R1	IL1、IL2
0^+（13kg まで）	E	ISO/R1	IL1、IL2
	D	ISO/R2	IL2
	C	ISO/R3	IL2
Ⅰ（9 ～ 18kg）	D	ISO/R2	×
	C	ISO/R3	×
	B	ISO/F2	IUF、IL2
	B1	ISO/F2X	IUF、IL2
	A	ISO/F3	IUF、IL2
Ⅱ（15 ～ 25kg）		（1）	×
Ⅲ（22 ～ 36kg）		（1）	×

● 表に記入する文字の説明

（1）：サイズ等級表示（A から G）のない子供専用シートの各シート位置での ISOFIX 対応子供専用シート固定機構の取り扱いについては、子供専用シート製造業者または販売業者にご相談ください。

IUF：この質量グループでの使用を許可された汎用（ユニバーサル）カテゴリーの ISOFIX 対応の前向き子供専用シートに適しています。

IL1：この質量グループでの使用を許可された「トヨタ純正 NEO G-Child ISO baby」に適しています。

IL2：この質量グループでの使用を許可された「トヨタ純正 NEO G-Child ISO leg」に適しています。

×：ISOFIX 子供専用シートを取り付けることはできません。

表に記載されていない子供専用シートを使用する場合は、子供専用シート製造業者または販売業者にご相談ください。

子供専用シートの装着に際しては子供専用シートの取り扱い説明書もご確認ください。

ISOFIX 子供専用シートのリスト

質量グループ	サイズ等級	固定具	ISOFIX 子供専用シート	カテゴリー
0（10kg まで）	E	ISO/R1	トヨタ純正 NEO G-Child ISO baby	準汎用
	E	ISO/R1	トヨタ純正 NEO G-Child ISO leg	準汎用
0^{+}（13kg まで）	E	ISO/R1	トヨタ純正 NEO G-Child ISO baby	準汎用
	E	ISO/R1	トヨタ純正 NEO G-Child ISO leg	準汎用
	D	ISO/R2		
	C	ISO/R3		
I（9 ～ 18kg）	B	ISO/F2	トヨタ純正 NEO G-Child ISO leg	準汎用
	B1	ISO/F2X		
	A	ISO/F3		

知識

■ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーについて

この車に標準装備されている ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーは、ECE R44 に適合している子供専用シートの取り付け専用です。それ以外のものを使用することはできません。

■子供専用シートの選択、使用について

- お子さまに最適な子供専用シートについては、子供専用シート製造業者、または販売業者にご相談ください。
- お子さまが成長し、適切にシートベルトが着用できるようになるまでは、お子さまに合った子供専用シートを使用してください。
- 体が十分大きく、子供専用シートが不必要なお子さまは、リヤシートに乗せて車のシートベルトを使用してください。

■シートベルトで取り付けるタイプの子供専用シートの選択について

「シート位置別子供専用シート適合性一覧表」（→P. 60）を参照し、子供専用シートを取り付け可能な位置と、対応する子供専用シートの種類（記号）をご確認の上、適したものを選択してください。

■ECE R44 適合の ISOFIX 対応子供専用シートの選択について

「シート位置別子供専用シートの適合性一覧表」（→P. 61）を確認して、適切なシートを選択してください。

手順 1 お子さまの体重から、該当する「質量グループ」を確認する

（例 1）：体重が 12kg の場合、質量グループは「0^+」になります。

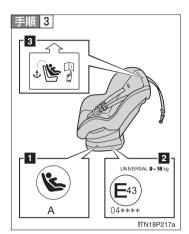
（例 2）：体重が 15kg の場合、質量グループは「Ⅰ」になります。

手順 2 サイズ等級を選択する

手順 1 で確認した「質量グループ」から該当するサイズ等級を確認します。※

（例 1）：質量グループが「0^+」の場合、サイズ等級は「C」・「D」・「E」が該当します。

（例 2）：質量グループが「Ⅰ」の場合、サイズ等級は「A」・「B」・「B1」・「C」・「D」が該当します。

※ ただし、該当のサイズ等級でも適合性一覧表の「車両 ISOFIX 位置」に「×」と記載されているものは選択できません。また、「IL」と記載されている場合は、「ISOFIX 子供専用シートのリスト」（→P. 62）で指定されている製品を使用してください。

子供専用シートに表示されているマーク／ラベルを確認して、基準に適合したシートであることを確認する

汎用（ユニバーサル）子供専用シートには、次に示すマーク・ラベル類が表示されています。※

※ 表示されている位置・記号などは、商品により異なります。

1 ISOFIX 対応子供専用シートであることを示す表示

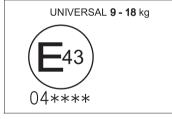
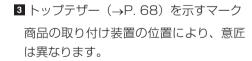
サイズ等級が示されています。（表示される文字は、製品により異なります）

手順 2 で確認したサイズ等級に適合しているものを選択してください。

2 汎用（ユニバーサル）子供専用シートの認可マーク

UNIVERSAL は汎用品の認可であることをあらわし、併せて、対象となるお子さまの体重の範囲が記載されています。

3 トップテザー（→P. 68）を示すマーク

商品の取り付け装置の位置により、意匠は異なります。

■ISOFIX 対応子供専用シートの種類（サイズ等級別）

A-ISO/F3	全高前向き幼児用チャイルドシート
B-ISO/F2	低型前向き幼児用チャイルドシート
B1-ISO/F2X	低型前向き幼児用チャイルドシート （B-ISO/F2 と別形状のもの）
C-ISO/R3	大型後向き幼児用チャイルドシート
D-ISO/R2	小型後向き幼児用チャイルドシート
E-ISO/R1	後向き乳児用チャイルドシート
F-ISO/L1	左向き位置用チャイルドシート（キャリコット）
G-ISO/L2	右向き位置用チャイルドシート（キャリコット）

■助手席に子供専用シートを取り付けるとき

●やむを得ず助手席に子供専用シートを取り付ける場合には、助手席シートを次のように調整し、子供専用シートを前向きに取り付けてください。

・ 背もたれを直立状態にする
・ シートをいちばんうしろに下げる

●子供専用シートの種類によっては、子供専用シート背面と助手席シート背もたれの間に隙間ができるものがあります。その場合、ヘッドレストを取りはずしてから子供専用シートを装着してください。

■キャリコットについて

キャリコットは横向きに取り付けることのできるベビーシートのことです。詳しくは子供専用シート製造業者または販売業者におたずねください。

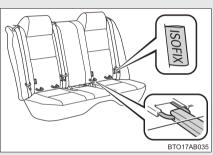
警告

■子供専用シートを使用しない場合

- 子供専用シートを使用しないときであっても、シートに適切にしっかりと取り付けた状態にしてください。ゆるめた状態で客室内に置くことは避けてください。
- 子供専用シートの取りはずしが必要な場合は、車両からはずして保管するか、トランク内に容易に動かないように収納してください。

チャイルドシートの取り付け

シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、チャイルドシートをお使いください。お子さまの安全のために、チャイルドシートはリヤ外側シートに取り付けてください。
取り付け方法は、必ず商品付属の取扱説明書に従ってください。

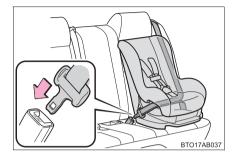
シートベルトによる取り付け
(→P. 69)

ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バー(→P. 70)

リヤ外側シートに装備されています。(固定専用バーが装備されていることを示すタグがシートに付いています)

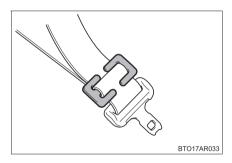
トップテザーアンカー
(→P. 70)

テザーベルトを固定するときに使います。
トップテザーアンカーはリヤシート後方のパッケージトレイに装備されています。

シートベルトで固定する

BTO17AB037

チャイルドシートにシートベルトを取り付け、プレートをバックルに“カチッ”と音がするまで挿し込む。ベルトがねじれていないようにする。

チャイルドシートに付属の取扱説明書に従い、シートベルトをチャイルドシートにしっかりと固定させてください。

BTO17AR033

チャイルドシートにシートベルトの固定装置が備わっていない場合は、ロッキングクリップ（別売）を使用してシートベルトにゆるみが生じないようにしっかりと固定する。

ロッキングクリップの購入にあたっては、トヨタ販売店にご相談ください。（ロッキングクリップ　品番：73119-22010）

取り付け後はチャイルドシートを前後左右にゆすり、しっかりと固定されていることを確認してください。

ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バー＆トップテザーアンカーで固定する

固定専用バーの位置を確認して、チャイルドシートをシートに取り付ける

固定専用バーは、シートクッションの奥にあります。

チャイルドシートの取り付け金具をチャイルドシート固定専用バーに取り付けます。
取り付け方法は、それぞれの商品付属の取扱説明書に従ってください。

トップテザーアンカーにフックを固定し、テザーベルトを締める

テザーベルトをピンと張り、フックがしっかり固定されていることを確認します。

取り付けたチャイルドシートを前後左右にゆすり、確実に取り付けられていることを確認する

⚠警告

■**チャイルドシートについて**

●事故や急停止の際、効果的に保護するために、必ずお子さまの年齢や体の大きさに合わせてシートベルトまたはチャイルドシートを使用してください。お子さまを腕の中に抱くのはチャイルドシートのかわりにはなりません。事故の際、お子さまがフロントガラスや乗員、室内の装備にぶつかるおそれがあります。

●お子さまの年齢や体の大きさに合ったチャイルドシートを使用してリヤシートに取り付けてください。

●チャイルドシートによっては、取り付けができない、または取り付けが困難な場合があります。必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法を守ってください。使用方法を誤ったり、確実に固定されていないと、急ブレーキや衝突時などに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■**チャイルドシートを取り付けるときは**

●お子さまをシートベルトで遊ばせないでください。万一ベルトが首に巻き付いた場合、窒息など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
誤ってそのような状態になってしまい、バックルもはずせない場合は、ハサミなどでシートベルトを切断してください。

●シートベルトとバックルが固定されていて、ベルトがねじれていないか確認してください。

●チャイルドシートを左右に動かして、しっかり固定されているか確認してください。

●運転席とチャイルドシートが干渉し、チャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、助手席側のリヤ席に取り付けてください。

●助手席とチャイルドシートが干渉しないように、助手席を調整してください。

⚠ 警告

■チャイルドシートを取り付けるときは

●ジュニアシートを使用している場合は、肩部ベルトが常にお子さまの肩の中心にくるようにしてください。ベルトを首から離すと共に肩から落ちないようにしてください。お守りいただかないと、事故や急ブレーキの際に重大な傷害や死亡につながるおそれがあり危険です。

●ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーを使用するときは、周辺に障害物がないか、シートベルトが挟まっていないかなどを確認してください。

⚠ 注意

■トップテザーアンカーについて

使用しないときはフタを確実に閉めてください。開けたままにしておくとフタが破損するおそれがあります。

運転するときに 2

2-1. 運転のしかた

運転にあたって 74
エンジン(イグニッション)
スイッチ 85
Stop & Start システム
(アイドルストップシステム)
.... 92
オートマチックトランス
ミッション 97
マニュアルトランス
ミッション 100
方向指示レバー 102
パーキングブレーキ............. 103
ホーン(警音器) 105

2-2. メーターの見方

計器類.................................... 106
表示灯/警告灯 110

2-3. ライトのつけ方・ワイパーの使い方

ライトスイッチ 113
フォグライトスイッチ.......... 115
ワイパー&ウォッシャー..... 116

2-4. その他の走行装置の使い方

運転を補助する装置............ 118

2-5. 様々な状況での運転

荷物を積むときの注意......... 120
寒冷時の運転........................ 122

運転にあたって

安全運転を心がけて、次の手順で走行してください。

■ エンジンをかける（→P. 85）

■ 発進する

▶ オートマチック車

手順 1 ブレーキペダルを踏んだまま、シフトレバーを D にする（→P. 97）

手順 2 パーキングブレーキを解除する（→P. 103）

手順 3 ブレーキペダルから徐々に足を離し、アクセルペダルをゆっくり踏み発進する

▶ マニュアル車

手順 1 クラッチペダルを踏んだまま、シフトレバーを 1 速にする。（→P. 100）

手順 2 パーキングブレーキを解除する。（→P. 103）

手順 3 クラッチペダルから徐々に足を離し、同時にアクセルペダルをゆっくり踏み発進する。

■ 停車する

▶ オートマチック車

手順 1 シフトレバーは D のまま、ブレーキペダルを踏む

手順 2 必要に応じて、パーキングブレーキをかける

長時間停車する場合は、シフトレバーを P または N にします。（→P. 97）

▶ マニュアル車

手順 1 クラッチペダルを踏んだまま、ブレーキペダルを踏む。

手順 2 必要に応じて、パーキングブレーキをかける。

長時間停車する場合は、シフトレバーを N にする。（→P. 100）

■駐車する

▶オートマチック車

手順 1 シフトレバーは D のまま、ブレーキペダルを踏む

手順 2 パーキングブレーキをかける (→P. 103)

手順 3 シフトレバーを P にする (→P. 97)

Stop & Start システムにより、エンジンが停止します。

坂道の途中で駐車をする場合は、必要に応じて輪止めを使用してください。

手順 4 エンジン スイッチを“ LOCK ”にする

手順 5 キーを携帯していることを確認し、ドアを施錠する

▶マニュアル車

手順 1 クラッチペダルを踏んだまま、ブレーキペダルを踏む

手順 2 パーキングブレーキをかける (→P. 103)

手順 3 シフトレバーを平地や下り坂では R、上り坂では 1 速 にする (→P. 100)

坂道の途中で駐車をする場合は、必要に応じて輪止めを使用してください。

手順 4 エンジン スイッチを“ LOCK ”にしてエンジンを停止する

手順 5 キーを携帯していることを確認し、ドアを施錠する

上り坂の発進のしかた

▶ オートマチック車

手順 1 ブレーキペダルを踏んだまま、パーキングブレーキをしっかりかけ、シフトレバーを D にする

手順 2 アクセルペダルをゆっくり踏む

手順 3 車が動き出す感触を確認したら、パーキングブレーキを解除し、発進する

▶ マニュアル車

手順 1 パーキングブレーキをしっかりかけ、シフトレバーを 1 速にする。

手順 2 アクセルペダルを軽く踏み、同時にクラッチペダルから除々に足を離す。

手順 3 車が動き出す感触を確認したら、パーキングブレーキを解除し発進する

知識

■雨の日の運転について

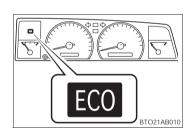
●雨の日は視界が悪くなり、またガラスが曇ったり、路面がすべりやすくなったりするので、慎重に走行してください。

●雨の降りはじめは路面がよりすべりやすいため、慎重に走行してください。

●雨の日の高速走行などでは、タイヤと路面のあいだに水膜が発生し、ハンドルやブレーキが効かなくなるおそれがあるので、スピードは控えめにしてください。

■運転標識の取り付け

磁石式の初心者運転標識や高齢者運転標識などを樹脂バンパーやアルミボデー部に取り付けることはできません。

■Stop & Start システム（オートマチック車）

Stop & Start システムはエンジン スイッチを操作することなくエンジンを停止・始動させるシステムです。Stop & Start システムによるエンジンの停止中、アイドルストップ表示灯が点灯します。（→P. 92）

警告

■発進するときは（オートマチック車）

ブレーキペダルをしっかり踏み込んだまま、シフトレバーを操作してください。また、エンジンがかかったままの停車中は常にブレーキペダルを踏み続けてください。クリープ現象で車が動き出すのを防ぎます。

警告

■運転するときは

●踏み間違いを避けるため、ブレーキペダルとアクセルペダルの位置を把握しない状態で運転しないでください。

・アクセルペダルをブレーキペダルと間違えて踏むと、車が急発進して思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
・後退するときは体をひねった状態となるため、ペダルの操作がしにくくなります。ペダル操作が確実にできるよう注意してください。
・車を少し移動させるときも正しい運転姿勢をとり、ブレーキペダルとアクセルペダルが確実に踏めるようにしてください。
・ブレーキペダルは右足で操作してください。左足でのブレーキ操作は緊急時の反応が遅れるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●燃えやすいものの上を走行したり、可燃物付近に車を停めたりしないでください。排気管や排気ガスは高温になり、可燃物が近くにあると火災になるおそれがあり危険です。

●オートマチック車では、シフトレバーを前進側のシフトポジションに入れたまま惰性で後退したり、R に入れたまま惰性で前進することは絶対にやめてください。
エンジンが停止し、ブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが重くなったりして、思わぬ事故や故障の原因になるおそれがあります。

●車内で排気ガス臭に気付いたら、ドアガラスを開け、トランクが閉まっていることを確認してください。多量の排気ガスが眠気を起こし事故の原因になる他、重大な健康障害や死亡に至るおそれがあり危険です。すみやかにトヨタ販売店で点検整備を受けてください。

●車両が動いているあいだは、シフトレバーを P に入れないでください。
トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。（オートマチック車）

●車両が前進しているあいだは、シフトレバーを R に入れないでください。
トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。

⚠ 警告

■運転するときは

●車両が後退しているあいだは、シフトレバーをＤ（オートマチック車）または１（マニュアル車）に入れないでください。
トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。

●走行中にシフトレバーをＮにすると、トランスミッションとエンジンの動力伝達が解除され、エンジンブレーキが効かなくなります。

●通常走行時は、走行中にエンジンを停止しないでください。走行中にエンジンを停止してもハンドルやブレーキの操作は可能ですが、操作力補助がなくなります。その場合はハンドルとブレーキの操作が困難になるため、安全を確認した上で、すみやかに道路脇に停車してください。
なお、通常の方法で車両を停止することができないような緊急時は、P. 233を参照してください。

●急な下り坂では、エンジンブレーキを使用してスピードを下げてください。フットブレーキを連続して使いすぎると、ブレーキが過熱して正常に機能しなくなります。（→P. 97, 100）

●坂道で止まるときは、前後に動き出して事故につながるのを防ぐため、ブレーキペダルやパーキングブレーキを使用してください。

●ハンドル、シート、アウターミラー、インナーミラーの調整をしないでください。
運転を誤り、思わぬ事故の原因になって重大な傷害や死亡のおそれがあり危険です。

●重大な傷害や死亡のおそれがあるので、すべての同乗者が頭や手、その他の体の一部を車から出さないようにしてください。

●オフロード走行をしないでください。
やむを得ずオフロードを走行するときは、慎重に運転してください。

●渡河などの水中走行はしないでください。
電装品のショートやエンジンの破損など、重大な車両故障の原因になるおそれがあります。

警告

■運転するときは

●シートの上や付近に荷物を置いて走行しないでください。
急ブレーキをかけたときや、旋回しているときなどに荷物が飛び出したりして乗員にあたったり、荷物を破損したり、荷物に気をとられたりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■すべりやすい路面を運転するときは

●急ブレーキ、急加速、急ハンドルはタイヤがスリップし、車両の制御ができなくなり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●シフトアップやシフトダウンによるエンジンブレーキなど、エンジン回転数の急な変化は、車が横すべりするなどして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●水たまり走行後はブレーキペダルを軽く踏んでブレーキが正常に働くことを確認してください。ブレーキパッドがぬれるとブレーキの効きが悪くなったり、ぬれていない片方だけが効いたりしてハンドルをとられ、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■シフトレバーを操作するときは

アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気を付けてください。
シフトレバーが P（オートマチック車）または N 以外にあると、車が急発進し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■停車するときは

●空ぶかしをしないでください。
シフトレバーが P（オートマチック車）または N 以外にあると、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●長時間エンジンをかけたままにしないでください。どうしても必要な場合は、開かれた場所に車を停め、排気ガスが車内に入ってこないことを確認してください。

●車が動き出すことによる事故を防ぐため、エンジン回転中は常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。（ オートマチック車のみ）

警告

■停車するときは

- 坂道で停車するときは、前後に動き出して事故につながるのを防ぐため、常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。
- 停車中に空ぶかしをしないでください。
  排気管が過熱し、可燃物が近くにあると火災につながるおそれがあり危険です。

■駐車するときは

- 炎天下では、メガネ、スプレー缶や炭酸飲料の缶などを車内に放置しないでください。放置したままでいると、次のようなことが起こるおそれがあり危険です。
  - ・スプレー缶からガスがもれたり、出火する
  - ・プラスチックレンズ・プラスチック素材のメガネが、変形またはひび割れを起こす
  - ・炭酸飲料の缶が破裂して車内をよごしたり、電気部品がショートする原因になる
- ライターを車内に放置したままにしないでください。ライターをグローブボックスなどに入れておいたり、車内に落としたままにしておくと、荷物を押し込んだりシートを動かしたときにライターの操作部が誤作動し、火災につながるおそれがあり危険です。
- ウインドウガラスなどには吸盤を貼り付けないでください。また、インストルメントパネルやダッシュボードの上に芳香剤などの容器を置かないでください。
  吸盤や容器がレンズの働きをして、車両火災につながるおそれがあり危険です。
- シルバー色などの金属蒸着フィルムを曲面ガラスに貼った場合は、ドアやウインドウを開けたまま放置しないでください。直射日光が曲面ガラスの内側に反射し、レンズの働きをして火災につながるおそれがあり危険です。
- 車から離れるときは、必ずパーキングブレーキをかけ、シフトレバーをオートマチック車は P、マニュアル車は平地や下り坂では R、上り坂では 1 速にしてエンジンを停止し施錠してください。
  エンジンがかかっているあいだは、車から離れないでください。

⚠ 警告

■駐車するときは

●エンジン回転中または停止直後は排気管にふれないでください。
やけどをするおそれがあります。

●降雪時や雪が積もった場所では、エンジンをかけたままにしないでください。
まわりに積もった雪で排気ガスが滞留して車内に入り、重大な健康障害や死亡に至るおそれがあり危険です。

■排気ガスについて

排気ガスには無色・無臭で有害な一酸化炭素（CO）が含まれているため、排気ガスを吸い込むと重大な健康障害や死亡に至るおそれがあり危険です。

●換気が悪い場所では、エンジンを停止してください。
特に車庫内など囲まれた場所では排気ガスが充満し、重大な健康障害や死亡に至るおそれがあり危険です。

●排気管はときどき点検してください。排気管などの腐食などによる穴や亀裂、および継ぎ手部の損傷、また、排気音の異常などに気付いた場合は必ずトヨタ販売店で点検整備を受けてください。そのまま使用すると排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害や死亡に至るおそれがあり危険です。

■仮眠するときは

必ずエンジンを停止してください。
エンジンをかけたまま仮眠すると、無意識にシフトレバーを動かしたり、アクセルペダルを踏み込んだりして、事故やエンジンの異常過熱による火災が発生するおそれがあります。さらに、風通しの悪い場所に停めると、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害や死亡に至るおそれがあり危険です。

■ブレーキをかけるときは

●万一エンジンの停止などによりブレーキ倍力装置が機能しないときは、他の車に近付いたりしないでください。また、下り坂や急カーブを避けてください。この場合ブレーキは作動しますが、通常よりも強く踏む必要があります。また制動距離も長くなります。

●万一エンジンが停止したときは、ブレーキペダルを繰り返し踏まないでください。ペダルを踏むたびに、ブレーキのアシスト力の蓄えを使い切ってしまいます。

警告

■ブレーキをかけるときは

●ブレーキシステムは二つの独立したシステムで構成されており、一方の油圧システムが故障しても、もう一方は作動します。この場合、ブレーキペダルを通常より強く踏む必要があり、制動距離が長くなります。一方のブレーキシステムしか作動していない状態で走行しないでください。ただちにブレーキの修理を受けてください。

■万一脱輪したときは

いずれかのタイヤが宙に浮いてるときは、むやみに空転させないでください。駆動系部品の損傷や車両の飛び出しに思わぬ事故につながるおそれがあります。

注意

■運転中は

●運転中にアクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏まないでください。アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏むと、駆動力を抑制する場合があります。

●オートマチック車では、坂道で停車するために、アクセルペダルを使ったり、アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏んだりしないでください。

●マニュアル車では、クラッチの損傷を防ぐためクラッチペダルに足を乗せたまま走行しないでください。

■駐車するときは（オートマチック車）

必ずシフトレバーを P にしてください。P にしておかないと、車が動き出したり、誤ってアクセルペダルを踏み込んだときに急発進するおそれがあります。

■部品の損傷を防ぐために

●パワーステアリングポンプの損傷を防ぐため、ハンドルをいっぱいにまわした状態を長く続けないでください。

●ディスクホイールなどの損傷を防ぐため、段差などを通過するときは、できるだけゆっくり走行してください。

⚠注意

■きしみやひっかき音が聞こえたら（ブレーキパッドウェアインジケーター）

できるだけ早くトヨタ販売店で点検を受け、ブレーキパッドを交換してください。必要なときにパッドの交換が行われないと、ローターの損傷につながる場合があります。

ブレーキパッドやディスクローターなどの部品は、役割を果たすと共に摩耗していきます。摩耗の限界をこえて走行すると故障を引き起こすばかりでなく、事故につながるおそれがあります。

■走行中にタイヤがパンクしたら

次のようなときはタイヤのパンクや損傷が考えられます。ハンドルをしっかり持って徐々にブレーキをかけ、スピードを落としてください。

- ハンドルがとられる
- 異常な振動がある
- 車両が異常に傾く

タイヤがパンクした場合は、タイヤを交換してください。（→P. 210）

■冠水路走行に関する注意

大雨などで冠水した道路では、次のような重大な損傷を与えるおそれがあるため、走行しないでください。

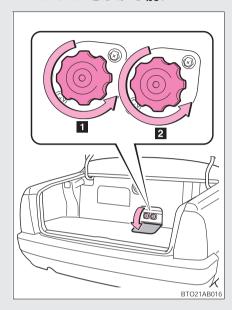
- エンストする
- 電装品がショートする
- 水を吸い込んでのエンジン破損

万一、冠水した道路を走行し、水中に浸かってしまったときは必ずトヨタ販売店で次の点検をしてください。

- ブレーキの効き具合
- エンジン、トランスミッション、ディファレンシャルなどのオイルやフルードの量および質の変化
- プロペラシャフト、各ベアリング、各ジョイント部などの潤滑不良

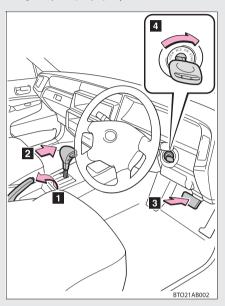
エンジン（イグニッション）スイッチ

■ エンジンをかける前に

BTO21AB016

手順 1 燃料取り出しバルブのカバーをはずす（→P. 45）

手順 2 メインバルブ（1）、リターンバルブ（2）をゆっくりと左にいっぱいまでまわして開く

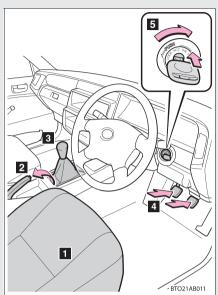
■ エンジンのかけ方

▶オートマチック車

1 パーキングブレーキがかかっていることを確認する

2 シフトレバーがＰの位置にあることを確認する

3 ブレーキペダルをしっかり踏む

4 エンジンスイッチを“ ON ”の位置までまわし、LPG 表示灯が点灯（点滅）後消灯したら“ START ”の位置にまわす

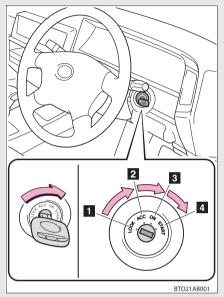
▶ マニュアル車

1 正しい運転姿勢（→P. 51）がとれるようにシートの位置を調整し、ペダルの各位置を確認する

2 パーキングブレーキがかかっていることを確認する

3 シフトレバーがNの位置にあることを確認する

4 クラッチペダルとブレーキペダルをしっかり踏む

5 エンジンスイッチを“ ON ”の位置までまわし、LPG 表示灯が点灯（点滅）後消灯したら“ START ” の位置にまわす

■ エンジン スイッチの位置

1 " LOCK "（OFF）

・ステアリングロックがかかります。
・キーを抜き挿しすることがあります。（オートマチック車は、シフトレバーの位置が P のとき、キーを抜き挿しできます。）

2 " ACC "

オーディオなどの電装品が使用できます。

3 " ON "

すべての電装品が使用できます。

4 " START "

エンジンが始動できます。

■ エンジンがかからないときは

燃料過流防止弁が作動していることがあります。次のことを行ってください。

手順 1 燃料取り出しバルブのカバーをはずす（→P. 45）

手順 2 左側のメインバルブを右にいっぱいまでまわして締めてから、再度メインバルブを左に 1/3 ～ 1/2 まわす

右側のリターンバルブは開けたままにしておいてください。

手順 3 エンジンを始動する

エンジンが始動したら、左側のメインバルブを左にいっぱいまでまわして開けます。

エンジンが始動しない場合の対処法は P. 220 を参照してください。

知識

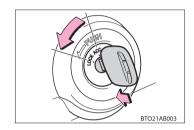
■キーを“ ACC ”から“ LOCK ”にまわすには

▶オートマチック車

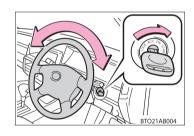
手順 1 シフトレバーが P の位置にあることを確認する

手順 2 キーを“ LOCK ”までまわす

▶マニュアル車

BTO21AB003

キーを押し込みながら“ LOCK ”までまわす

■ステアリングロックを解除するには

BTO21AB004

ハンドルを左右に動かしながら、キーをまわしてください。

■キー抜き忘れ警告ブザー

キーが挿してあり、エンジン スイッチが“ ACC ”または“ LOCK ”のとき、運転席ドアを開けると警告音が鳴ります。

■エンジン始動時、エンジン スイッチを“ ON ”にして、LPG 表示灯が点滅したときは

→P. 207

■走行中、LPG 表示灯が点滅したときは（燃料冷却システム装着車）

→P. 132，208

⚠ 警告

■エンジンを始動するときは

必ず運転席に座って行ってください。このとき決してアクセルペダルは踏まないでください。思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■走行中の警告

- 走行中はエンジンを停止しないでください。エンジンが停止すると思わぬ事故につながり重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- マニュアル車は、キーを“ LOCK ”の位置にするとキーが抜けることがあります。キーが抜けるとハンドルがロックされハンドル操作ができなくなり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

注意

■バッテリーあがりを防ぐために

エンジンがかかっていないときは、エンジン スイッチを“ ACC ”または“ ON ”にしたまま長時間放置しないでください。

■エンジンを始動するとき

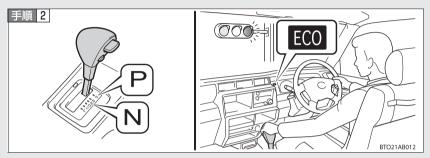
- 一度に 30 秒以上スターターをまわさないでください。
- エンジンが冷えた状態で空ぶかししないでください。
- もしエンジンが始動しにくかったり、ひんぱんにエンストする場合は、ただちにエンジンの点検を受けてください。

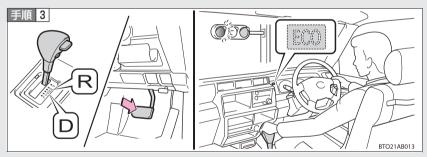
■走行中、LPG 表示灯が点滅したときは（燃料冷却システム非装着車）

→P. 208

Stop & Start システム（アイドルストップシステム）＊

赤信号や交通渋滞で車両が停止中、燃費向上やアイドリング騒音低下のため、エンジン スイッチを操作することなく、エンジンを停止・始動させるシステムです。

手順 1 車両を完全に停止させる

シフトレバーを P または N にする

エンジンが停止し、アイドルストップ表示灯が点灯します。

ブレーキペダルを踏み込んだまま、シフトレバーを D または R にする

エンジンが始動し、アイドルストップ表示灯が消灯します。

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

知識

■作動条件

次の条件がすべて満たされたとき、Stop ＆ Start システムが作動可能状態になります。

●エンジンが十分暖まっているとき

●バッテリー状態が良好であるとき

●いったん走行したあと

●方向指示灯、または非常点滅灯が点滅していないとき

●運転席ドア、またはボンネットが閉まっているとき

●ブレーキブースター負圧が十分に高いとき

●エアコン調整ダイヤルが ECO の範囲にあるとき

・エアコン調整ダイヤルの位置が ECO より右の位置でも、エバポレータ（熱交換器）作動後の温度が約 13 ℃以下のとき

次のとき、Stop ＆ Start システムによるエンジン停止を行わない場合があります。しばらく走行を行ってください。

●エンジン始動直後のため、エンジンが十分に暖まっていないとき

●バッテリーが放電状態にあるとき

●エンジン冷却水温が80℃をこえたあと、最初のアイドル時間が約10秒に満たないとき

●エンジン スイッチを“ OFF ”から“ ON ”にしたあと、約 180 秒に満たないとき

●Stop ＆ Start システムによるエンジン始動のあと、消費した電力を回復しているとき（約 8 ～ 180 秒）

■アイドルストップ時間表示

→P. 107，108，109

■Stop & Start システムが作動しているときは

Stop & Start システム作動中、次のような状態になることがありますが、異常ではありません。

- ●エンジン停止中、ハンドル操作が重くなる
- ●エンジン停止中、オートドアの開閉が出来ない（オートドア装着車）
- ●エンジン停止中、インストルメントパネル助手席側から“シュー”という音がする（燃料冷却システム装着車）
- ●エンジン始動時、オーディオが瞬間的に途切れる

■Stop & Start システムにより エンジンを停止するときのシフトレバーの位置

- ●P で停止したときは、ブレーキペダルを踏まないでいると、エアコンのファン、リヤウインドウデフォッガーを停止し、バッテリーの放電量の増加を抑制します。
- ●N で連続して停止することはできません。エンジンを再び始動させたあと、N の位置で停止を行うには、シフトレバーを D にし、しばらくのあいだ走行する必要があります。

■Stop & Start システムの解除

Stop & Start システムによるエンジン停止中、次のときはエンジンが自動的に始動し、アイドルストップ表示灯が点滅し、ブザーが鳴ります。

- ●ブレーキブースターの負圧が著しく低下したとき
- ●傾斜などで車両が動き出したとき
- ●ポンピングブレーキをしたり、ブレーキペダルをさらに強く踏み込んだりしたとき

■Stop & Start システムによるエンジンの自動始動

Stop & Start システムによるエンジン停止を約 220 秒以上継続した場合、自動的にエンジンが始動します。そのあと、約 180 秒は Stop & Start システムによるエンジン停止を行うことはできません。

■アイドルストップ表示灯が点滅したままのときは

システムの異常、またはスターターなどの交換時期が考えられますので、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■警告音と警告灯について

Stop & Start システムによるエンジン停止中、表示灯・警告灯および警告ブザーが次のようになったときは、それぞれの対処方法に従ってください。

症状	原因	対処方法
ECO などが点灯し、警告ブザーが鳴った	運転席ドア、またはボンネットを開けた	運転席ドアおよびボンネットを確実に閉じ、エンジン スイッチでエンジンを始動させる
ECOが点滅し、警告ブザーが鳴った	ブレーキペダルを踏み込む前にシフトレバーを操作した	シフトレバーをＰまたはＮにしてから、手順 3 を操作する (→P. 92) ※1
	バッテリー容量が低下した	手順 3 を操作する (→P. 92) ※2
	外気温、燃料状態によりエンジンの始動性の悪化が予想された	手順 3 を操作する (→P. 92) ※2

※1　車両が動き出した場合には、ブレーキペダルの操作に関係なくエンジンが始動します。

※2　エンジン スイッチを操作してエンジンを始動させることもできます。

■Stop & Start システムによるエンジン停止ができないときは

次の原因が考えられます。内容を確認のうえ処置を行ってください。次の対処方法に従ってもエンジンが停止しないときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

状態	対処方法
暑いときにエアコンを強冷にした	エアコン調整ダイヤルをECOの範囲であることを確認したあと、エバポレータ（熱交換器）の温度が下がるまで、そのまましばらく走行を続ける
エンジンがオーバーヒートしている	オーバーヒートしたときは →P. 229
方向指示灯･非常点滅灯を点滅させたまま車両を停止した	方向指示灯･非常点滅灯を消灯して、シフトレバーを D または R にしてから、P にする
エンジン回転中、運転席ドアまたはボンネットを開けた	運転席ドアおよびボンネットを閉める
ボンネットを開けたままエンジン スイッチによるエンジンの始動を行った	ボンネットを閉め、いったんエンジンを停止した状態でエンジンを始動する

■Stop & Start システムの補助電源について

Stop & Start システムでのエンジン始動時に、アイドルストップ時間や配車ナビゲーションシステムのモニターがリセットされた場合、補助電源の故障が考えられます。トヨタ販売店で点検を受けてください。

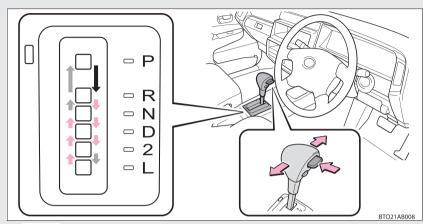
警告

■坂道で停車しているときは

傾斜によって車両が動き出すと、エンジンが自動的に始動するため、アクセルペダルから足を離し、急発進に注意してください。思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

オートマチックトランスミッション*

状況に応じてシフトポジションをお選びください。

■ シフトレバーの動かし方

（黒矢印）エンジン スイッチが“ON”のときで、ブレーキペダルを踏み、シフトレバーボタンを押したまま操作します。

（灰色矢印）シフトレバーボタンを押したまま操作します。

P と D のあいだの操作は、ブレーキペダルを踏み、車を完全に停めてから行ってください。

■ シフトポジションの使用目的

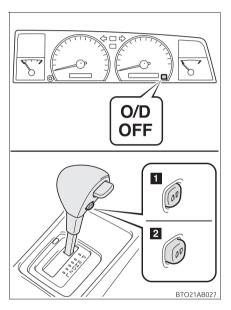
シフトポジション	目的
P	駐車またはエンジン始動
R	後退
N	動力が伝わらない状態
D	通常走行※
2	坂道走行
L	急な下り坂走行

※ 燃費向上や騒音の低減のために、通常は D を使用してください。

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

オーバードライブ（O/D）スイッチ

スイッチをONにしておくとギヤが4速まで入り、燃費性能や静粛性を高めます。

OFFにすると4速にはいらなくなり、下り坂での軽いエンジンブレーキや登り坂での不要な変速を防ぐ効果があります。

1 ON

2 OFF

OFFのときオーバードライブOFF表示灯が点灯します。

各シフトの速度限界

エンジンを過回転させないために各シフト位置での速度が以下に記載してある数値をこえないようにしてください。

（km/h）

シフト位置	最高速度
L	50
2	106

知識

■リバース警告ブザー

シフトレバーを R に入れるとブザーが鳴り、R にあることを運転者に知らせます。

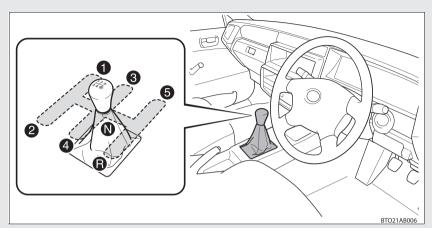
■シフトレバーを P からシフトできないときは

→P. 221

⚠ 警告

■すべりやすい路面では

急なアクセル操作や、エンジンブレーキ力の急激な変化が横すべりやスピンの原因になりますので注意してください。

マニュアルトランスミッション*

クラッチペダルをしっかり踏みシフトレバーをゆっくり操作します。

誤操作を防ぐため、5 から R へは直接入れることができません。
いったん N に入れてから R にいれます。

各シフトの速度限界

エンジンを過回転させないために各シフト位置での速度が以下に記載している数値をこえないようにしてください。

(km/h)

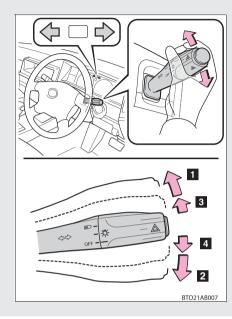
シフト位置	最高速度
1	35
2	65
3	100
4	135

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

警告

■すべりやすい路面では

急なアクセル操作や、エンジンブレーキ力の急激な変化が横すべりやスピンの原因になりますので注意してください。

方向指示レバー

1 左折

2 右折

3 左側へ車線変更
（レバーを途中で保持）

レバーを離すまで左側方向指示灯が点滅します。

4 右側へ車線変更
（レバーを途中で保持）

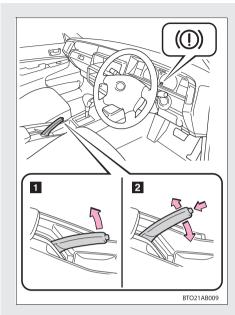
レバーを離すまで右側方向指示灯が点滅します。

知識

■作動条件

エンジン スイッチが“ ON ”のとき

■表示灯の点滅が異常に速くなったときは

方向指示灯の電球が切れていないか確認してください。

パーキングブレーキ

1 パーキングブレーキをかける

ブレーキペダルを踏みながら、パーキングブレーキレバーをいっぱいまで引きます。

2 パーキングブレーキを解除する

レバーを少し引き上げ、ボタンを押しながら完全に下までもどします。

知識

■パーキングブレーキ未解除走行時警告ブザー

→P. 204

■冬季のパーキングブレーキの使用について

「寒冷時の運転」(→P. 122)の記載を参照してください。

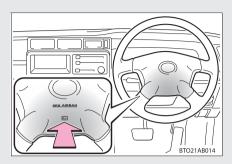
注意

■駐車するときは

車から離れるときは、必ずパーキングブレーキをかけ、シフトレバーをオートマチック車はP、マニュアル車は平地や下り坂ではR、上り坂では1速にして、車が動かないことを確認してください。

■走行前の注意

パーキングブレーキを完全に解除してください。
パーキングブレーキをかけたまま走行すると、ブレーキ部品が過熱し、ブレーキの効きが悪くなったり、早く摩耗したりするおそれがあります。

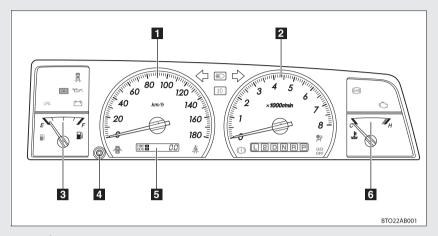
ホーン（警音器）

ハンドルの [ホーンマーク] 周辺部を押すとホーンがなります。

知識

■ハンドル位置を調整したあとは（チルトステアリング装着車）

ハンドルが確実に固定されていることを確認してください。
固定が不十分だとホーンが鳴らない場合があります。（→P. 37）

計器類

▶ タコメーター装着車

1 スピードメーター

車両の走行速度を示します。

2 タコメーター

毎分のエンジン回転数を示します。

3 燃料計

燃料残量を示します。

4 表示切りかえボタン

オドメーター／トリップメーター／アイドルストップ時間（オートマチック車）の切りかえができます。

- トリップメーター表示中に押し続けると、走行距離が 0 にもどります。
- アイドルストップ時間表示中に押し続けると、アイドルストップ時間が 0 にもどります。

5 オドメーター／トリップメーター／アイドルストップ時間（オートマチック車）

● オドメーター

走行した総距離を表示します。

● トリップメーター

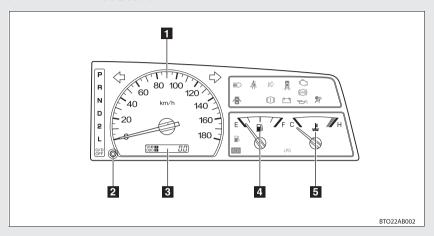
リセットしてからの走行距離を表示します。
区間距離は、トリップＡ、トリップＢの２種類で使い分けることができます。

● アイドルストップ時間

Stop & Start システムによってエンジンを停止した時間を表示します。

6 水温計

エンジン冷却水の温度を示します。

▶ タコメーター非装着車

1 スピードメーター

車両の走行速度を示します。

2 表示切りかえボタン

オドメーター／トリップメーター／アイドルストップ時間（オートマチック車）表示の切りかえができます。

- トリップメーター表示中に押し続けると、走行距離が 0 にもどります。
- アイドルストップ時間表示中に押し続けると、アイドルストップ時間が 0 にもどります。

3 オドメーター／トリップメーター／アイドルストップ時間（オートマチック車）

● オドメーター

走行した総距離を表示します。

● トリップメーター

リセットしてからの走行距離を表示します。
区間距離は、トリップ A、トリップ B の 2 種類で使い分けることができます。

● アイドルストップ時間

Stop & Start システムによってエンジンを停止した時間を表示します。

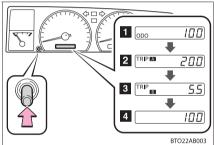
4 燃料計

燃料残量を示します。

5 水温計

エンジン冷却水の温度を示します。

表示切りかえボタン

ボタンを押すごとに次のように切り替わります。

1 オドメーター

2 トリップメーターA※

3 トリップメーターB※

4 アイドルストップ時間（オートマチック車）※

※　押し続けると0にもどります。

注意

■エンジンや構成部品への損傷を防ぐために

- タコメーターの針がレッドゾーン（エンジンの許容回転数を超えている範囲）に入らないようにしてください。（タコメーター装着車）
- 水温計の針がHのレッドゾーンに入ったときは、オーバーヒートのおそれがあるので、ただちに安全な場所に停車してください。（→P. 229）

2
運転するときに

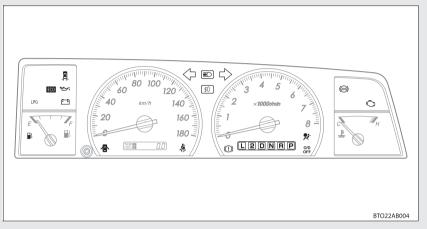
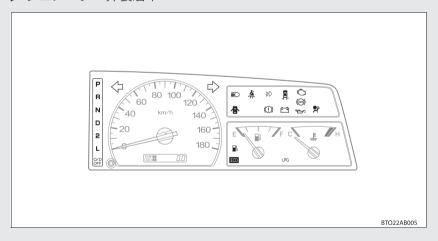
表示灯／警告灯

メーター内の表示灯・警告灯でお車の状況をお知らせします。

▶ タコメーター装着車

BTO22AB004

▶ タコメーター非装着車

BTO22AB005

■ 表示灯

システムの作動状況を表示します。

方向指示表示灯
(→P. 102)

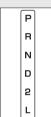
ヘッドライト
上向き表示灯(→P. 113)

フォグライト表示灯*
(→P. 115)

※
LPG 表示灯(→P. 207)

オーバードライブ OFF
表示灯*(→P. 98)

アイドルストップ表示灯*
(→P. 77, 92)

シフトポジション表示灯(タコメーター装着車)(→P. 97)

シフトポジション表示灯
(タコメーター非装着車)
(→P. 97)

■ 警告灯

万一のシステム異常などを警告します。(→P. 204)

※ 作動確認のためにエンジン スイッチを“ ON ”にすると点灯し、数秒後またはエンジンをかけると消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときはシステム異常のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

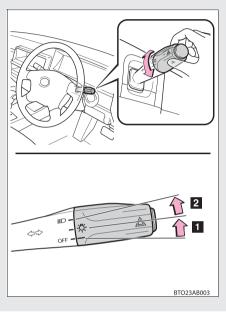
*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

警告

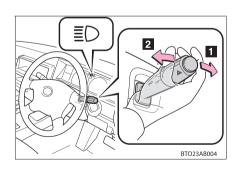
■安全装置の警告灯が点灯しないときは

ABS や SRS エアバッグなどの安全装置の警告灯が、エンジン スイッチを“ ON ”にしても点灯しない場合や点灯したままの場合は、事故にあったときに正しく作動せず、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

ライトスイッチ

ヘッドライトなどを点灯できます。

1 車幅灯・尾灯・番号灯・メーター照明を点灯

2 上記ライトとヘッドライトを点灯

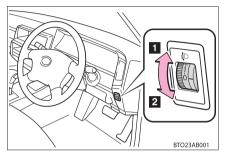
ハイビームにするには

1 ライト点灯時、レバーを前方に押すと、ハイビームに切りかえ

レバーをもとの位置へもどすとロービームにもどります。

2 レバーを引いているあいだ、ハイビームが点灯

ライトが消灯していても、ハイビームが点灯します。
レバーを離すと、ロービームにもどる、または消灯します。

手動光軸調整ダイヤル

乗車人数や荷物の量などによる車の姿勢の変化に合わせて、ヘッドライトの光軸を調整することができます。

1 上向きに調整

2 下向きに調整

■ 目盛り設定の目安

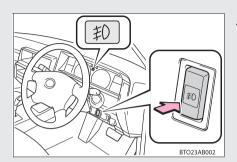
乗員と荷物の条件		ダイヤル位置
乗員	荷物	
運転者	なし	0
運転者と助手席乗員	なし	0
全乗員	なし	1.5
全乗員	トランクルーム満載時	2
運転者	トランクルーム満載時	5

注意

■バッテリーあがりを防ぐために

エンジンを停止した状態でライトを長時間点灯しないでください。

フォグライトスイッチ*

雨や霧などの悪天候下で視界を確保します。

点灯／消灯

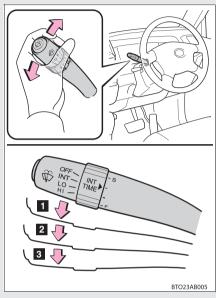
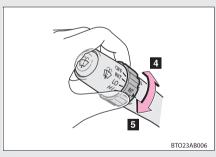
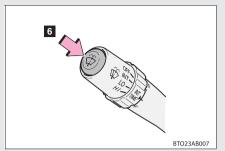
知識

■点灯条件

ヘッドライトまたは車幅灯が点灯しているときに使用できます。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

ワイパー ＆ ウォッシャー

INTを選択しているとき、間欠作動の頻度を調整することができます。

1 間欠作動（INT）
2 低速作動（LO）
3 高速作動（HI）

4 間欠ワイパーの作動頻度（減）
5 間欠ワイパーの作動頻度（増）

6 ウォッシャー液を出す

ワイパーが連動して作動します。

知識

■作動条件

エンジン スイッチが“ ON ”のとき

■ウォッシャー液が出ないときは

ウォッシャー液量が不足していないのにウォッシャー液が出ないときは、ノズルのつまりを点検してください。

注意

■フロントウインドウガラスが乾いているときは

ワイパーを使わないでください。
ガラスを傷付けるおそれがあります。

■ウォッシャー液が出ないときは

ウォッシャースイッチを操作し続けないでください。
ポンプが故障するおそれがあります。

■ノズルがつまったときは

ピンなどで取り除かないでください。
ノズルが損傷するおそれがあります。

運転を補助する装置

走行の安全性や運転性能を高めるため、走行状況に応じて次の装置が自動で作動します。ただし、これらの装置は補助的なものなので、過信せずに運転には十分に注意してください。

■ ABS（アンチロックブレーキシステム）

急ブレーキ時や、すべりやすい路面でのブレーキ時にタイヤのロックを防ぎ、スリップを抑制します。

■ ブレーキアシスト

急ブレーキ時などに、より大きなブレーキ力を発生させます。

知識

■ABS、ブレーキアシストの作動音と振動

- エンジン始動時や発進直後、ブレーキを繰り返し踏んだときに、エンジンルームから作動音が聞こえることがありますが、異常ではありません。
- 上記のシステムが作動すると、次のような現象が発生することがありますが、異常ではありません。
  - ・車体やハンドルに振動を感じる
  - ・車両停止後もモーター音が聞こえる
  - ・ABS の作動時に、ブレーキペダルが小刻みに動く
  - ・ABS の作動終了後、ブレーキペダルが少し奥に入る

⚠警告

次の状況では、事故が起き、その結果重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ABS の効果を発揮できないとき

●タイヤのグリップ性能の限界を超えたとき

●雨でぬれた路面やすべりやすい路面での高速走行時に、ハイドロプレーニング現象が発生したとき

■ABS が作動することで、制動距離が通常よりも長くなるとき

ABS は制動距離を短くする装置ではありません。次の状況では、常に速度を控えめにして前車と安全な車間距離をとってください。

●泥、砂利の道路や積雪路を走行しているとき

●タイヤチェーンを装着しているとき

●道路のつなぎ目など、段差を越えたとき

●凹凸のある路面や石だたみなどの悪路を走行しているとき

■タイヤを交換するときは

4 輪とも指定されたサイズで、同じメーカー、ブランド、トレッドパターン（溝模様）のタイヤを使用し、推奨された空気圧にしてください。（→P. 242）
異なったタイヤを装着すると、ABS が正常に作動しません。
タイヤ、またはホイールを交換するときは、トヨタ販売店に相談してください。

荷物を積むときの注意

安全で快適なドライブをするために、荷物を積むときは次のことをお守りください。

- できるだけ荷物はトランクに積む
- 荷物が安全な位置に置かれているか確認する
- 走行中のバランスを維持するために重さが偏らないように積む
- 燃費が悪化しないようにするために、不要な荷物は積まないようにする

警告

■積んではいけないもの

次のようなものを積むと引火するおそれがあり危険です。

●燃料が入った容器

●スプレー缶

■荷物を積むときは

●次の場所には荷物を積まないでください。
お守りいただかないと、ブレーキ・アクセルペダルを正しく操作できなかったり、荷物が視界をさえぎったり、荷物が乗員に衝突したりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。

・運転席足元
・助手席や後席（荷物を積み重ねる場合）
・パッケージトレイ
・インストルメントパネル
・ダッシュボード
・フタのない小物入れ／トレイ

●室内に積んだ荷物はすべてしっかりと安定させてください。
安定していないと、急ブレーキや事故の際に投げ出され、乗員を傷付けるおそれがあります。

■荷物の重量・荷重のかけ方について

●荷物を積み過ぎないでください。

●荷重を不均等にかけないようにしてください。
これはタイヤに負担をかけるだけでなく、ハンドル操作性やブレーキ制御の低下により思わぬ事故につながり、重大な傷害を受けるか最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

寒冷時の運転

寒冷時に備えて、準備や点検など正しく処置していただいた上で適切に運転してください。

■ 冬の前の準備

● 次のものはそれぞれ外気温に適したものをお使いください。

・ 燃料
・ エンジンオイル
・ ウォッシャー液

● バッテリーの液量・比重を点検してください。

● 冬用タイヤ（4 輪）やタイヤチェーン（後部タイヤ用）を用意してください。

タイヤは 4 輪とも指定サイズで同一銘柄のものを、タイヤチェーンはタイヤサイズに合ったものを用意してください。
（タイヤについて :→P. 163）

■ 運転する前に

状況に応じて次のことを行ってください。

● ドアやワイパーが凍結したときは無理に開けたり動かしたりせず、ぬるま湯をかけるなどして氷を溶かし、すぐに水分を十分に拭き取ってください。

● フロントウインドウガラス前の外気取り入れ口に雪が積もっているときは、エアコンのファンを正常に作動させるために、雪を取り除いてください。

● 足まわりに氷が付いているときは、氷を取り除いてください。

● フェンダー部分やブレーキ装置に雪や氷が付いているときは、取り除いてください。

■ 運転するときは

ゆっくりスタートし、控えめな速度で走行してください。

■ 駐車するときは

パーキングブレーキをかけると、ブレーキ装置が凍結して解除できなくなるおそれがあります。パーキングブレーキはかけずに、シフトレバーをオートマチック車は P、マニュアル車は下り坂では R上り坂では 1 速に入れて駐車し、輪止めをしてください。

知識

■寒冷地用ワイパーブレードについて

●降雪期に使用する寒冷地用ワイパーブレードは、雪が付着するのを防ぐために金属部分をゴムで覆ってあります。トヨタ販売店で各車指定のブレードをお求めください。

●高速走行時は、通常のワイパーブレードよりガラスが拭き取りにくくなることがあります。その場合には速度を落としてください。

■タイヤチェーンについて

取り付け・取りはずし・取り扱い方法については次の指示に従ってください。

・安全に作業できる場所で行う
・後２輪に取り付ける
・タイヤチェーンに付属の取扱説明書に従う
・取り付け後 0.5 ～ 1.0 km 走行したら締め直しを行う

■燃料について

●LPG 車は外気温が低温になると燃料が十分に気化できず、始動性が悪くなる可能性があります。
寒冷地では、現地に着いたらできるだけ早く寒冷地用燃料を補給してください。

●寒冷地では、低温でも気化しやすいプロパン率（燃料のプロパン割合）の多い燃料を販売しています。

警告

■**冬用タイヤ装着時の警告**

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、車両のコントロールが不能となり、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡事故につながるおそれがあります。

- 指定サイズのタイヤを使用する
- 空気圧を推奨値に調整する
- お使いになる冬用タイヤの最高許容速度や制限速度をこえる速度で走行しない

■**タイヤチェーン装着時の警告**

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、安全に車を運転することができずに、思わぬ事故につながり、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡事故につながるおそれがあります。

- 装着したチェーンに定められた制限速度、もしくは 30 km/h のどちらか低い方をこえる速度で走行しない
- 路面の凹凸や穴を避ける
- 急ハンドル、急ブレーキを避ける
- カーブの入り口手前で十分減速して車のコントロールを失うのを防ぐ

■**駐車時の警告**

パーキングブレーキをかけずに駐車するときは、必ず輪止めをしてください。
輪止めをしないと、車が動き思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

注意

■**タイヤチェーンの使用について**

●トヨタ純正タイヤチェーンのご使用をおすすめします。
トヨタ純正品以外のタイヤチェーンの中には、使用すると、車体にあたり、走行のさまたげとなるおそれがあるものもあります。
詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

●フルホイールキャップ装着車は、ホイールキャップをはずしてからタイヤチェーンを取り付けてください。ホイールキャップを付けたままタイヤチェーンを取り付けると、ホイールキャップに傷が付くことがあります。

●アルミホイール装着車は、タイヤチェーンを取り付けるとホイールに傷が付くことがあります。

■**フロントウインドウガラスに付いた氷を除去するときは**

たたいて割らないでください。
ウインドウガラスの内側（車内側）が割れるおそれがあります。

室内装備の使い方 3

3-1. エアコン・デフォッガーの使い方

マニュアルエアコン............. 128
リヤウインドウデフォッガー（曇り取り）......................... 134

3-2. オーディオの使い方

オーディオの種類 135
ラジオの使い方 137
快適に聞くために 139

3-3. 室内灯のつけ方

室内灯一覧............................ 140
・インテリアライト................. 141
・日報灯 142

3-4. 収納装備の使い方

収納装備一覧 143
・グローブボックス................. 144
・コンソールボックス............. 145
・助手席シートアンダートレイ 146

3-5. その他の室内装備の使い方

サンバイザー........................ 147
バニティミラー.................... 148
時計 149
灰皿 150
アクセサリーソケット 151
アームレスト........................ 152
フロアマット........................ 153
清掃用具入れ........................ 154
サービスコネクター............ 155

マニュアルエアコン

エアコンの設定

■ 風量を変えるには

ファン調整ダイヤルをまわす

右へまわすほど強風になります。OFF の位置にすると送風が停止します。

■ 冷房の強さを変えるには

エアコン調整ダイヤルをまわす

右へまわすほど強冷（除湿）になります。OFF の位置にすると冷房が停止します。

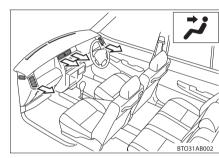
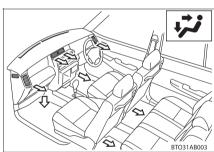
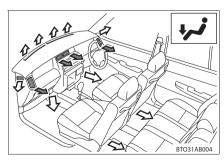
冷房が停止している場合は送風または暖房で使用できます。

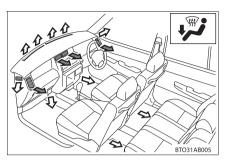
■ 温度を変えるには

エアコン調整ダイヤルとヒーター調整レバーで調整する

エアコン調整ダイヤルを右へまわすほど強冷になります。
ヒーター調整レバーを右へ操作するほど暖かくなります。

■ 吹き出し口を切りかえるには

吹き出し口切りかえレバーを操作して吹き出し口を選ぶ

上半身に送風

上半身と足元に送風

足元に送風

：ヒーター調整レバーが左端（白色の範囲）にあるとき

足元に送風・ガラスの曇りを取る

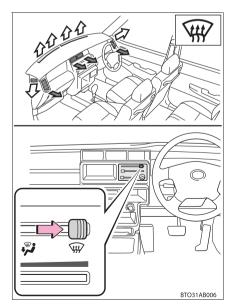
：ヒーター調整レバーが左端（白色の範囲）にあるとき

■ 外気導入・内気循環を切りかえるには

内外気切りかえレバーを左右に操作する

内気循環に切りかえるには にします。

外気導入に切りかえるには にします。

フロントガラスの曇りを取るには

吹き出し口切りかえレバーを 、内外気切りかえレバーを 、ヒーター調整レバーをホットゾーンにする

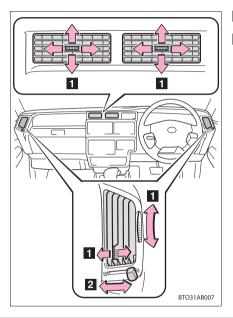
吹き出し口切りかえレバーを にすれば曇りを取るのと同時に足元にも送風します。
エアコン調整ダイヤルを右へまわして除湿すると曇りが早く取れます。

：ヒーター調整レバーが左端（白色の範囲）にあるとき

プラズマクラスター® を使うには

ファン調整ダイヤルをまわしてファンを作動させる

ファンが作動すると、自動的にプラズマクラスター® が作動します。

風向きの調整と吹き出し口の開閉

1 風向きの調整

2 左右吹き出し口の開閉

知識

■内気循環について

● トンネル内や渋滞などで、汚れた外気を車内に入れたくないときや、早く冷暖房したいとき、外気温が高いときの冷房効果を高めたいときに内外気切りかえレバーを [内気循環マーク] にすると効果的です。

● 長時間内気循環を使うとガラスが曇る場合があります。

■外気温度が 0 ℃以下のとき

エアコン調整ダイヤルを右へまわしても、冷房にならない場合があります。

■吹き出し口を にしたとき

頭寒足熱を目的とした吹き出しのため、ヒーター調整レバーの位置によっては、足元に送られる風が上半身に送られる風より暖められて送風されます。

■足元だけに送風するには

吹き出し口切りかえレバーを と の中間位置にすると、上半身と窓ガラスへの送風を停止し、足元だけに送風することができます。

■Stop & Start システムについて（オートマチック車）

●Stop & Start システムを作動させるには、エアコン調整ダイヤルをECOの範囲にしてください。

●Stop & Start システムによるエンジン停止中、エアコンの効きが悪いときはエンジンを始動してください。

■燃料冷却システムについて（燃料冷却システム装着車）

●走行中、LPG 表示灯が点滅したときは、自動的に燃料冷却システムが作動します。燃料冷却システムが作動すると、ファン調整ダイヤルとエアコン調整ダイヤルが OFF でも自動的にエアコンが作動し、送風されます。エアコン調節ダイヤルを右いっぱいにまわすと冷却機能を最大にすることができます。車室温度が低下した場合は、ヒーター調整レバーで調整してください。

●エンジン スイッチを“ OFF ”にしたときや、エアコンを停止したときにインストルメントパネル助手席側から“シュー”という音が聞こえる場合がありますが、異常ではありません。“シュー”という音はしばらく聞こえることもあります。

■プラズマクラスター® について

●運転席側吹き出し口付近で静電気を感じたり、小さな作動音が聞こえることがありますが異常ではありません。

●プラズマクラスター、プラズマクラスターイオンおよび Plasmacluster はシャープ株式会社の商標です。

■エアコンの臭いについて

●エアコン使用中に、車室内外のさまざまな臭いがエアコン装置内に取り込まれて混ざり合うことにより、吹き出し口からの風に臭いがすることがあります。

●エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、駐車時は外気導入にしておくことをおすすめします。

警告

■フロントガラスの曇りを防止するために

湿度が非常に高いときにエアコンを低い設定温度で作動させているときは、吹き出し口切りかえレバーを の位置に合わせないでください。

外気とガラスの温度差でガラスの外側が曇り、視界をさまたげる場合があります。

■プラズマクラスター® について

●プラズマクラスター® は、高電圧を利用しています。危険ですので、修理などは必ずトヨタ販売店にご相談ください。

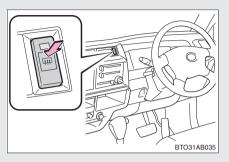
●運転席側吹き出し口付近にスプレーを噴霧したり、棒などの異物を挿入したりしないでください。故障や感電の原因となります。

注意

■バッテリーあがりを防ぐために

エンジン停止中（Stop & Start システム作動中を除く）はエアコンを使用しないでください。

リヤウインドウデフォッガー（曇り取り）

リヤウインドウの曇りを取るときにお使いください。

ON ／ OFF

押すごとに ON ／ OFF に切り替わり、作動中はインジケーターが点灯します。

リヤウインドウデフォッガーとミラーヒーター*は、約 15 分で自動的に OFF になります。

知識

■作動条件

エンジン スイッチが“ ON ”のとき

■ミラーヒーターについて

リヤウインドウデフォッガーを ON にするとミラーヒーターも同時に作動します。

警告

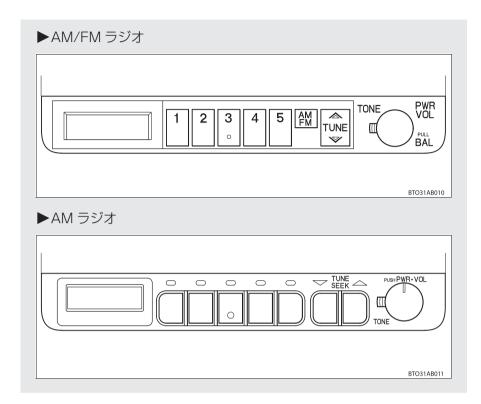
■ミラーヒーター作動中の警告

アウターミラーの表面が非常に熱くなります。やけどをするおそれがあるのでふれないでください。

注意

■バッテリーあがりを防ぐために

連続して長時間使用すると、バッテリーあがりの原因になります。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

オーディオ＊の種類

タイトル	参照ページ
ラジオの使い方	P. 137
快適に聞くために	P. 139

知識

■携帯電話の使用

オーディオを聞いているときに、車内または車の近くで携帯電話を使用した場合、オーディオのスピーカーから雑音が聞こえることがあります。

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

注意

■バッテリーあがりを防止するために

エンジン停止中にオーディオを長時間使用しないでください。

■オーディオの取り扱いについて

オーディオに飲みものなどをこぼさないように注意してください。

ラジオの使い方

▶AM/FM ラジオ

▶AM ラジオ

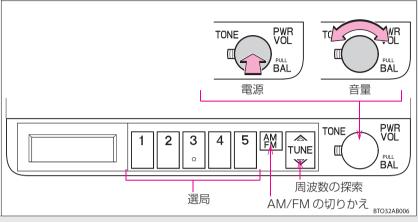
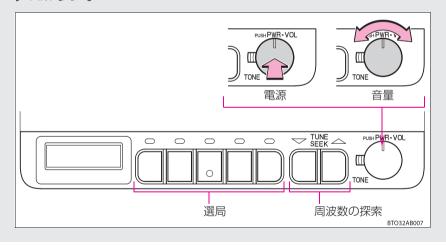
放送局を記憶させる

手順 1 AM/FM ラジオは TUNE の ︿ （高い周波数）または ﹀ （低い周波数）、AM ラジオは TUNE SEEK の （高い周波数）または （低い周波数）を押して、お好みの放送局を探す

“ピッ”と音が鳴るまで押すと、自動で受信可能な周波数を選択します。

手順 2 記憶させたいスイッチを“ピッ”と音が鳴るまで押す

AM/FM ラジオは 1 ～ 5 、AM ラジオは ～ を押します。

知識

■バッテリーとの接続が断たれたときは

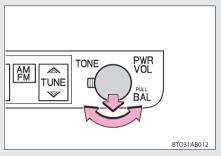
AM/FM ラジオは 1 ～ 5 、AM ラジオは ～ に設定されていた放送局が消去されます。

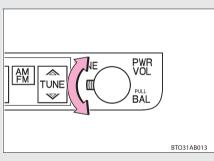
■受信感度について

アンテナの位置がそのときどきでかわるため、電波の強さがかわったり、障害物や電車、信号機などの影響により良好な受信状態を保つことが難しい場合もあります。

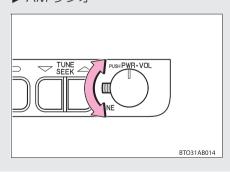
快適に聞くために

最適な音質と音量バランスで聞くために設定を変更することができます。

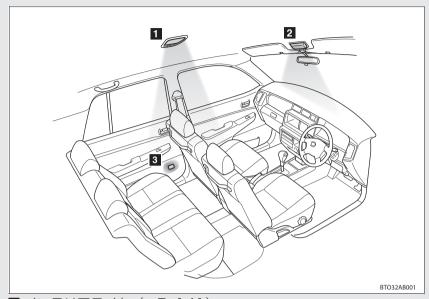
▶AM/FM ラジオ

ツマミを手前にひいてから、左右にまわす

左側にまわすと助手席側、右側にまわすと運転席側のスピーカーの音量が大きくなります。

ツマミを左右にまわす

左側にまわすと低音が強調され、右側にまわすと高音が強調される。

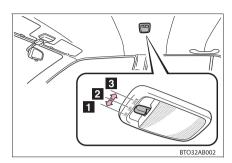
▶AM ラジオ

ツマミを左右にまわす

左側にまわすと低音が強調され、右側にまわすと高音が強調される。

室内灯一覧

1 インテリアライト（→P. 141）

2 日報灯（→P. 142）

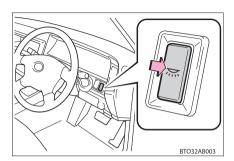
3 ドアカーテシライト（リヤ左側ドア）

インテリアライト

1 ON(点灯)
2 OFF
3 DOOR（ドア連動）

知識

■インテリアライトについて

DOOR の位置にしておくと、フロントドア・リヤドアの開閉に連動して点灯・消灯します。

日報灯

ON(点灯) ／ OFF

知識

■日報灯を点灯させると（タコメーター非装着車）

●メーター照明が点灯しているときに日報灯を点灯させるとオドメーター／トリップメーター／アイドルストップ時間（オートマチック車）の照明がより明るくなります。

●メーター照明が消灯しているときに日報灯を点灯させるとメーターの照明が点灯します。

注意

■バッテリーあがりを防ぐために

エンジン停止時は長時間点灯しないでください。

収納装備一覧

BTO33AB001

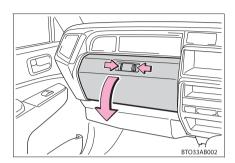
1 コンソールボックス（→P. 145）
2 助手席シートアンダートレイ＊（→P. 146）
3 グローブボックス（→P. 144）

警告

■収納装備に放置してはいけないもの

メガネ、ライターやスプレー缶を収納装備内に放置したままにしないでください。放置したままでいると、次のようなことが起こるおそれがあり危険です。

- 室温が高くなったときの熱や、他の収納物との接触などにより、メガネが変形やひび割れを起こす
- 室温が高くなったときにライターやスプレー缶が爆発したり、他の収納物との接触でライターが着火したりスプレー缶のガスがもれるなどして火災につながる

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

グローブボックス

両側からレバーを押す

知識

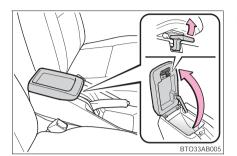
■グローブボックスライト*について

車幅灯が点灯しているとき、グローブボックスを開くとライトが点灯します。

警告

■走行中の警告

グローブボックスを必ず閉じてください。
急ブレーキや急旋回時などに、開いたフタに体があたったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

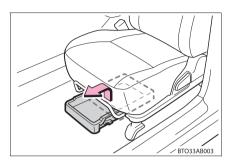
*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

コンソールボックス

レバーを引いてフタを持ち上げる

警告

■走行中の警告

コンソールボックスのフタを必ず閉じてください。
急ブレーキ時などに、開いたフタに体があたったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

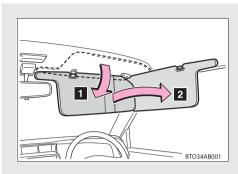
助手席シートアンダートレイ*

トレイを持ち上げ、前に引き出す

警告

■走行中の警告

シートアンダートレイを引きだしたままにしないでください。
急ブレーキ時などに、引き出したシートアンダートレイに体があたったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

サンバイザー＊

1 下ろす

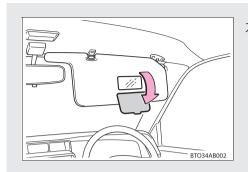
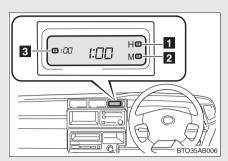
2 下ろした状態でフックからはずし、横へまわす

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

バニティミラー＊

カバーを開けて使用します。

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

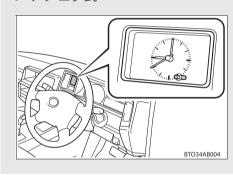
時計＊

▶ デジタル式

1 “時”を調整する（H）

2 “分”を調整する（M）

3 “分”を 00 にする※（:00）

※（例） 1:00 〜 1:29 → 1:00
1:30 〜 1:59 → 2:00

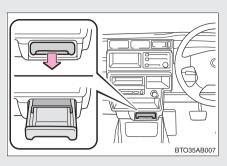
▶ アナログ式

時計を調整するときは、ツマミをひいたまま左右にまわします。

知識

■時刻が表示されるとき（デジタル式）

エンジン スイッチが“ ACC ”または“ ON ”のとき

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

灰皿

引き出す

取りはずすときは、プロテクターを下へ押したまま引き出します。

警告

■使用後について

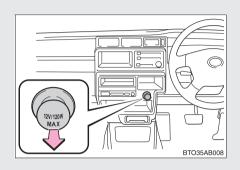
灰皿を必ず閉じてください。急ブレーキ時などに、開いた灰皿に体があたったり、中のものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■出火を防ぐために

●マッチ、タバコなどの火は完全に消してから灰皿の中に入れ、確実に閉めてください。

●灰皿の中に紙くずなどの燃えやすいものを入れないでください。

アクセサリーソケット

12 V 10 A 未満の電気製品を使うときの電源としてお使いください。

知識

■使用条件

エンジン スイッチが“ ACC ”または“ ON ”のとき

注意

■ショートや故障を防ぐために

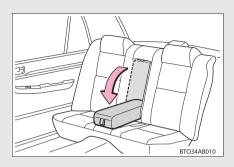
ソケットに異物が入ったり、飲料水などがかかったりしないように、使用しないときは、フタを閉めておいてください。

■ヒューズが切れるのを防ぐために

DC12V で最大電流 10 A（最大消費電力 120W）以上の電気製品を使用しないでください。

■バッテリーあがりを防止するために

エンジンを停止した状態でアクセサリーソケットを長時間使用しないでください。

アームレスト*

倒して使用します。

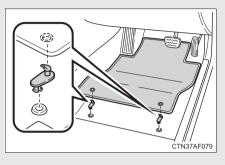
注意

■アームレストの破損を防ぐために

過度の負荷をかけないでください。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

フロアマット

お車（年式）専用のものを、フロアカーペットの上にしっかりと固定してお使いください。

フロアマット付属の固定フック（クリップ）を使用して固定してください。

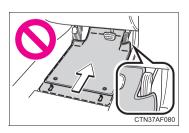
固定フック（クリップ）の形状およびフロアマットの固定方法はイラストと異なる場合があります。詳しい固定方法はフロアマット付属の取扱書をご確認ください。

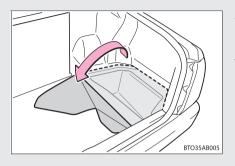
⚠ 警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、フロアマットがずれて運転中に各ペダルと干渉し、思わぬスピードが出たり車を停止しにくくなるなど、重大な事故につながるおそれがあります。

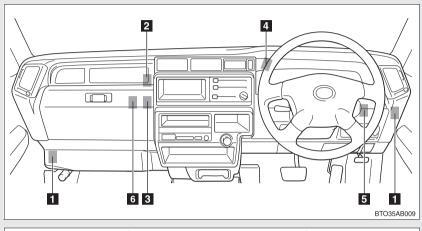
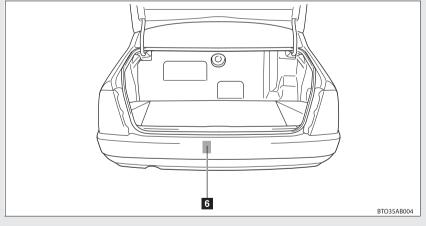
■運転席にフロアマットを敷くときは

- トヨタ純正品であっても、他車種および異なる年式のフロアマットは使用しない
- 運転席専用のフロアマットを使用する
- 付属のフック（クリップ）を使って、常にしっかりと固定する
- 他のフロアマット類と重ねて使用しない
- フロアマットを前後逆さまにしたり、裏返して使用しない

■運転する前に

- フロアマットがすべての固定フック（クリップ）で正しい位置にしっかりと固定されていることを定期的に確認し、特に洗車後は必ず確認を行う
- エンジン停止およびシフトレバーがPの状態で、各ペダルを奥まで踏み込み、フロアマットと干渉しないことを確認する

清掃用具入れ

ラゲージマットの右側をめくると、中に清掃用具などを入れるスペースがあります。

サービスコネクター

タクシー機器を取り付けるときは、サービスコネクターを利用してください。その場合には、配線図に従い、正しく結線してください。

専用ヒューズが設定してあります。(→P. 183)
またワイヤーハーネスの取りまわしには十分注意してください。

ルーフターンライトを付ける場合はリレーを取り付けてください。

1 ルーフターンライト用（青色）
2 料金メーター用（青色）
3 無線機用（橙色）
4 タコグラフ用（青色）
5 社名灯、防犯灯用 (青色）
6 配車ナビゲーションシステム用 (青色）

知識

■配車ナビゲーションシステム用コネクター

補助電源に接続し、Stop & Start システムでのエンジン始動時の電圧低下を防ぎます。

お手入れのしかた　4

4-1. お手入れのしかた

外装の手入れ........................ 158
内装の手入れ........................ 161
タイヤについて.................... 163

4-2. 簡単な点検・部品交換

ボンネット 166
ガレージジャッキ................ 169
電球（バルブ）の交換 171
ヒューズの点検、交換 183
ウォッシャー液の補給 190
エアコンフィルターの
清掃、交換......................... 191

外装の手入れ

お手入れは、次の項目を実施してください。

- 水を十分かけながら車体、足まわり、下まわりの順番に上から下へ汚れを洗い落とす
- 車体はスポンジやセーム皮のような柔らかいもので洗う
- 汚れがひどいときはカーシャンプーを使用し、水で十分洗い流す
- 水を拭き取る
- 水のはじきが悪くなったときは、ワックスがけを行う

  ボデーの表面の汚れを落としても水が玉状にならないときは、車体の温度が冷えているとき（およそ体温以下を目安としてください）にワックスをかけます。

なお、ボデーコート、ホイールコート、ガラスコートなどトヨタケミカル商品を施工された場合は、お手入れ方法が異なります。詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

知識

■自動洗車機を使うときは

- 自動洗車機に入れる前に、車両の補給口がしっかり閉まっていることを確認してください。
- 車両前側から洗車してください。ドアミラー装着車は、ドアミラーを格納してください。また走行前は必ずドアミラーを復帰状態にもどしてください。
- ブラシで車体に傷が付き、塗装を損なうことがあります。

■高圧洗車機を使うときは

●車内に水が入るおそれがあるため、ノズルの先端をドアガラスやドア枠付近に近付けすぎないでください。また、洗車の前に補給口がしっかり閉まっていることを確認してください。

●駆動系部品（ディファレンシャルギヤなど）のベアリングやオイルシール部品に近付けすぎないでください。
近付けすぎると、水圧が高いため、内部への水入りやグリス流出により、性能が劣化するおそれがあります。

■アルミホイール*

●中性洗剤を使用し、早めに汚れを落としてください。研磨剤の入った洗剤や硬いブラシは塗装を傷めますので使用しないでください。

●夏場の長距離走行後などでホイールが熱いときは、洗剤は使用しないでください。

●洗剤を使用したあとは早めに十分洗い流してください。

■バンパーおよびサイドモールディング

研磨剤入りの洗剤でこすらないようにしてください。

警告

■洗車をするときは

エンジンルーム内に水をかけないでください。
電気部品などに水がかかると車両火災につながるおそれがあり危険です。

■排気管について

排気管は排気ガスにより熱くなりますので、エンジン停止直後などにふれないでください。やけどをするおそれがあります。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

⚠注意

■塗装の劣化や車体・部品（ホイールなど）の腐食を防ぐために

●次のような場合は、ただちに洗車してください。

・海岸地帯を走行したあと
・凍結防止剤を散布した道路を走行したあと
・コールタール、花粉、樹液、鳥のふん、虫の死がいなどが付着したとき
・ばい煙、油煙、粉じん、鉄粉、化学物質などの降下が多い場所を走行したあと
・ほこり、泥などで激しく汚れたとき
・塗装にベンジンやガソリンなどの有機溶剤が付着したとき

●塗装に傷が付いた場合は、早めに補修してください。

●ホイールの保管時は、腐食を防ぐために汚れを落とし、湿気の少ない場所へ保管してください。

■ライトの清掃

●注意して洗ってください。有機溶剤や硬いブラシは使用しないでください。ライトを損傷させるおそれがあります。

●ライトにワックスがけを行わないでください。
レンズを損傷するおそれがあります。

内装の手入れ

お手入れは、次の要領で実施してください。

■車内の手入れ

掃除機などでほこりを取り除き、水またはぬるま湯を含ませた布で拭き取る

知識

■カーペットの洗浄

カーペットは極力、乾いた状態を保つことをおすすめします。
洗浄には、市販の泡タイプクリーナーがご利用になれます。
スポンジまたはブラシを使用して泡をカーペットに広げ、円を描くように塗り込んでください。直接水をかけたりせず、拭き取ってから乾燥させてください。

■シートベルト

刺激の少ない洗剤とぬるま湯で、布かスポンジを使って洗ってください。
シートベルトの擦り切れ・ほつれ・傷などを定期的に点検してください。
(→P. 32)

警告

■車両への水の浸入

- 車内に水をかけたり液体をこぼしたりしないでください。
  電気部品などに水がかかると、故障や車両火災につながるおそれがあり危険です。
- SRS エアバッグの構成部品やワイヤをぬらさないでください。(→P. 53)
  電気的不具合により、エアバッグが展開したり、正常に機能しなくなり、死亡事故や重傷につながるおそれがあります。

警告

■内装の手入れをするときは（特にインストルメントパネル）

艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルがフロントウインドウガラスへ映り込み、運転者の視界をさまたげ思わぬ事故につながり、重大な傷害もしくは死亡におよぶおそれがあります。

注意

■清掃するとき使用する溶剤について

●変色・シミ・塗装はがれの原因になるため、次の溶剤は使用しないでください。

・シート以外の部分：ベンジン、ガソリンなどの有機溶剤や酸またはアルカリ性の溶剤、染色剤、漂白剤

・シート部分：シンナー、ベンジン、アルコール、その他の揮発性の溶剤

●艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルやその他内装の塗装のはがれ・溶解・変形の原因になるおそれがあります。

■フロアに水がかかると

フロアを水で洗わないでください。
オーディオやフロアカーペット下にある電気部品に水がかかると、車の故障の原因になったり、ボデーが錆びるおそれがあります。

■リヤウインドウガラスの内側を掃除するときは

●熱線やアンテナを損傷するおそれがあるため、ガラスクリーナーなどを使わず、熱線やアンテナにそって水またはぬるま湯を含ませた布で軽く拭いてください。

●熱線やアンテナを引っかいたり、損傷させないように気を付けてください。

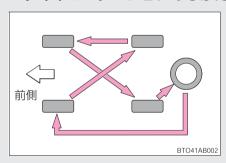
タイヤについて

タイヤの点検は、法律で義務付けられています。日常点検として必ずタイヤを点検してください。
タイヤの摩耗を均等にし寿命をのばすために、タイヤローテーション（タイヤ位置交換）を 10,000 km ごとに行ってください。

■ タイヤの点検項目

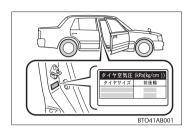
タイヤは次の項目を点検してください。
点検方法は別冊「メンテナンスノート」をお読みください。

- タイヤ空気圧
  空気圧の点検は、タイヤが冷えているときに行ってください。
- タイヤの亀裂・損傷の有無
- タイヤの溝の深さ
- タイヤの異常摩耗（極端にタイヤの片側のみが摩耗していたり、摩耗程度が他のタイヤと著しく異なるなど）の有無

■ タイヤローテーションのしかた

図で示す順にタイヤをローテーションしてください。

タイヤの摩耗状態を均一にし、寿命をのばすために、トヨタは定期点検ごとのタイヤローテーションを推奨します。

知識

■タイヤ空気圧の数値

タイヤの空気圧は、運転席側のタイヤ空気圧ラベルで確認することができます。

タイヤサイズ	空気圧※ [kPa (kg/cm²)]
	前後輪
195/65R15 91S	220 (2.2)

※タイヤが冷えているときの空気圧

■タイヤ関連の部品を交換するとき

タイヤ・ディスクホイール・ホイール取り付けナットを交換するときは、トヨタ販売店にご相談ください。

■タイヤの保管について

タイヤを車両からはずして保管する際は、ビニール袋に入れるなどして、水や直射日光を避けて保管してください。

⚠警告

■点検、交換時の警告

必ず次のことをお守りください。
お守りいただかないと、駆動系部品の損傷や不安定な操縦特性により、死亡事故や負傷につながるおそれがあります。

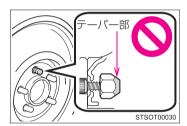
- タイヤはすべて同一メーカー、同一銘柄、同一トレッドパターンで、摩耗差のないタイヤを使用してください。
- メーカー指定サイズ以外のタイヤやホイールを使用しないでください。
- ラジアルタイヤ、バイアスベルテッドタイヤ、バイアスプライタイヤを混在使用しないでください。
- サマータイヤ、オールシーズンタイヤ、冬用タイヤを混在使用しないでください。

警告

■異常があるタイヤの使用禁止

異常があるタイヤをそのまま装着していると走行時にハンドルをとられたり、異常な振動を感じることがあります。また、次の事態になり、思わぬ事故になるおそれがあります。

- タイヤの破裂など、修理できない損傷を受ける
- 車が横すべりする
- 車の本来の性能（燃費、車両の方向安定性、制動距離など）が発揮されない

■タイヤ交換時の注意

- 必ずナットのテーパー部を内側にして取り付けてください。テーパー部を外側にして取り付けると、ホイールが破損しはずれてしまい、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- ねじ部にオイルやグリースをぬらないでください。
  ナットを締めるときに必要以上に締め付けられ、ボルトが破損したり、ディスクホイールが損傷するおそれがあります。
  またナットがゆるみホイールが落下して、重大な事故につながるおそれがあります。オイルやグリースがねじ部についている場合はふき取ってください。

注意

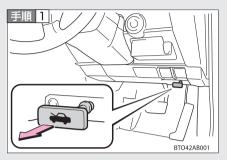
■走行中に空気漏れが起こったら

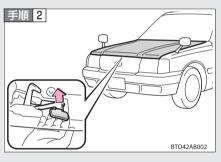
走行を続けないでください。
タイヤまたはホイールが損傷することがあります。

■悪路走行に対する注意

凹凸のある路上を走行するときは注意してください。
タイヤの空気が抜けて、タイヤのクッション作用が低下します。また、タイヤ、ホイール、車体などの部品も損傷するおそれがあります。

ボンネット

車内からロックを解除して、ボンネットを開けます。

ボンネットオープナーを引く

ボンネットが少し浮き上がります。

レバーを引き上げてフックをはずし、ボンネットを開ける

知識

■バッテリー端子をはずすときは

バッテリー端子をはずすと、コンピューターに記憶されている情報が消去されます。バッテリー端子をはずすときはトヨタ販売店にご相談ください。

警告

■走行前の確認

ボンネットがしっかりロックされていることを確認してください。
ロックせずに走行すると、走行中にボンネットが突然開いて、生命にかかわる重大な傷害につながるおそれがあります。

■エンジンルームを点検したあとは

エンジンルーム内に工具や布を置き忘れていないことを確認してください。
点検や清掃に使用した工具や布などをエンジンルーム内に置き忘れていると、故障の原因になったり、また、エンジンルーム内は高温になるため車両火災につながるおそれがあり危険です。

■ボンネットを閉めるときは

ボンネットを閉めるときは、手などを挟まないように注意してください。
重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

注意

■ボンネットへの損傷を防ぐために

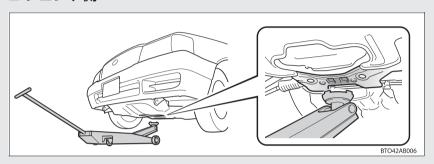
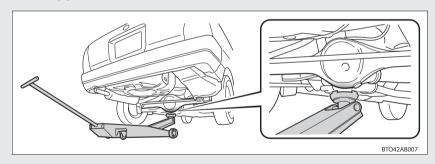
● ボンネットを閉めるときは、体重をかけるなどして強く押さないでください。ボンネットがへこむおそれがあります。

● ボンネットにはボンネットを支えるためのダンパーステーが取り付けられています。ダンパーステーの損傷や作動不良を防ぐため次のことをお守りください。

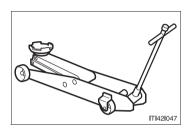
・ビニール片・ステッカー・粘着材などの異物をステーのロッド部（棒部）に付着させない
・ロッド部を軍手などでふれない
・ボンネットにトヨタ純正品以外のアクセサリー用品を付けない
・ステーに手をかけたり、横方向に力をかけたりしない

ガレージジャッキ

ガレージジャッキを使用して車両を持ち上げるときは、正しい位置にガレージジャッキをセットしてください。正しい位置にセットしないと、車両が損傷したり、けがをするおそれがあります。

■ フロント側

■ リヤ側

警告

■**車両を持ち上げるときは**

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 図のようなガレージジャッキを使用して車両を持ち上げる。
- ガレージジャッキを使用するときは、必ずガレージジャッキ付属の取扱説明書を十分に確認の上、使用する。
- 車に搭載されているジャッキを使用しない。車両が落下するおそれがあります。
- ガレージジャッキのみで支えられた車両の下に体の一部を入れたり、もぐり込んだりしない。
- ガレージジャッキおよび、自動車用ジャッキスタンドをしっかりとした傾きのない平坦な床面で使用してください。
- 車両がジャッキアップされた状態でエンジンを始動しない。
- 平らで硬い地面に停車させ、パーキングブレーキをかけ、オートマチック車はシフトレバーを P、マニュアル車はシフトレバーを R にする。
- ガレージジャッキは、必ずジャッキポイントに正しくセットする。
  ガレージジャッキを正しくセットせずに車両を持ち上げると、車両が損傷します。
  また車両がガレージジャッキから落下するおそれがあります。
- 車内に乗員がいるときは車両を持ち上げない。
- 車両を持ち上げるときは、ガレージジャッキの上または下にものを置かない。

電球（バルブ）の交換

次に記載する電球は、ご自身で交換できます。詳細が不明な場合やその他の電球交換については、トヨタ販売店にご相談ください。

■ 電球の用意

切れた電球の W（ワット）数を確かめてください。（→P. 243）

■ フロントのバルブ位置

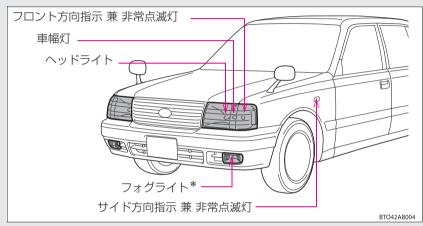
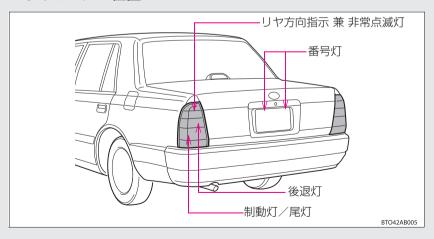
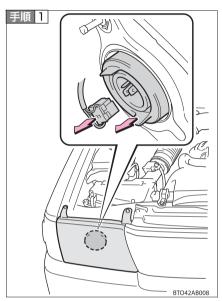
■ リヤのバルブ位置

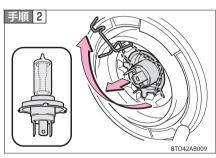
*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

4
お手入れのしかた

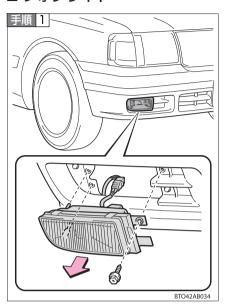
電球交換のしかた

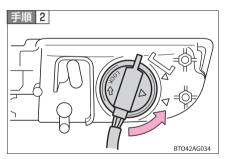
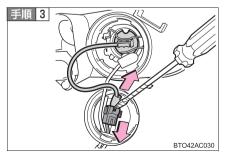
■ ヘッドライト

手順 1

コネクターとゴムカバーを取りはずす

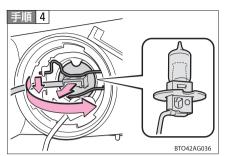
手順 2

止め金をはずし、電球を取りはずす

手順 3 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

■ フォグライト*

ライト本体をはずす

ネジをはずし、ライト本体を引き出します。

カバーを取りはずす

図の位置にマイナスドライバーを挿し込んで、ソケットを取りはずす

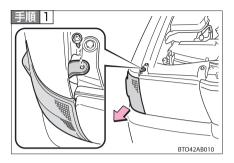
傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

止め金をはずし、電球を取りはずす

手順 5 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

■ 車幅灯

手順 1

BTO42AB010

フロント方向指示 兼 非常点滅灯のライト本体をはずす

ネジをはずし、ライト本体を引き出します。

手順 2

BTO42AB011

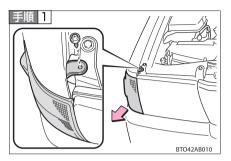
ソケットを取りはずす

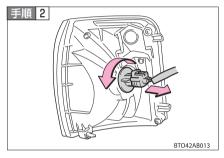
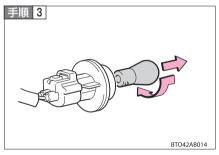
手順 3

BTO42AB012

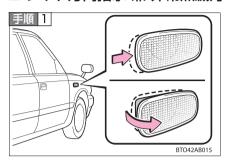
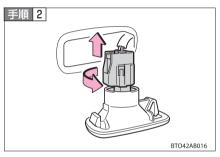
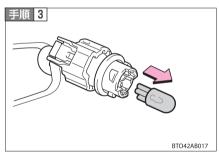
電球を取りはずす

手順 4 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

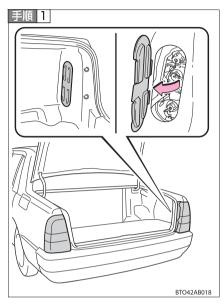
■ フロント方向指示 兼 非常点滅灯

ライト本体をはずす

ネジをはずし、ライト本体を引き出します。

ソケットを取りはずす

電球を押しながらまわして取りはずす

手順 4 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

■ サイド方向指示 兼 非常点滅灯

ライト本体を車両前方にスライドさせて取りはずす

ソケットを取りはずす

電球を取りはずす

手順 4 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

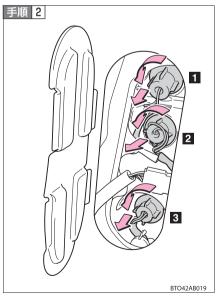
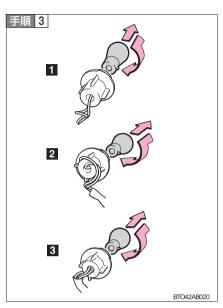
■ 後退灯、制動灯／尾灯、リヤ方向指示 兼 非常点滅灯

トランクを開け、カバーをはずす

ソケットを取りはずす

1 リヤ方向指示 兼 非常点滅灯

2 後退灯

3 制動灯／尾灯

手順 3

電球を押しながらまわして取りはずす

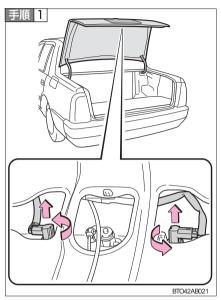
1 リヤ方向指示 兼 非常点滅灯

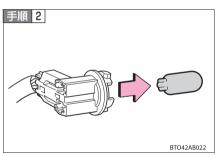
2 後退灯

3 制動灯／尾灯

手順 4 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

■ 番号灯

手順 1

トランクを開け、ソケットを取りはずす

手順 2

電球を取りはずす

手順 3 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

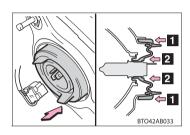
■ その他の電球

次の電球が切れたときは、トヨタ販売店で交換してください。

● ハイマウントストップライト

知識

■ヘッドライトのゴムカバーを取り付けるときは

確実にはめ込まれていることを確認してください

1 ゴムカバーの外周をしっかりとはめ込む

2 ゴムカバー内周（電球周り）を全周にわたり電球の金具部分が確認できるまで押し込む。

■レンズ内の水滴と曇り

次のようなときは、トヨタ販売店にご相談ください。ただし、レンズ内の一時的な曇りは、機能上問題ありません。

●レンズ内側に大粒の水滴が付いている

●ライト内に水がたまっている

■電球の交換について

電球の交換作業をするときに、部品などの破損が心配な方は、トヨタ販売店にご相談ください。

警告

■**電球を交換するときは**

- ライトは消灯してください。消灯直後は熱いため、交換しないでください。やけどをすることがあります。
- 電球のガラス部を素手でふれないでください。
プラスチック部または金属ケース部を持ってください。また、電球を傷付けたり、落下させたりすると球切れしたり破裂することがあります。
- 電球や電球を固定するための部品はしっかり取り付けてください。
取り付けが不十分な場合、発熱や発火、もしくはヘッドライト内部への浸水による故障や、レンズ内に曇りが発生することがあります。
- 電球、ソケット、電気回路、および構成部品を、修理または分解しないでください。
感電して、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

注意

■**お車の故障や火災を防ぐために**

電球が正しい位置にしっかりと取り付けられていることを確認してください。

■**LED ハイマウントストップライトについて**

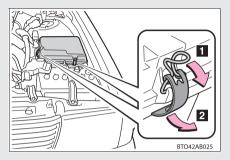
ハイマウントストップライトは数個の LED で構成されています。もし LED がひとつでも不灯になったときは、トヨタ販売店で交換してください。

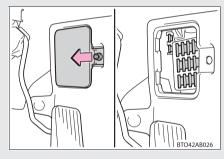
ヒューズの点検、交換

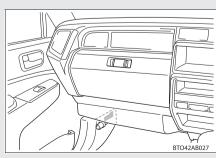
ライトがつかないときや電気系統の装置が働かないときは、ヒューズ切れが考えられます。ヒューズの点検を行ってください。

手順 1 エンジン スイッチを“ LOCK ”にする

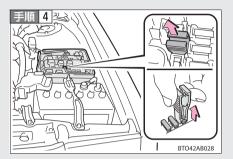
手順 2 ヒューズボックスを開ける

▶ エンジンルーム

フック（1）を引いて金具（2）をはずしてから、カバーを持ち上げる

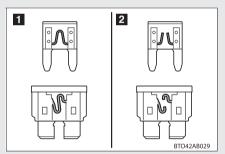
▶ 運転席足元

ノブを引いて、カバーを開ける

▶ 助手席足元

助手席足元のヒューズを交換するときは、部品の取りはずしが必要です。部品の取りはずしについてはトヨタ販売店にご相談ください。

手順 3 故障の状況から、点検すべきヒューズを「ヒューズの配置と負荷」（→P. 185）で確認する

車の仕様により装着されていないヒューズもあります。

ヒューズはずしでヒューズを引き抜く

ヒューズはずしは、エンジンルーム内ヒューズボックスに付いています。

手順 5 ヒューズが切れていないか点検する

1 正常

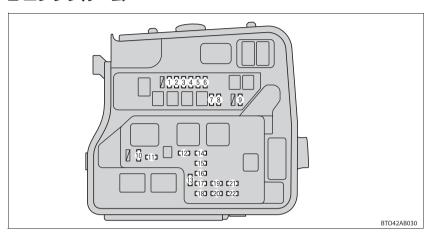
2 ヒューズ切れ

ヒューズボックスの表示に従い、規定容量のヒューズに交換します。

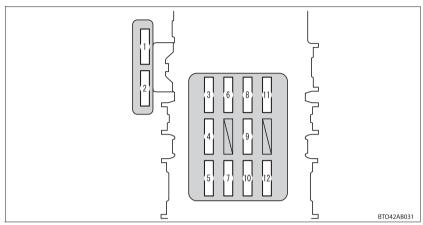
エンジンルーム内ヒューズの予備は、エンジンルーム内ヒューズボックスに付いています。

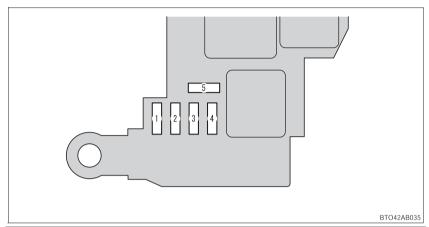
運転席足元ヒューズの予備は、エンジンルーム内ヒューズボックスのカバー裏側に付いています。

ヒューズの配置と負荷

■ エンジンルーム

	ヒューズ名称	アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
1	ETCS	10 A	エンジンコントロール
2	AM2	20 A	イグニッション
3	INJ	20 A	エンジンコントロール
4	DOME2	10 A	メーター、エアコン
5	VSV	15 A	エンジンコントロール
6	FUEL PMP	30 A	燃料ポンプ
7	RADIO NO.1	15 A	オーディオ
8	FOG	15 A	フォグライト
9	EFI NO.2	7.5 A	エンジンコントロール
10	HEAD LH	10 A	左側ヘッドライト
11	HEAD RH	10 A	右側ヘッドライト
12	DOME	10 A	インテリアライト、日報灯、時計
13	SPARE	ー	未使用
14	HAZ	15 A	非常点滅灯
15	EFI	15 A	エンジンコントロール、 Stop & Start システム

ヒューズ名称		アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
16	TAXI-B	10 A	無線機、料金メーター
17	ALT-S	5 A	オルタネーター
18	SPARE	―	未使用
19	SPARE	―	未使用
20	HORN	10 A	ホーン
21	SPARE	―	未使用
22	ABS3	5 A	ABS

■ 運転席足元

ヒューズ名称		アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
1	P/OUTLET	15 A	アクセサリーソケット
2	TAXI-ACC	7.5 A	無線機、料金メーター
3	TAXI-TAIL	7.5 A	社名灯、防犯灯
4	IGN	10 A	エンジン
5	TAIL	15 A	尾灯、車幅灯、番号灯、メーター照明
6	ECU-ACC	15 A	SRS エアバッグ
7	DEFOG-I ／ UP	7.5 A	リヤウインドウデフォッガー
8	STOP	15 A	制動灯
9	TAXI-IG	7.5 A	ー
10	ECU-IG	7.5 A	シフトロックコントロール
11	IG1	15 A	エンジン
12	WIPER	20 A	ワイパー＆ウォッシャー

■ 助手席足元

ヒューズ名称		アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
1	GAUGE	7.5 A	メーター
2	ST	5 A	スターター
3	A/C	10 A	エアコン
4	BACK-UP LP	7.5 A	後退灯
5	ACC	10 A	アクセサリー

知識

■ヒューズを交換したあと

●交換してもライト類が点灯しないときは、電球を交換してください。(→P. 171)

●取り替えても再度ヒューズが切れる場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■バッテリーからの回路に過剰な負荷がかかると

配線が損傷を受ける前にヒューズが切れるように設計されています。

警告

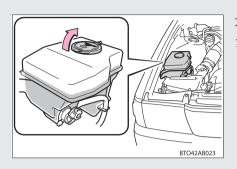
■車の故障や、車両火災を防ぐために

次のことをお守りください。
お守りいただかないと、車の故障や火災、けがをするおそれがあります。

●規定容量以外のヒューズまたはヒューズ以外のものを使用しないでください。

●必ずトヨタ純正ヒューズか同等品を使用してください。

●ヒューズやヒューズボックスを改造しないでください。

ウォッシャー液の補給

不足しているときは、ウォッシャー液を補給してください。

⚠ 警告

■ウォッシャー液を補給するときは

エンジンが熱いときやエンジンがかかっているときは、ウォッシャー液を補給しないでください。ウォッシャー液にはアルコール成分が含まれているため、エンジンなどにかかると出火するおそれがあり危険です。

⚠ 注意

■ウォッシャー液について

ウォッシャー液のかわりに、せっけん水やエンジン不凍液などを入れないでください。
車体の塗装にしみが付くおそれがあります。

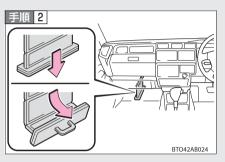
■ウォッシャー液の薄め方

必要に応じて水で薄めてください。水とウォッシャー液の割合は、ウォッシャー液の容器に表示してある凍結温度を参考にしてください。

エアコンフィルターの清掃、交換

エアコンを快適にお使いいただくために、エアフィルターを定期的に清掃、または交換してください。

■ 清掃のしかた

手順 1 エンジン スイッチを“ LOCK ”にする

フィルターを取りはずす

インストルメントパネルの助手席側下部からフィルターを下に引き出します。

手順 3 フィルターを清掃する

手順 4 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

知識

■エアフィルターの清掃について

エアフィルターは次の時期を目安に清掃してください。

清掃：３ヶ月ごと

■エアコンの風量が減少したときは

- フィルターの目づまりが考えられますので、フィルターを清掃してください。
- お湯による洗浄は行わないでください。フィルターは中性洗剤で洗浄したあと、水洗いするか、エアでゴミを吹き飛ばして洗浄してください。

■エアフィルターの交換について

適切な交換時期は、ご使用条件により異なります。

注意

■エアコンを使用するときの注意

フィルターを装着せずにエアコンを使用すると、故障の原因になることがあります。必ずフィルターを装着してください。

トラブルが起きたら 5

5-1. まず初めに

故障したときは..................... 194
非常点滅灯 196
発炎筒 197
けん引について..................... 199
イベントデータ
レコーダー.......................... 202

5-2. 緊急時の対処法

警告灯がついたときは 204
パンクしたときは................. 210
エンジンがかからない
ときは................................. 220
シフトレバーがシフト
できないときは
（オートマチック車）.......... 221
キーを無くしたときは 222
バッテリーがあがった
ときは................................. 223
オーバーヒートした
ときは................................. 229
スタックしたときは............. 231
車両を緊急停止するには 233

故障したときは

故障のときは速やかに下記の指示に従ってください。

非常点滅灯（→P. 196）を点滅させながら、車を路肩に寄せ停車する

非常点滅灯は、故障などでやむを得ず路上駐車する場合、他車に知らせるため使用します。

高速道路や自動車専用道路では、次のことに従う

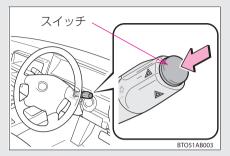
- 同乗者を避難させる
- 車両の 50m 以上後方に発炎筒（→P. 197）と停止表示板を置くか、停止表示灯を使用する
  - ・見通しが悪い場合はさらに後方に置いてください。
  - ・発炎筒は、燃料もれの際やトンネル内では使用しないでください。
- その後、ガードレールの外側などに避難する。

知識

■停止表示板・停止表示灯について

- 高速道路や自動車専用道路でやむを得ず駐停車する場合は、停止表示板または停止表示灯の表示が、法律で義務付けられています。
- 停止表示板・停止表示灯のご購入については、トヨタ販売店にお問い合わせください。

非常点滅灯

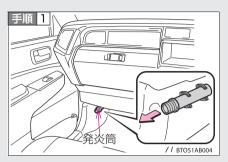
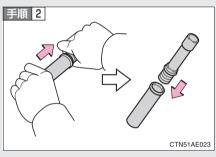
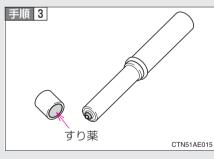
事故や故障のときなどにお使いください。

スイッチを押すとすべての方向指示灯が点滅し、もう一度押すと消灯します。

注意

■バッテリーあがりを防ぐために

エンジン停止中に非常点滅灯を長時間使用しないでください。

発炎筒

事故や故障のときなど、緊急時にお使いください。
発炎時間は約５分です。非常点滅灯と併用してお使いください。

助手席足元の発炎筒を取り出す

本体をまわしながら抜き、本体を逆さにして挿し込む

先端のフタを取り、すり薬と発炎筒の先端をこすり、着火させる

知識

■発炎筒の有効期限

表示してある有効期間が切れる前に、トヨタ販売店でお求めください。

警告

■**発炎筒が使用できない場所**

次の場所では、発炎筒を使用しないでください。
煙で視界が悪くなったり、引火するおそれがあるため危険です。

●トンネル内

●ガソリンなど可燃物の近く

■**発炎筒の取り扱いについて**

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

●使用中は、発炎筒を顔や体に向けたり、近付けたりしない

●発炎筒は、お子さまにさわらせない

けん引について

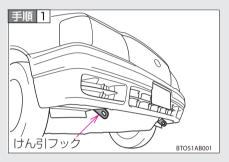
けん引は、できるだけトヨタ販売店または専門業者にご依頼ください。

■ けん引する前に

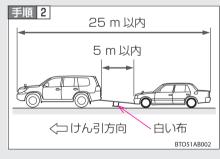
次の場合は、駆動系の故障が考えられるため、トヨタ販売店へご連絡ください。

- エンジンはかかるが、車が動かない
- 異常な音がする

■ けん引されるときは

手順 1

車体に傷が付かないようにロープをけん引フックにかける

前進方向でけん引してください。

手順 2

ロープの中央に白い布を付ける

布の大きさ：
0.3 m平方(30cm×30cm)以上

手順 3 けん引される車両のエンジンをかける

エンジンがかからないときは、エンジン スイッチを“ ACC ”または“ ON ”にしてください。

手順 4 けん引される車両のシフトレバーを N にしてから、パーキングブレーキを解除する

けん引中は、前の車の制動灯に注意しロープをたるませないようにしてください。

知識

■けん引フックの使用目的

けん引フックはけん引されるときに使うものであり、他車をけん引するためのものではありません。

警告

■けん引中の運転について

- けん引を行うときは細心の注意を払ってください。
  けん引フックやロープに過剰な負荷をかける急発進や、間違った車両操作は避けてください。
  けん引フックやロープが破損するおそれがあります。万一の場合、その破片が周囲の人などにあたり、重大な傷害を与えるおそれがあり危険です。
- けん引される車は、慎重に運転してください。
  エンジンが停止しているとブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが通常より重くなります。
- キーを抜いたり、エンジン スイッチを “ LOCK ” にしないでください。
  キーが抜けているとハンドルがロックされハンドル操作ができなくなり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。またマニュアル車はエンジンスイッチが “ LOCK ” だとキーが抜けるおそれがあります。

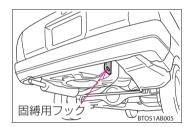
⚠注意

■車両の損傷を防ぐために

●けん引するときは次のことを必ずお守りください。

・ワイヤーロープは使用しない
・速度 30 km/h 以下、距離 80 km 以内でけん引する
・前進方向でけん引する
・サスペンション部などにロープをかけない

●この車で他車やボート（トレーラー）などをけん引しないでください。
駆動系部品などに重大な損傷を与えるおそれがあります。

■固縛用フックについて

固縛用フックは、船舶固縛で車両を輸送するときに使用するためのものです。けん引には絶対に使用しないでください。

■長い下り坂でけん引するときは

レッカー車でけん引してください。
レッカー車でけん引しないと、ブレーキが過熱し効きが悪くなるおそれがあります。

イベントデータレコーダー

お車には、最適な車両性能を維持するためのコンピュータを搭載しています。このコンピュータは、システムが正常に作動していることを診断すると共に、衝突のときや衝突に近い状態のときのデータを記録するイベントデータレコーダー（EDR）を装備しています。

記録するデータ

エアバッグコンピュータに搭載しているイベントデータレコーダーが、衝突のときや衝突に近い状態のときに下記のデータを記録します。

- エンジンの回転数
- 車速
- ブレーキペダルの操作状況
- アクセルペダルの操作状況
- オートマチックトランスミッションのシフトポジション
- 助手席乗員の有無
- 運転者および助手席乗員のシートベルト装着の有無
- 運転席のシート位置
- エアバッグ作動に関する情報
- エアバッグシステムの故障診断情報

イベントデータレコーダーは、会話などの音声や映像は記録しません。
（車種によっては記録される項目が異なります。）

データの開示について

トヨタおよびトヨタが委託した第三者は、イベントデータレコーダーに記録されたデータを、車の研究開発を目的に取得・流用することがあります。なお、トヨタおよびトヨタが委託した第三者は、取得したデータを次の場合を除き、第三者へ開示・提供することはありません。

- お車の使用者の同意がある場合
- 裁判所命令などの法的強制力のある要請に基づく場合
- 統計的な処理を行うなどの使用者や車が特定されないように加工したデータを研究機関などに提供する場合

警告灯がついたときは

警告灯が点灯または点滅したままの場合は、落ち着いて次のようにご対処ください。点灯・点滅しても、そのあと消灯すれば異常ではありません。ただし、同じ現象が再度発生した場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

ただちに停車してください。走行を続けると危険です。

次の警告はブレーキの故障のおそれがあることを意味します。ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。

警告灯	警告灯名・警告内容
(!)	**ブレーキ警告灯（警告ブザー※）** ブレーキ液の不足 パーキングブレーキが解除されていないときも点灯します。解除後、消灯すれば正常です。

※**パーキングブレーキ未解除走行時警告ブザー：**
パーキングブレーキを解除しないまま車を発進させ、車速が約 5 km/h 以上になると、警告ブザーが鳴ります。
警告ブザーが鳴ったときは、パーキングブレーキを解除してください。

ただちに停車してください。

次の警告は、お車へのダメージや思わぬ危険を招くおそれがあることを意味します。ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。

警告灯	警告灯名・警告内容
- +	**充電警告灯** 充電系統の異常 充電警告灯が点灯すると、リヤライト異常警告灯も異常の有無にかかわらず同時に点灯します。
	油圧警告灯 エンジンオイルの圧力異常

ただちに点検を受けてください。

次の警告は、放置すると、システムが正しく働かず、思わぬ危険や故障を招くおそれがあることを意味します。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

警告灯	警告灯・警告内容
	エンジン警告灯 エンジン電子制御システムの異常
	SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯 ・SRS エアバッグシステムの異常 ・プリテンショナー付きシートベルトシステムの異常
(ABS)	**ABS &ブレーキアシスト警告灯** ・ABS の異常 ・ブレーキアシストの異常
	リヤライト異常警告灯 ・尾灯の異常 ・制動灯の異常

ただちに処置してください。

次の警告はそれぞれの対処方法に従って処置し、警告灯が消灯するのを確認してください。

警告灯	警告灯・警告内容	対処方法
	半ドア警告灯 いずれかのドアが確実に閉まっていない	開いているドアを閉める
	燃料残量警告灯 燃料の残量（約 12 %以下）	燃料を補給
	運転席シートベルト非着用警告灯（警告ブザー※） 運転席シートベルトの非着用	シートベルトを着用

※**運転席シートベルト非着用警告ブザー：**
運転席シートベルトを非着用のまま車速が約 20 km/h 以上になると、警告ブザーが約 30 秒間断続的に鳴ります。そのあとも運転席シートベルトを非着用のままだと、ブザーの音がかわり約 90 秒間鳴ります。

LPG 表示灯が点滅したら（エンジン始動時）

それぞれの対処方法に従って処置し、表示灯が消灯するのを確認してください。（表示灯が消灯するまでの時間は気温やプロパン率などの条件によって異なります。）

表示灯	表示灯名・表示内容	対処方法
LPG	**LPG 表示灯（エンジン始動時、エンジン スイッチを“ ON ”にして、点滅したとき）** ・気温が高い ・登坂走行などの高負荷走行後	エンジン スイッチを“ ON ”のまま待ち、LPG 表示灯が消灯してからエンジンを始動する※ ・LPG　表示灯が点滅中にエンジンを始動すると、始動時間が長くなることがあります。 ・しばらくしても、LPG 表示灯が消灯しない場合は、「LPG 表示灯（走行中、点滅したとき）」の燃料冷却システム非装着車の対処方法に従ってください。

※プロパン率の高い燃料を使った場合は、LPG 表示灯の点滅の頻度が高くなることがあります。なお、これは異常を示すものではありません。

LPG 表示灯が点滅したら、ただちに処置してください。（走行中）

それぞれの対処方法に従って処置し、表示灯が消灯するのを確認してください。（表示灯が消灯するまでの時間は気温やプロパン率などの条件によって異なります。）

表示灯	表示灯名・表示内容	対処方法
LPG	**LPG 表示灯** **（走行中、点滅したとき）** LPG タンク内の温度が高くなっている	燃料冷却システム非装着車※[1]： 安全な場所に停車し、エンジンを停止する 停止後、10 分程経過したのち、エンジン スイッチを“ ON ”にして、LPG 表示灯が消灯していることを確認してから、エンジンを再始動する 燃料冷却システム装着車※[1]： ・ファン調整ダイヤルとエアコン調整ダイヤルが OFF の場合でも、表示灯が点滅すると同時に燃料冷却システムが作動するため、走行を継続し、LPG 表示灯が消灯することを確認する。（→P. 132）※[2] ・エンジンを停止した場合は「LPG 表示灯（走行中、点滅したとき）」の燃料冷却システム非装着車の対処方法に従ってください。

※[1]通常は表示灯が点滅することはありませんが、万一点滅した場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

※[2]燃料冷却システムの作動と同時にエアコンが作動します。車室温度が低下した場合は、ヒーター調整レバーで調整してください。

知識

■燃料冷却システムについて

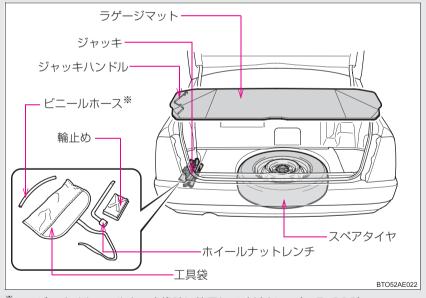
燃料冷却システムを作動させるためには、ファン調整ダイヤルとエアコン調整ダイヤルを OFF 以外の位置にしてください。燃料冷却システムはエンジン始動と同時に作動させると LPG タンク内の温度の上昇を防ぎます。

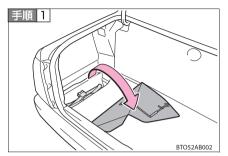
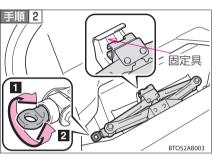
パンクしたときは

パンクしたタイヤを、備え付けのスペアタイヤと交換してください。
(タイヤについての詳しい説明は、P. 163 を参照してください)

■ ジャッキで車体を持ち上げる前に

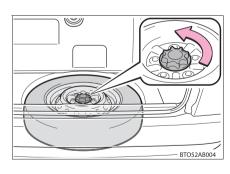
- 地面が固く平らな場所に移動する
- パーキングブレーキをかける
- オートマチック車はシフトレバーを P に入れる
- マニュアル車はシフトレバーを R に入れる
- エンジンを停止する
- 非常点滅灯を点滅させる

■ 工具とジャッキの搭載位置

※エンジンオイルフィルター交換時に使用してください。(→P. 239)

ジャッキの取り出し方

ラゲージマットの左側をめくる

1 締める

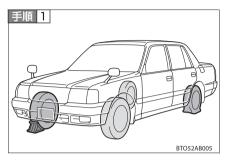
2 ゆるめる

格納するときは、ジャッキと固定具がかみ合うよう、確実に固定してください。

スペアタイヤの取り出し方

止め具を取りはずし、タイヤを取り出す

スペアタイヤを出し入れするときは、タイヤの両端をしっかりと持って出し入れしてください。(スペアタイヤ単体重量：約 20kg)

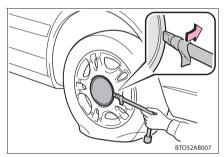
パンクしたタイヤの交換

BTO52AB005

輪止めをする

パンクしたタイヤ		輪止めの位置
前輪	左側	右側後輪うしろ
	右側	左側後輪うしろ
後輪	左側	右側前輪前
	右側	左側前輪前

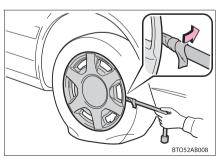
手順 2 ホイールキャップをはずす。

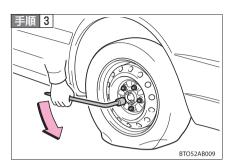
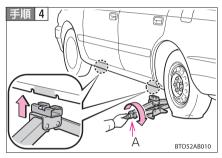
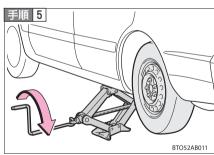
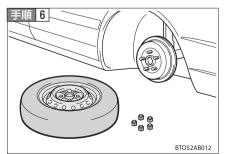
▶ センターオーナメント装着車（アルミホイール）

BTO52AB007

センターオーナメントをはずす

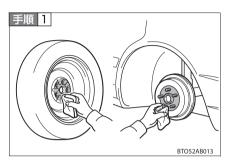
傷が付くのを防ぐため、図のように布などを巻いて保護してください。

▶ フルホイールキャップ装着車

BTO52AB008

フルホイールキャップをはずす

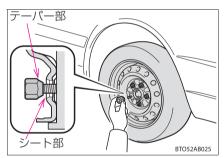
傷が付くのを防ぐため、図のように布などを巻いて保護してください。

ナットを少し(約 1 回転)ゆるめる

ジャッキの A 部を手でまわして、ジャッキ溝をジャッキセット位置にしっかりかける

タイヤが地面から少し離れるまで、車体を上げる

ナットすべてを取りはずし、タイヤを取りはずす

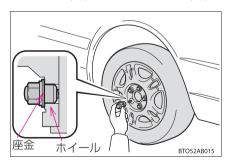
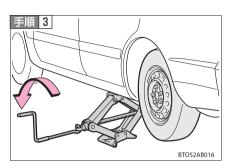
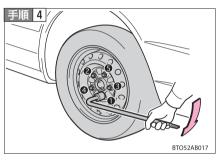
タイヤを直接地面に置くときは、ホイールの意匠面に傷が付かないよう意匠面を上にします。

タイヤの取り付け

ホイール接触面の汚れを拭き取る

ホイール接触面が汚れていると、走行中にナットがゆるみ、タイヤがはずれるおそれがあります。

手順 2 タイヤを取り付け、タイヤががたつかない程度まで手でナットを仮締めする

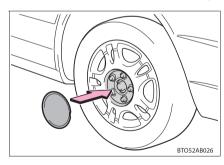
▶ スチールホイールからスチールホイールに替えるとき

ナットのテーパー部がホイールのシート部に軽くあたるまでまわす

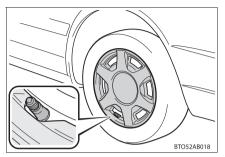
▶ アルミホイールからアルミホイールに替えるとき

ナットの座金がホイールにあたるまで仮締めする

車体を下げる

図の番号順でナットを2､3度しっかり締め付ける

締め付けトルク：

103 N・m (1050 kgf・cm)

手順 5 ホイールキャップを取り付ける。

▶ センターオーナメント装着車（アルミホイール）

センターオーナメントを取り付ける

▶ フルホイールキャップ装着車

フルホイールキャップを取り付ける

タイヤのバルブ(空気口)に切り欠きを合わせてフルホイールキャップを確実に取り付ける。

手順 6 すべての工具・輪止め・ジャッキ・パンクしたタイヤを収納する

知識

■スペアタイヤについて

空気圧を必ず点検してください。(→P. 242)

⚠警告

■ジャッキの使用について

ジャッキの取り扱いを誤ると、車が落下して死亡またはけがにつながるおそれがあります。
次のことをお守りください。

- ジャッキはタイヤ交換、タイヤチェーン取り付け、取りはずし以外の目的で使用しない
- 備え付けのジャッキは、お客様の車にしか使うことができないため他の車に使ったり、他の車のジャッキをお客様の車に使わない
- ジャッキセット位置に正しくジャッキがかかっていることを確かめる
- ジャッキで支えられている車の下に体を入れない
- ジャッキで支えられている状態で、エンジンをかけたり走らせない
- 車内に人を乗せたまま車を持ち上げない
- 車を持ち上げるときは、ジャッキの上または下にものを載せない
- 車を持ち上げるときは、タイヤ交換できる高さ以上に上げない
- 車の下にもぐり込んで作業する場合はジャッキスタンドを使用する

車両を下げる際は特に、ご自身や周囲の人がけがをしないよう注意してください。

警告

■タイヤ交換について

けがを負う危険を減らすため、次のことを必ずお守りください。

●ホイールキャップは直接手をかけて取らない
取り扱いには十分注意してください。けがをするおそれがあります。

●走行直後、ディスクホイールやブレーキまわりなどにはふれない
走行直後のディスクホイールやブレーキまわりは高温になっているため、タイヤ交換などで手や足などがふれると、やけどをするおそれがあります。

●ホイールの交換後は、すぐに 103 N・m(1050 kgf・cm)の力でナットを締める

●タイヤの取り付けには、使用しているホイール専用のナットを使用する

●ボルトやナットのねじ部や、ホイールのボルト穴につぶれや亀裂などの異常がある場合は、トヨタ販売店で点検を受ける

●ナットを取り付けるときは、必ずテーパー部を内側にして取り付ける (→P. 165)

●約 1,000km 走行したあとに、再度ナットを締め付けてゆるみがないことを確認する

上記のことをお守りいただかないと、ナットがゆるみ、ホイールがはずれ落ち、死亡や重傷を負う事故につながるおそれがあります。

■スペアタイヤを収納するときは

ボデーとスペアタイヤとのあいだに、指を挟まないように注意してください。

■スペアタイヤを使用するときは

お客様のお車専用になっているため、他の車には使用しないでください。

⚠ 注意

■パンクしたままの走行について

タイヤがパンクした状態で走行を続けないでください。
短い距離の運転でも、タイヤとホイールが修理できないほどの損傷になります。

■ホイールキャップを取りはずすときは

ホイールナットレンチ以外は使わないでください。ホイール、ホイールキャップが損傷するおそれがあります。

エンジンがかからないときは

正しいエンジンのかけ方（→P. 85）に従ってもエンジンがかからないときは、次のことをご確認ください。

■ スターターは正常にまわっているのにエンジンがかからない場合

次の原因が考えられます。

- 燃料が入っていない可能性があります。
  補給してください。
- メインバルブ、リターンバルブが閉まっている可能性があります。メインバルブ、リターンバルブを開けてから、正しい手順（→P. 85）に従って、エンジンをかけてください。
- 燃料過流防止弁が作動している可能性があります。
  （→P. 88）

■ スターターがゆっくりまわる／室内灯・ヘッドライトが暗い／ホーンの音が小さい、または鳴らない場合

次の原因が考えられます。

- バッテリーあがりの可能性があります。（→P. 223）
- バッテリーのターミナルがゆるんでいる可能性があります。

■ スターターがまわらない／室内灯・ヘッドライトが点灯しない／ホーンが鳴らない場合

次の原因が考えられます。

- バッテリーのターミナルがはずれている可能性があります。
- バッテリーあがりの可能性があります。（→P. 223）

処置のしかたがわからないとき、あるいは処置をしてもエンジンがかからないときは、トヨタ販売店にご連絡ください。

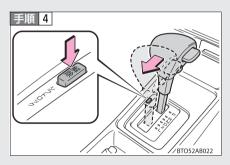
シフトレバーがシフトできないときは（オートマチック車）

ブレーキペダルを踏んだ状態でシフトレバーがシフトできない場合、シフトロックシステム（シフトレバーの誤操作を防ぐ装置）などの故障が考えられます。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。ただし一時的な処置として、次の方法でシフトレバーをシフトすることができます。

手順 1 パーキングブレーキをかける

手順 2 エンジン スイッチを“ ACC ”にする

手順 3 ブレーキペダルを踏む

手順 4

シフトロック解除ボタンを押す

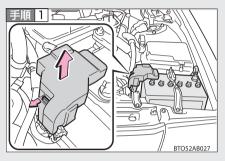
ボタンを押しているあいだはレバーをシフトできます。

キーを無くしたときは

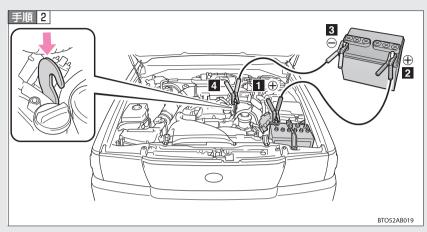
キーナンバーから、トヨタ販売店でトヨタ純正品の新しいキーを作ることができます。(→P. 22)

バッテリーがあがったときは

バッテリーがあがった場合、次の手順でエンジンを始動することができます。

ブースターケーブルのセットと 12V のバッテリー付き救援車があれば、次の手順に従って、エンジンを始動させることができます。

バッテリーの＋端子のカバーをはずす

ツメを引きながら、カバーをはずします。

手順 2

ブースターケーブルを次の順につなぐ

1 赤色のブースターケーブルを自車のバッテリーの＋端子につなぐ

2 赤色のブースターケーブルのもう一方の端を救援車のバッテリーの＋端子につなぐ

3 黒色のブースターケーブルを救援車のバッテリーの－端子につなぐ

4 黒色のブースターケーブルのもう一方の端をバッテリーから離れた、未塗装の金属部（図に示すような固定された部分）につなぐ

手順 3 救援車のエンジンをかけ、回転を少し高めにして、約 5 分間自車のバッテリーを充電する

手順 4 自車のエンジンをかける

エンジン警告灯が点灯していないことを確認してください。

手順 5 自車のエンジンが始動したら、ブースターケーブルをつないだときと逆の順ではずす

ブースターケーブルをはずしたあとは、バッテリーの＋端子のカバーをもとにもどしてください。

手順 6 十分に暖機し、エンジンの回転数を確認する

エアコン調整ダイヤルが OFF のとき：

オートマチック車は約 600 ～ 700rpm、マニュアル車は約 470 ～ 570rpm であることを確認してください。

ファン調整ダイヤルとエアコン調整ダイヤルが OFF 以外のとき：

オートマチック車は約 600 ～ 800rpm、マニュアル車は約 670 ～ 770rpm であることを確認してください。

ファン調整ダイヤルとエアコン調整ダイヤルの操作を繰り返しても、すぐに上記回転数に落ち着くことを確認してください。

タコメーター非装着車は、トヨタ販売店にて回転数を確認してください。

エンジンがかかっても、早めにトヨタ販売店で点検を受けてください。

知識

■バッテリーあがり時の始動について

安全のため押しがけによる始動はしないでください。
またオートマチック車は押しがけによる始動はできません。

■バッテリーあがりを防ぐために

- ●エンジンがかかっていないとき（Stop ＆ Start システム作動中を除く）は、ライトやエアコンの電源を切ってください。
- ●渋滞などで長時間止まっているときは、不必要な電装品の電源を切ってください。

■バッテリーがあがったときは

コンピュータに記憶されている情報が消去されます。バッテリーがあがったときはトヨタ販売店で点検を受けてください。

■バッテリーの充電について

バッテリーの電力は、車両を使用していないあいだも、一部の電装品による消費や自然放電のために、少しずつ消費されています。そのため、車両を長期間放置すると、バッテリーがあがってエンジンを始動できなくなるおそれがあります。（バッテリーは走行中に自動で充電されます）

警告

■バッテリーの引火または爆発を防ぐために

バッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発するおそれがあり危険ですので、火や火花が発生しないよう次のことをお守りください。

- ●ブースターケーブルは正しい端子または接続箇所以外に誤って接触させない
- ●ブースターケーブルは“＋”と“−”の端子を絶対に接触させない
- ●バッテリー付近では、喫煙したりマッチやライターなどで火を起こさない

■バッテリーの取り扱いについて

バッテリー内には有毒で腐食性のある酸性の電解液が入っており、また関連部品には鉛または鉛の混合物を含んでいるので、取り扱いに関し、次のことを必ずお守りください。

- ●バッテリーを取り扱うときは保護メガネを着用し、液 (酸) が皮膚･衣服･車体に付着しないようにする
- ●必要以上、顔や頭などをバッテリーに近付けない
- ●誤ってバッテリー液が体に付着したり目に入った場合、ただちに大量の水で洗い、すぐに医師の診察を受ける
  また、医師の診察を受けるまで、水を含ませたスポンジや布を患部にあてておく
- ●バッテリーの支柱、ターミナル、その他の関連部品の取り扱い後は手を洗う
- ●お子さまをバッテリーに近付けない

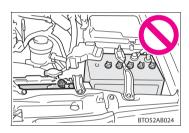
注意

■ブースターケーブルの取り扱いについて

ブースターケーブルを接続したり、取りはずすときは、冷却ファンやベルトに巻き込まれないように十分注意してください。

■バッテリーあがりのあと、エンジンを始動したときは

必ず十分に暖機し、エンジン回転数を確認してください（→P. 225）。エンジン回転数が異なっていると、エンジンのシステムが正常に作動せず、エンストする場合があります。

■バッテリー液の点検、バッテリー液の補充を行うときは

バッテリー液補充口のキャップをラジエーターの近くに置かないでください。キャップに付着したバッテリー液によりラジエーター部品が損傷するおそれがあります。

例えば、ラジエータータンク前面に貼り付けてあるエアシールスポンジのうえにキャップを置くと、バッテリー液がスポンジを通してラジエータータンクに付着し、損傷させるおそれがあります。

オーバーヒートしたときは

オーバーヒートしたときは：

手順 1 車を安全な場所に止め、エアコンを止める

手順 2 エンジンルームから蒸気が出ているか確認する

蒸気が出ている場合：

エンジンを停止し、蒸気が出なくなったら注意してボンネットを開ける

蒸気が出ていない場合：

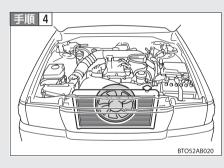
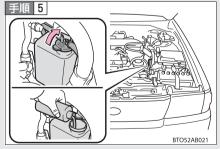
エンジンをかけたまま、注意してボンネットを開ける

手順 3 ラジエーター冷却用のファンが作動しているか確認する

ファンが作動している場合：

水温計の表示が下がってきてからエンジンを停止する

ファンが作動していない場合：

すぐにエンジンを停止して、トヨタ販売店に連絡する

エンジンが十分に冷えてから、冷却水の量やラジエーターコア部（放熱部）の冷却水漏れを点検する

冷却水が不足している場合は、冷却水を補給する（→P. 240）

冷却水が無い場合は、応急措置として水を補給します。

早めに最寄りのトヨタ販売店で点検を受けてください。

知識

■オーバーヒートとは

次の状態がオーバーヒートです。

●水温計の針がレッドゾーンに入ったり、エンジン出力が低下する

●エンジンルームから蒸気が出る

警告

■エンジンルーム点検中の事故やけがを防ぐために

●エンジンルームから蒸気が出ている場合は、蒸気が出なくなるまでボンネットを開けないでください。エンジンルーム内が高温になっているため、やけどなどの重傷を負うおそれがあります。

●エンジンがかかっているときは、手や着衣をファンやベルトからはなしてください。

●エンジンおよびラジエーターが熱いうちはラジエーターキャップを開けないでください。
高温の蒸気や冷却水が圧力によって噴き出し、やけどなどの重傷を負うおそれがあります。

注意

■冷却水を入れるときの注意

エンジンが十分に冷えてから入れてください。
冷却水はゆっくり入れてください。
エンジンが熱いときに急に冷たい冷却水を入れると、エンジンが損傷するおそれがあります。

スタックしたときは

ぬかるみや砂地、雪道などでタイヤが空転したり埋まり込んで動けなくなったときは、次の方法を試みてください。

手順 1 エンジンを停止する

パーキングブレーキをかけシフトレバーをオートマチック車は P、マニュアル車は N にしてください。

手順 2 タイヤ前後の土や雪を取り除く

手順 3 タイヤの下に木や石などをあてがう

手順 4 エンジンを再始動する

手順 5 オートマチック車は、シフトレバーを D または R に確実にいれ、注意しながらアクセルペダルを、マニュアル車は、シフトレバーを 1 速または R に確実にいれ、注意しながらアクセルペダルとクラッチペダルを操作する

警告

■脱出するときは

前進と後退を繰り返してスタックから脱出する場合、他の車、ものまたは人との衝突を避けるため周囲に何もないことを確認してください。
スタックから脱出するとき、車が前方または後方に飛び出すおそれがありますので、特に注意してください。

■シフトレバーを操作するときは

オートマチック車は、アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気を付けてください。
車が急発進し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

注意

■トランスミッションやその他の部品への損傷を避けるために

- タイヤが空転するのを避け、エンジンを空ぶかししないでください。
- 上記の方法で脱出できなかった場合、けん引による救援が必要です。

車両を緊急停止するには

万一、車が止まらなくなったときの非常時のみ、以下の手順で車両を停止させてください。

手順 1 ブレーキペダルを両足でしっかりと踏み続ける

ブレーキペダルを繰り返し踏まないでください。通常より強い力が必要となり、制動距離も長くなります。

手順 2 シフトレバーを N に入れる

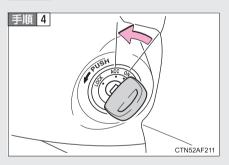
▶ シフトレバーが N に入った場合

手順 3 減速後、車を安全な道路脇に停める

手順 4 エンジンを停止する

▶ シフトレバーが N に入らない場合

手順 3 ブレーキペダルを両足で踏み続け、可能な限り減速させる

手順 4

エンジンスイッチを“ ACC ”にして、エンジンを停止する

手順 5 車を安全な道路脇に停める

⚠ 警告

■走行中にやむを得ずエンジンを切るときは

- ●ブレーキの効きが悪くなりハンドルが重くなるため、車のコントロールがしにくくなり危険です。エンジンを切る前に、十分に減速するようにしてください。
- ●キーを抜くとハンドルがロックされるため、キーは絶対に抜かないでください。

車両仕様 6

6-1. 仕様一覧
メンテナンスデータ
（油脂類の容量と銘柄）...... 236

メンテナンスデータ（油脂類の容量と銘柄）

使用するオイルの品質により、自動車の寿命は著しく左右されます。トヨタ車には、最も適したトヨタ純正オイル・液類（以下、「指定銘柄」といいます）のご使用をおすすめします。指定銘柄以外を使用される場合は、指定銘柄に相当する品質のものをご使用ください。

燃料

指定燃料	容量 [L]（参考値）
LP オートガス※1※2	94※3

※1 燃料冷却システム非装着車は、プロパン率（燃料のプロパン割合）冬期：70%以下、夏期：30%以下のオートガスを補給してください。

※2 燃料冷却システム装着車は、プロパン率（燃料のプロパン割合）100%のオートガスを使用できます。

※3 保安基準により、タンク容量の 85%が最大充てん量となります。

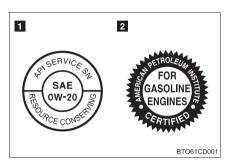
エンジンオイル

指定銘柄	容量 [L]（参考値※1）	
	オイルのみ交換	オイルとオイルフィルター交換
トヨタキャッスルモーターオイル　SN 0W-20※2 —API SN, RC/ILSAC　GF-5, SAE 0W-20 トヨタキャッスルモーターオイル　SN 5W-20 —API SN, RC/ILSAC　GF-5, SAE 5W-20 トヨタキャッスルモーターオイル　SN 5W-30 —API SN, RC/ILSAC　GF-5, SAE 5W-30 トヨタキャッスルモーターオイル　SN 10W-30 —API SN, RC/ILSAC　GF-5, SAE 10W-30	5.2	5.7

※1 エンジンオイルの容量は交換する際の目安です。オイル量の確認は、エンジンを暖機後に停止し、5 分以上経過してからレベルゲージで行ってください。

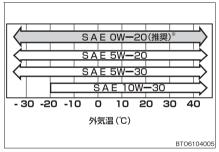
※2 0W-20 は、新車時に充填されており、上記表の銘柄の中では、最も省燃費性に優れるオイルです。

■ 推奨エンジンオイル

API 規格 SN/RC、SM/EC か、ILSAC 規格合格油をおすすめします。なお、ILSAC 規格合格油の缶には ILSAC CERTIFICATION（イルサックサーティフィケーション）マークが付いています。

1 API マーク

2 ILSAC CERTIFICATIONマーク

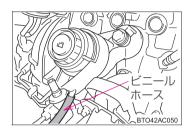
■ エンジンオイル推奨粘度

下記表に基づき、外気温に適した粘度のものをご使用ください。

※ 0W-20 は、新車時に充填されており、上図の中では、最も省燃費性に優れるオイルです。

オイル粘度について（例として 0W-20 で説明します）：

- 0W-20 の 0W は、低温時のエンジン始動特性を示しています。W の前の数値が小さいほど冬場や寒冷時のエンジン始動が容易になります。
- 0W-20 の 20 は、高温時の粘度特性を示しています。
  粘度の高い（数値が大きい）オイルは、高速または重負荷走行に適しています。

知識

■工具袋に付属のビニールホースについて

エンジンオイルフィルターを交換する際は、工具袋に付属のビニールホースを使用してください。(→P. 210)

エンジンオイル・フィルターの交換についてはトヨタ販売店にご相談ください。

注意

■工具袋に付属のビニールホースについて

- エンジンオイルフィルター交換時は、ホースから排出されるエンジンオイルが受け皿に落ちるようにしてください。
- ホースを使用したあとは、耐油性のある袋などに入れてから、工具袋に収納してください。オイルがもれ、お車が汚れる可能性があります。

ラジエーター

指定銘柄	容量 [L]（参考値）
トヨタ純正　スーパーロングライフクーラント 凍結保証温度 濃度 50%　　－35 ℃	7.8

オートマチックトランスミッション

指定銘柄	容量 [L]（参考値）
トヨタ純正オートフルードタイプ T-Ⅳ	7.2

交換が必要な際はトヨタ販売店にご相談ください。

マニュアルトランスミッション

指定銘柄（推奨粘度）	容量 [L]（参考値）
トヨタ純正 MG ギヤオイルスペシャルⅡ (API GL-3 SAE 75W-90)	2.6

ディファレンシャル

指定銘柄（推奨粘度）	LSD	容量 [L] （参考値）
トヨタ純正ハイポイドギヤオイル SX (API GL-5 SAE 85W-90)	LSD 非装着車	1.25
トヨタ純正ハイポイドギヤオイル LSD (API GL-5 SAE 85W-90)	LSD 装着車	1.25

パワーステアリング

指定銘柄	容量 [L]（参考値）
トヨタ純正パワーステアリングフルード	0.8

ブレーキ

■ ブレーキフルード

指定銘柄
トヨタ純正ブレーキフルード 2500H

■ ブレーキペダル

項目	基準値 [mm]
遊び	1 ～ 6
踏み込んだときの床板とのすき間※	75 以上

※ エンジン回転時に 490 N (50 kgf) の踏力をかけたときの床板とのすき間の最小値

■ パーキングブレーキ

項目	基準値（回数）
引きしろ 操作力 196 N (20 kgf) のときのノッチ※数	5 ～ 8

※ ノッチとは、パーキングブレーキをかけるときの節度（“カチッ”という音）のことです。

クラッチペダル

■ クラッチフルード

指定銘柄
トヨタ純正ブレーキフルード 2500H

■ クラッチペダル

項目	基準値 [mm]
遊び	5 ～ 15
切れたときの床板とのすき間※	25 以上

※クラッチが切れた位置からクラッチペダルを床いっぱいまで踏み込んだ位置までの動き量

ウォッシャー

容量 [L]（参考値）
2.5

タイヤ

タイヤサイズ	タイヤが冷えているときの空気圧 kPa (kg/cm^2)
195/65R15 91S	220 (2.2)

電球（バルブ）

	電球	W（ワット）数
車外	ヘッドライト（バルブタイプ：H4）	60／55
	車幅灯	5
	フォグライト*（バルブタイプ：H3）	55
	フロント方向指示 兼 非常点滅灯	21
	サイド方向指示 兼 非常点滅灯	5
	リヤ方向指示 兼 非常点滅灯	21
	制動灯／尾灯	21／5
	後退灯	21
	ハイマウントストップライト	LED ※
	番号灯	5
車内	インテリアライト	8
	日報灯	8
	トランクライト	3.8
	ドアカーテシライト	3
	グローブボックスライト*	1.2

※ LEDは、Light Emitting Diodes（発光ダイオード）の略で、半導体発光電子素子です。

車両仕様

型式	エンジン	駆動方式
TSS11	1TR-FPE	FR（後輪駆動）

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

さくいん

略語一覧 246

五十音順さくいん 247

症状別さくいん 255

アルファベット略語一覧

アルファベット略語	カタカナ表記
ABS	アンチロックブレーキシステム
ACC	アクセサリー
ECO	エコノミー／エコロジー
ECU	エレクトリックコントロールユニット
EDR	イベントデータレコーダー
INT	インターミッテント
LED	ライトエミッティングダイオード
LSD	リミテッドスリップディファレンシャル
O/D	オーバードライブ
SRS	サプリメンタルレストレイントシステム

五十音順さくいん

あ
アームレスト 152
アウターミラー
　調整 39
　ミラーヒーター 134
アンチロックブレーキ
　システム 118
アイドル ストップ
　アイドル ストップ システム 92
　アイドル ストップ
　　表示灯 77, 111
　時間表示 107, 108, 109
アクセサリーソケット 151

い
イグニッションスイッチ 85
イベントデータレコーダー 202
インジケーター 110
インテリアライト
　W 数 243
　スイッチ 141
インナーミラー 38

う
ウインカー
　W 数 243
　スイッチ 102
　電球の交換 176, 177, 178
ウインドウ
　ウォッシャー 116
　パワーウインドウ 41
　リヤウインドウ
　　デフォッガー 134
ウインドウロックスイッチ 42
ウォーニングライト 110
ウォッシャー
　液の補給 190
　スイッチ 116
　タンク容量 242
　冬の前の準備・点検 122

運転
　環境に配慮した運転 77
　寒冷時の運転 122
　正しい姿勢 51
　手順 74
運転席シートベルト
　非着用警告灯 206

え
エアコン
　フィルターの清掃、交換 191
　マニュアルエアコン 128
エアバッグ
　SRS エアバッグ 53
　一般的な警告 56
　改造・廃棄について 57
　警告灯 205
　作動条件 54
　正しい姿勢 51
　配置 53
エンジン
　イグニッションスイッチ 85
　エンジン回転計 106
　エンジンがかからない 220
　エンジン スイッチ 85
　オーバーヒート 229
　かけ方 85
　警告灯 205
　ボンネット 166
エンジンオイル
　冬の前の準備・点検 122
　油圧警告灯 204
　容量 237
エンジン スイッチ 85

お

オイル
　油脂類の容量と銘柄 236
応急用タイヤ (スペアタイヤ)
　空気圧..................................... 242
　取り出し方.............................. 211
オーディオ
　オーディオ.............................. 135
　調整 139
　ラジオ..................................... 137
オートマチックトランスミッション
　オーバードライブスイッチ....... 98
　オートマチックトランス
　　ミッション 97
　シフトレバーが
　　シフトできない 221
オーバーヒート（エンジン）....... 229
オープナー
　トランク.................................... 26
　補給口.. 44
　ボンネット.............................. 166
お子さまの安全のために
　ウインドウロックスイッチ....... 42
　お子さまのシートベルト着用... 34
　お子さまを乗せるときの
　　警告................................25，27
　シートベルトに関する警告....... 35
　チャイルドシート 68
　チャイルドシートの固定........... 68
　チャイルドプロテクター........... 24
　トランクに関する警告............... 27
　発炎筒の取り扱いに
　　関する警告 198
　バッテリーに関する警告........ 227
　パワーウインドウに
　　関する警告 42
オドメーター 107, 108

か

ガソリンスタンドでの情報..........260
ガレージジャッキ 169

き

キー
　イグニッションスイッチ 85
　エンジン スイッチ 85
　キーナンバー 22
　キーの構成 22
　キーを無くした.......................222
緊急時の対処
　エンジンがかからない............220
　オーバーヒートした................229
　キーを無くした.......................222
　警告灯がついた.......................204
　けん引 199
　故障したときは.......................194
　車両を緊急停止する................233
　シフトレバーが
　　シフトできない....................221
　スタックした 231
　発炎筒 197
　バッテリーがあがった............223
　パンクした 210

く

空気圧（タイヤ）..........................242
空調（エアコン）
　フィルターの清掃、交換........191
　マニュアルエアコン 128
区間距離計.........................107, 108
曇り取り
　フロントガラス.....................130
　ミラーヒーター.......................134
　リヤウインドウ
　　デフォッガー........................134
グローブボックス 144

け
警音器 105
計器
　メーター........................ 106, 108
警告灯・表示灯による警告
　ABS &ブレーキアシスト...... 205
　LPG.. 207
　SRS エアバッグ..................... 205
　エンジン................................ 205
　シートベルト非着用 206
　充電 204
　燃料残量................................ 206
　半ドア.................................... 206
　プリテンショナー 205
　ブレーキ................................ 204
　油圧 204
　リヤライト異常 205
警告ブザー
　シートベルト非着用 206
　パーキングブレーキ
　　未解除走行時 204
　ブレーキ................................ 204
　リバース................................. 99
化粧用ミラー 148
けん引.. 199

こ
交換
　エアコンフィルター 191
　タイヤ.................................... 210
　電球 171
　ヒューズ................................ 183
工具... 210
光軸調整ダイヤル...................... 114
後退灯
　W 数 243
　電球の交換............................ 178
子供専用シート.............................. 58
固縛用フック 201
コンソールボックス 145

さ
サイド方向指示灯
　W 数.......................................243
　スイッチ 102
　電球の交換 177
サービスコネクター 155
サンバイザー...............................147

し
シート
　シートの調整 29
　シートの調整に関する警告 29
　正しい姿勢 51
　チャイルドシートの固定 68
　ヘッドレスト 30
シートベルト
　お子さまの着用..........................34
　格納のしかた 32
　緊急時シートベルト
　　固定機構 33
　シートベルト
　　プリテンショナー....................33
　清掃・手入れ 161
　高さの調整 32
　正しい着用 32
　チャイルドシートの固定 68
　妊娠中の方の着用.......................33
　非着用警告灯 206
　プリテンショナー警告灯 205
室内灯
　W 数.......................................243
　スイッチ 141

シフトレバー
オートマチックトランス
ミッション……97
シフトレバーが
シフトできない……221
マニュアルトランス
ミッション……100
シフトロックシステム……221
車速
スピードメーター……106, 108
ジャッキ
ガレージジャッキ……169
車載ジャッキ……210
ジャッキハンドル……210
車幅灯
W 数……243
スイッチ……113
電球の交換……175
車両型式……243
車両仕様……236
収納装備……143
手動光軸調整ダイヤル……114
助手席シートアンダートレイ……146

す

Stop & Start システム
アイドル ストップ
表示灯……92, 111
時間表示……107, 108, 109
操作について……92
水温計……107, 109
スイッチ
アウターミラー……39
イグニッション……85
インテリアライト……141
ウインドウロック……42
エンジン……85
ドアロック……23
日報灯……142
ハザードライト……196
パワーウインドウ……41
非常点滅灯……196
フォグライト……115
ライト……113
リヤウインドウ
デフォッガー……134
ワイパー＆
ウォッシャー……116
スターター
エンジンの始動……86
スターターがまわらない……220
スタック
スタックした……231
ステアリングホイール
ステアリングロックを
解除する……89
調整……37
ストップライト
W 数……243
電球の交換……178
リヤライト異常警告灯……205
スピードメーター……106, 108
スペアタイヤ
空気圧……242
収納場所……211
スペック……236

せ
清掃
外装 158
シートベルト 161
内装 161
清掃用具入れ 154
制動灯
W 数 243
電球の交換 178
リヤライト異常警告灯 205
積算距離計 106, 107, 108
洗車 158
前照灯
W 数 243
光軸調整ダイヤル 114
スイッチ 113
電球の交換 172

そ
速度計 106, 108

た
ターンシグナルライト
W 数 243
スイッチ 102
電球の交換 176, 177, 178
タイヤ
空気圧 242
交換 210
スペアタイヤ 210
チェーン 123
点検 163
パンクした 210
冬用タイヤ 122
ローテーション 163
タコメーター 106

ち
チェーン 123
チャイルドシート
ISOFIX バーでの固定 70
シートベルトでの固定 69
チャイルドプロテクター 24
駐車ブレーキ 103

つ
ツール 210

て
手入れ
外装 158
シートベルト 161
内装 161
テールライト
W 数 243
スイッチ 113
電球の交換 178
リヤライト異常警告灯 205
デフォッガー
フロントガラス 130
ミラーヒーター 134
リヤウインドウ
デフォッガー 134
電球
W 数 243
交換 171
点検・部品交換 166

と
ドア
ドアカーテシライト 140
ドアガラス................................ 41
ドアロック 23
半ドア警告灯 206
ドアガラス 41
時計 149
トランクオープナー 26
トランクライト
W 数 243
作動について 26
トリップメーター... 106, 107, 108

に
荷物
積むときの注意 120
トランク 26
日報灯
W 数 243
スイッチ 142

ね
燃料
ガソリンスタンドでの情報 260
残量警告灯 206
種類 236
燃料計 49, 109
補給 44
容量 49, 236
燃料冷却システム
LPG 表示灯 207
作動について 132
燃料補給について 47

は
パーキングブレーキ 103
灰皿 150
ハイマウントストップライト
W 数 243
ハザードライト
W 数 243
スイッチ 196
電球の交換 176, 177, 178
発炎筒 197
バックアップライト
W 数 243
電球の交換 178
バッテリー
バッテリーあがりを
防ぐために........................ 226
バッテリーがあがった 223
冬の前の準備、点検 122
バニティミラー 148
バルブ
W 数 243
交換 171
パワーウインドウ 41
パンク
パンクした 210
番号灯
W 数 243
スイッチ 113
電球の交換 180
ハンドル
ステアリングロックを
解除する 89
調整 37

ひ

ヒーター
　マニュアルエアコン 128
　ミラーヒーター 134
非常点滅灯
　W 数 243
　スイッチ 196
　電球の交換 176, 177, 178
尾灯
　W 数 243
　スイッチ 113
　電球の交換 178
　リヤライト異常警告灯 205
ヒューズ 183
表示灯 111

ふ

フォグライト
　W 数 243
　スイッチ 115
　電球の交換 173
フック
　けん引フック 199
　固縛用フック 201
冬用タイヤ 122
ブレーキ
　警告灯 204
　パーキングブレーキ 103
　メンテナンスデータ 241
ブレーキアシスト 118
ブレーキパッドウェア
　インジケーター 84
フロアマット 153
フロントシート
　調整 29
　フロントシートの調整に
　　関する警告 29
フロント方向指示灯
　W 数 243
　スイッチ 102
　電球の交換 176

へ

ヘッドライト
　W 数 243
　光軸調整ダイヤル 114
　スイッチ 113
　電球の交換 172
ヘッドレスト（フロントシート）
　調整 30

ほ

ホイール 163, 242
方向指示灯
　W 数 243
　スイッチ 102
　電球の交換 176, 177, 178
ホーン 105
補給口 (燃料) 44
ボンネット 166

ま

マニュアルエアコン 128
マニュアル
　トランスミッション 100
マニュアル
　レベリングシステム 114

み

ミラー
　アウターミラー 39
　インナーミラー 38
　バニティミラー 148
　ミラーヒーター 134

め

メーター
表示切りかえボタン 109
メーター....................... 106, 108
メンテナンス
メンテナンスデータ 236

ゆ

油脂類 236

ら

ライセンスプレートライト
W 数 243
スイッチ................................. 113
電球の交換............................. 180
ライト
W 数 243
インテリアライト 141
グローブボックスライト........ 144
室内灯..................................... 140
電球の交換............................. 171
ドアカーテシライト 140
トランクライト 26
日報灯..................................... 142
ハザードライト 196
非常点滅灯............................. 196
フォグライト 115
ヘッドライト 113
方向指示灯............................. 102
ラジオ 137

り

リヤウインドウデフォッガー 134
リヤ方向指示灯
W 数 243
スイッチ................................. 102
電球の交換............................. 178

る

ルームミラー...................................38

れ

冷却水
容量...240
冷却装置
エンジンオーバーヒート 229

ろ

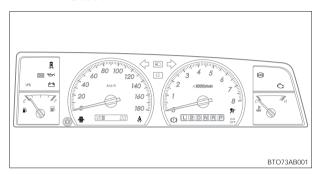
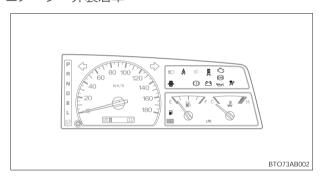
ロック
ウインドウロック......................42
シフトロックシステム 221
チャイルドプロテクター 24
ドアロック 23

わ

ワイパー
スイッチ 116

症状別さくいん

症状	ページ	参照項目
タイヤがパンクした	P. 210	パンクしたときは
エンジンがかからない	P. 220	エンジンがかからないときは
	P. 223	バッテリーがあがったときは
シフトレバーが動かない	P. 221	シフトレバーがシフトできないときは
水温計の針が赤いゾーンに入った	P. 229	オーバーヒートしたときは
エンジンルームから蒸気が立ちのぼった	P. 229	オーバーヒートしたときは
キーを無くした	P. 222	キーを無くしたときは
バッテリーがあがった	P. 223	バッテリーがあがったときは
ドアが施錠できない	P. 23	ドア
ぬかるみや砂地などで動けなくなった	P. 231	スタックしたときは
警告灯が点灯・点滅した	P. 204	警告灯がついたときは

▶ タコメーター装着車

▶ タコメーター非装着車

■表示灯による警告

LPG

LPG 表示灯

P. 207

■警告灯一覧

- ブレーキ警告灯 P. 204
- 充電警告灯 P. 204
- 油圧警告灯 P. 204
- エンジン警告灯 P. 205
- SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯 P. 205
- ABS &ブレーキアシスト警告灯 P. 205
- リヤライト異常警告灯 P. 205
- 半ドア警告灯 P. 206
- 燃料残量警告灯 P. 206
- 運転席シートベルト非着用警告灯 P. 206

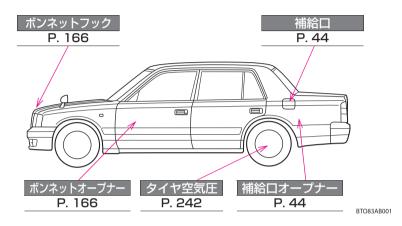
警告音が鳴った

■警告灯の点灯・点滅をご確認ください。（→P. 204）

■警告灯が点灯・点滅していないとき、または車外で警告音が鳴ったときは、次のことをご確認ください。

お車の状況	鳴ったときの状況	参照ページ
停車／駐車中	ドアを開けたとき	P. 89
走行中	シフトレバーを R にしたとき	P. 99
	ブレーキを踏んだとき	P. 84

ガソリンスタンドでの情報

燃料補給や交換などの際に必要となる項目をまとめてあります。

項目	内容		
燃料の容量 (参考値)	94 L※1		
燃料の種類	LP オートガス※2※3　P. 236		
タイヤが冷えているときの空気圧		前輪	後輪
	195/65R15 91S	220 (2.2) kPa (kg/cm²)	
エンジンオイル容量 (参考値)	オイルのみ交換時 :5.2 L オイルとフィルター交換時 :5.7 L		
エンジンオイルの種類	トヨタキャッスルモーターオイル ・ SN 0W-20 (API SN、RC/ILSAC GF-5、SAE 0W-20) ・ SN 5W-20 (API SN、RC/ILSAC GF-5、SAE 5W-20) ・ SN 5W-30 (API SN、RC/ILSAC GF-5、SAE 5W-30) ・ SN10W-30(API SN、RC/ILSAC GF-5、SAE 10W-30)		

※1 保安基準により、タンク容量の 85%が最大充てん量となります。

※2 燃料冷却システム非装着車は、プロパン率（燃料のプロパン割合）冬期：70%以下、夏期：30%以下のオートガスを補給してください。

※3 燃料冷却システム装着車は、プロパン率（燃料のプロパン割合）100%のオートガスを使用できます。

お問い合わせ、ご相談は
下記へお願いいたします。

トヨタ自動車株式会社　お客様相談センター

全国共通・フリーコール

フリーコール **0800-700-7700**

オープン時間　365日　9:00～18:00

所在地　〒450－8711　名古屋市中村区名駅4丁目7番1号

「個人情報保護方針」については、
http://www.toyota.co.jpにて掲載しております。

トヨタ自動車株式会社
http://toyota.jp

ヤ-26

M　43089
01999ー43089
IB-2013年１月７日
2012年７月２日　初版
2013年１月11日　３版
コンフォート